

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
	2年				
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
	2年				
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
	2年				
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
1年					
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	22
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	23
		1年			
キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	24	
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	25	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	26	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	27	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	28	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	30
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	31
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	32
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	33
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	34
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	35
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	36
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	37
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	38
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	39
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 原田 守治	2学期	1	1	40	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 原田 守治	2学期	1	1	41	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	42	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	43	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	44	
	1年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	46
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	50
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	51
		1年			
	教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	52
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	53
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	54
		1年			
	教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	55
		1年			
	教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	56
	1年				
教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	57	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	58	
	1年				
教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習II 稲月 正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習II 小野 憲昭	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習II 伊原木 大祐	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習II 二宮 正人	2学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習II 高西 敏正	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AI 日高 京子	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AI 小林 道彦	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AI 稲月 正	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 伊原木 大祐	1学期	2	2	75
		2年			
	教養演習 A I 伊野 憲治 他	1学期	2	2	76
		2年			
	教養演習 A I 徳永 政夫 他	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習 A I 小野 憲昭	1学期	2	2	78
		2年			
	教養演習 A II 日高 京子	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習 A II 小林 道彦	2学期	2	2	80
		2年			
	教養演習 A II 神原 ゆうこ	2学期	2	2	81
		2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	82
		2年			
	教養演習 A II 稲月 正	2学期	2	2	83
		2年			
	教養演習 A II 伊原木 大祐	2学期	2	2	84
		2年			
教養演習 A II 伊野 憲治 他	2学期	2	2	85	
	2年				
教養演習 A II 徳永 政夫 他	2学期	2	2	86	
	2年				
教養演習 A II 小野 憲昭	2学期	2	2	87	
	2年				
教養演習 B I 日高 京子	1学期	3	2	88	
	3年				
教養演習 B I 小野 憲昭	1学期	3	2	89	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	90
	小林 道彦	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	91
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー)	1学期	3	2	92
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	93
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	94
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	95
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	96
	徳永 政夫 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	97
	日高 京子	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2	98	
小野 憲昭	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	99	
小林 道彦	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	100	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー)	1学期	3	2	101	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	102	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	103	
伊原木 大祐	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	104	
伊野 憲治 他	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	105
		3年			
	プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	106
		2年			
	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	107
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	108
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	109
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	110
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	111
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	112
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	113
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	114
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	115
		1年			
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	116	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	117	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	118
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	119
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	120
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	121
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	122
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	124
		1年			
	共生の作法 山本 光英 、法学部教員	2学期	1	2	125
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	126
		1年			
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	127	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	128	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	129	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	130	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英 、法学部法律学科教員	2学期	1	2	131	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳 珍	1学期	1	2	132
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	133
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	134
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	135
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	136
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	137
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	138
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	139
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	140
		1年			
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	141	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	142	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	143	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	144	
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	145	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	146	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講I 田村 慶子 他	1学期	1	2	147
		1年			
	教養特講II 日高 京子 他	2学期	1	2	148
		1年			
教養特講III 小野 憲昭	2学期	1	2	149	
	1年				
教養特講IV 大杉 一之 他	2学期	1	2	150	
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	151
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	152
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	153
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	154
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	155
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	156
		1年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	157
		1年			
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	158	
	1年				
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	159	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	1学期	1	2	160
		1年			
	データ処理 佐藤 貴之	2学期	1	2	161
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 中尾 泰士	2学期	1	2	162
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	163
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	164
		2年			
プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	165	
	2年				
プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	166	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	167
		済1-A			
	英語I 船方 浩子	1学期	1	1	168
		済1-B			
	英語I 木梨 安子	1学期	1	1	169
		済1-C			
	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	170
		済1-D			
	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	171
		済1-E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	172
		済1-A			
英語II 船方 浩子	2学期	1	1	173	
	済1-B				
英語II 木梨 安子	2学期	1	1	174	
	済1-C				
英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	175	
	済1-D				
英語II 渡邊 晶子	2学期	1	1	176	
	済1-E				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III ダニー・ミン	1学期	1	1	177
		済1-A			
	英語III アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	178
		済1-B			
	英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	179
		済1-C			
	英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	180
		済1-D			
	英語III 十時 康	1学期	1	1	181
		済1-E			
	英語IV ダニー・ミン	2学期	1	1	182
		済1-A			
	英語IV アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	183
		済1-B			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	184
		済1-C			
英語IV ジャマール・ミラー	2学期	1	1	185	
	済1-D				
英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	186	
	済1-E				
英語V デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	187	
	済2-A				
英語V 永末 康介	1学期	2	1	188	
	済2-B				
英語V 葛西 宏信	1学期	2	1	189	
	済2-C				
英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	190	
	済2-D				
英語V 大塚 由美子	1学期	2	1	191	
	済2-E				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI 永末 康介	2学期	2	1	192
		済2 - A			
	英語VI 葛西 宏信	2学期	2	1	193
		済2 - B			
	英語VI 吉田 禎子	2学期	2	1	194
		済2 - C			
	英語VI 村田 希巴子	2学期	2	1	195
		済2 - D			
	英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	196
		済2 - E			
	英語VII クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	197
		済2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	198
		済2 - B			
	英語VII ロバート・マーフィ	1学期	2	1	199
		済2 - C			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	200
		済2 - D			
	英語VII 薬師寺 元子	1学期	2	1	201
		済2 - E			
英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	202	
	済2 - A				
英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	203	
	済2 - B				
英語VIII ロバート・マーフィ	2学期	2	1	204	
	済2 - C				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	205	
	済2 - D				
英語VIII マーニー・セイディ	2学期	2	1	206	
	済2 - E				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IX 伊藤 晃	1学期	3	1	207
		済営律政3年			
	英語X 杉山 智子	2学期	3	1	208
		済営律政3年			
英語XI ダニー・ミン	1学期	3	1	209	
	済営律政3年				
英語XII ダニー・ミン	2学期	3	1	210	
	済営律政3年				
■第二外国語	中国語I 正野 留加	1学期	1	1	211
		済営1年			
	中国語II 正野 留加	2学期	1	1	212
		済営1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	213
		済営1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	214
		済営1年			
	中国語V 野村 和代	1学期	2	1	215
		済営人律政群2年			
	中国語VI 野村 和代	2学期	2	1	216
		済営人律政群2年			
	中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	217
	済営人律政群2年				
中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	218	
	済営人律政群2年				
上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	219	
	英国済営比人3年				
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	220	
	英国済営比人3年				
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	221	
	英国済営比人3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級中国語Ⅳ 王 占華	2学期	3	1	222
		英国済営比人3年			
	朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	1	1	223
		済営群1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	1	1	224
		済営群1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	225
		済営群1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	226
		済営群1年			
	朝鮮語Ⅴ 金 貞愛	1学期	2	1	227
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅵ 金 貞愛	2学期	2	1	228
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅶ 金 貞淑	1学期	2	1	229
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語Ⅷ 金 貞淑	2学期	2	1	230
		済営比人律政群2年			
	上級朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	3	1	231
		英中国済営比人3年			
上級朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	3	1	232	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語Ⅲ 金 貞愛	1学期	3	1	233	
	英中国済営比人3年				
上級朝鮮語Ⅳ 金 貞愛	2学期	3	1	234	
	英中国済営比人3年				
ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	235	
	済営比人1年				
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	236	
	済営比人1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	237
		済営比人 1年			
	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	238
		済営比人 1年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	239
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	240
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	241
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	242
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	243
		済営 1年			
	ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	244
		済営 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	245
		済営 1年			
ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	246	
	済営 1年				
ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	247	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	248	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	249	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	250	
	済営比人律政 2年				
フランス語Ⅰ 坂田 由紀	1学期	1	1	251	
	済営 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II	2学期	1	1	252
	坂田 由紀	済営1年			
	フランス語III	1学期	1	1	253
	山下 広一	済営1年			
	フランス語IV	2学期	1	1	254
	山下 広一	済営1年			
	フランス語V	1学期	2	1	255
	中川 裕二	済営比人律政2年			
	フランス語VI	2学期	2	1	256
	中川 裕二	済営比人律政2年			
	フランス語VII	1学期	2	1	257
	山下 高之	済営比人律政2年			
	フランス語VIII	2学期	2	1	258
	山下 高之	済営比人律政2年			
	スペイン語I	1学期	1	1	259
	青木 文夫	済営1年			
	スペイン語II	2学期	1	1	260
	青木 文夫	済営1年			
	スペイン語III	1学期	1	1	261
	辻 博子	済営1年			
スペイン語IV	2学期	1	1	262	
トマス・マリン・アルビ	済営1年				
スペイン語V	1学期	2	1	263	
辻 光博	済営比人律政2年				
スペイン語VI	2学期	2	1	264	
辻 光博	済営比人律政2年				
スペイン語VII	1学期	2	1	265	
辻 博子	済営比人律政2年				
スペイン語VIII	2学期	2	1	266	
トマス・マリン・アルビ	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明 他	1学期 (ペア)	1	2	267
		留学生 1年			
	日本語 B 則松 智子	1学期 (ペア)	1	2	268
		留学生 1年			
	日本語 C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	269
		留学生 1年			
	日本語 D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	270
		留学生 1年			
日本事情 (人文) A 小林 浩明	1学期	1	2	271	
	留学生 1年				
日本事情 (人文) B ジェームズ・バスキント	2学期	1	2	272	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 国際教育交流センター 山崎 勇治	1学期	1	2	273	
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 国際教育交流センター 山崎 勇治	2学期	1	2	274	
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習 後藤 宇生	1学期	1	2	275
		1年			
	入門演習 迎 由理男	1学期	1	2	276
		1年			
	入門演習 牛房 義明	1学期	1	2	277
		1年			
	入門演習 朱 乙文	1学期	1	2	278
		1年			
入門演習 田村 大樹	1学期	1	2	279	
	1年				
入門演習 林田 実	1学期	1	2	280	
	1年				
入門演習 安岡 匡也	1学期	1	2	281	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	入門演習	1学期	1	2	282
	畔津 憲司	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	283
	後藤 宇生	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	284
	前田 淳	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	285
	牛房 義明	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	286
	朱 乙文	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	287
	安岡 匡也	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	288
	林田 実	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	289
	柳井 雅人	2年			
	基礎演習	2学期	2	2	290
	藤井 敦	2年			
	演習I	1学期	3	2	291
	牛房 義明	3年			
演習I	1学期	3	2	292	
城戸 宏史	3年				
演習I	1学期	3	2	293	
後藤 宇生	3年				
演習I	1学期	3	2	294	
後藤 尚久	3年				
演習I	1学期	3	2	295	
朱 乙文	3年				
演習I	1学期	3	2	296	
田中 淳平	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習I 田村 大樹	1学期	3	2	297
		3年			
	演習I 林田 実	1学期	3	2	298
		3年			
	演習I 藤井 敦	2学期	3	2	299
		3年			
	演習I 前田 淳	1学期	3	2	300
		3年			
	演習I 松永 裕己	1学期	3	2	301
		3年			
	演習I 魏 芳	1学期	3	2	302
		3年			
	演習I 迎 由理男	1学期	3	2	303
		3年			
	演習I 安岡 匡也	1学期	3	2	304
		3年			
	演習I 柳井 雅人	1学期	3	2	305
		3年			
	演習I 畔津 憲司	1学期	3	2	306
		3年			
演習I 奥山 恭英	1学期	3	2	307	
	3年				
演習II 牛房 義明	2学期	3	2	308	
	3年				
演習II 城戸 宏史	2学期	3	2	309	
	3年				
演習II 後藤 宇生	2学期	3	2	310	
	3年				
演習II 後藤 尚久	2学期	3	2	311	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習II	2学期	3	2	312
	朱 乙文	3年			
	演習II	2学期	3	2	313
	田中 淳平	3年			
	演習II	2学期	3	2	314
	田村 大樹	3年			
	演習II	2学期	3	2	315
	林田 実	3年			
	演習II	2学期	3	2	316
	藤井 敦	3年			
	演習II	2学期	3	2	317
	前田 淳	3年			
	演習II	2学期	3	2	318
	松永 裕己	3年			
	演習II	2学期	3	2	319
	魏 芳	3年			
	演習II	2学期	3	2	320
	迎 由理男	3年			
演習II	2学期	3	2	321	
安岡 匡也	3年				
演習II	2学期	3	2	322	
柳井 雅人	3年				
演習II	2学期	3	2	323	
畔津 憲司	3年				
演習II	2学期	3	2	324	
奥山 恭英	3年				
演習III	1学期	4	2	325	
牛房 義明	4年				
演習III	1学期	4	2	326	
城戸 宏史	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習III 後藤 宇生	1学期	4	2	327
		4年			
	演習III 後藤 尚久	1学期	4	2	328
		4年			
	演習III 朱 乙文	1学期	4	2	329
		4年			
	演習III 田中 淳平	1学期	4	2	330
		4年			
	演習III 田村 大樹	1学期	4	2	331
		4年			
	演習III 林田 実	1学期	4	2	332
		4年			
	演習III 藤井 敦	2学期	4	2	333
		4年			
	演習III 前田 淳	1学期	4	2	334
		4年			
	演習III 松永 裕己	1学期	4	2	335
		4年			
	演習III 魏 芳	1学期	4	2	336
		4年			
演習III 迎 由理男	1学期	4	2	337	
	4年				
演習III 安岡 匡也	1学期	4	2	338	
	4年				
演習III 柳井 雅人	1学期	4	2	339	
	4年				
演習IV 牛房 義明	2学期	4	2	340	
	4年				
演習IV 城戸 宏史	2学期	4	2	341	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	演習IV	2学期	4	2	342
	後藤 宇生	4年			
	演習IV	2学期	4	2	343
	後藤 尚久	4年			
	演習IV	2学期	4	2	344
	朱 乙文	4年			
	演習IV	2学期	4	2	345
	田中 淳平	4年			
	演習IV	2学期	4	2	346
	田村 大樹	4年			
	演習IV	2学期	4	2	347
	林田 実	4年			
	演習IV	2学期	4	2	348
	藤井 敦	4年			
	演習IV	2学期	4	2	349
	前田 淳	4年			
	演習IV	2学期	4	2	350
	松永 裕己	4年			
演習IV	2学期	4	2	351	
魏 芳	4年				
演習IV	2学期	4	2	352	
迎 由理男	4年				
演習IV	2学期	4	2	353	
安岡 匡也	4年				
演習IV	2学期	4	2	354	
柳井 雅人	4年				
統計学I	1学期	1	2	355	
林田 実	1年				
統計学II	2学期	1	2	356	
林田 実	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■専門基本科目	ミクロ経済学I	2学期	1	2	357
	朱 乙文	1年			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	358
	田中 淳平	1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	359
	朱 乙文	2年			
	マクロ経済学II	1学期	2	2	360
	田中 淳平	2年			
	経済学入門A	1学期	1	2	361
	後藤 宇生	1年Aグループ			
	経済学入門A	1学期	1	2	362
	魏 芳	1年Bグループ			
	経済学入門B	1学期	1	2	363
	田中 淳平	1年Aグループ			
	経済学入門B	1学期	1	2	364
	安岡 匡也	1年Bグループ			
	数学	1学期	1	2	365
	吉田 祐治	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	366
	白石 和孝	1年Bグループ			
簿記論I	1学期	1	2	367	
岡部 勝成	1年Aグループ				
簿記論II	2学期	1	2	368	
白石 和孝	1 - 3				
簿記論II	2学期	1	2	369	
任 章	1 - 2				
簿記論II	2学期	1	2	370	
岡部 勝成	1 - 1				
現代日本経済入門A	1学期	1	2	371	
前田 淳	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門基本科目	現代日本経済入門B 柳井 雅人	2学期	1	2	372
		1年			
	計量経済学I 休講	2学期	2	2	
		2年			
	計量経済学II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	日本経済史I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	日本経済史II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	プログラミング 中山 仁	1学期	2	2	373
		2年			
	プログラミング 中山 仁	2学期	2	2	374
		2年			
	経済学史I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	経済学史II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	業界研究I 土山 勇 他	1学期	3	2	375
		3年			
業界研究II 浦野 恭平	集中	3	2	376	
	3年				
ビジネス英語A (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	377	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	378	
	3年				
ビジネス英語A 林 裕二	1学期	3	2	379	
	3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	380	
	3年選抜クラス				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	381
		3年			
	ビジネス英語B 林 裕二	2学期	3	2	382
		3年			
	外書講読 山崎 好裕	2学期	3	2	383
		3年			
	国際比較経済史I 山崎 勇治	1学期	3	2	384
		3年			
	国際比較経済史II 張 暁紅	集中	3	2	385
		3年			
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	産業組織論I 後藤 宇生	1学期	2	2	386
		2年			
	産業組織論II 後藤 宇生	2学期	2	2	387
		2年			
	国際経済論I 魏 芳	1学期	2	2	388
		2年			
	国際経済論II 魏 芳	2学期	2	2	389
		2年			
	財政学I 安岡 匡也	1学期	3	2	390
		3年			
財政学II 安岡 匡也	2学期	3	2	391	
	3年				
ファイナンス論 休講	2学期	3	2		
	3年				
公共経済学 休講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	環境経済学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	392
	水戸 康夫	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	393
	水戸 康夫	3年			
	国際金融論I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際金融論II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	国際マクロ経済学I	1学期	3	2	394
	末永 勝昭	3年			
	国際マクロ経済学II	2学期	3	2	395
	末永 勝昭	3年			
■地域経済学系	経済地理学I	1学期	2	2	396
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	397
	柳井 雅人	2年			
	地域経済I	1学期	2	2	398
	田村 大樹	2年			
	地域経済II	2学期	2	2	399
	田村 大樹	2年			
	北九州経済分析I	1学期	2	2	400
	城戸 宏史	2年			
	北九州経済分析II	2学期	2	2	401
	城戸 宏史	2年			
地域政策	2学期	2	2	402	
松永 裕己	2年				
中国経済	1学期	3	2	403	
園 康寿	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	地域金融分析	2学期	3	2	
	休講	3年			
	都市財政I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	都市財政II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	東アジア経済論	1学期	3	2	404
	尹 明憲	3年			
	アメリカ経済	2学期	3	2	
	休講	3年			
■選択科目B	経営学入門	1学期	1	2	405
	福井 直人	1年A/Bグループ			
	民法総則	1学期(ペア)	1	4	406
	中山 布紗	1年			
	法学総論	1学期	1	2	407
	堀田 泰司	1年			
	コンピュータシステム	2学期	1	2	408
	武藤 直彦	1-1、1-2、1-3			
	企業論基礎	2学期	1	2	409
	山岡 敏秀	1年A/Bグループ			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	410
	浦野 恭平	1年A/Bグループ			
	福祉国家論	2学期	1	2	411
	狭間 直樹	1年			
都市経済論	1学期	1	2	412	
古賀 哲矢	1年				
データ構造	2学期	2	2	413	
隈本 覚	2年				
データベース	1学期	2	2	414	
池田 欽一	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	マーケティングI 別府 俊行	1学期	2	2	415
		2年			
	マーケティングII 別府 俊行	2学期	2	2	416
		2年			
	原価計算論I 梅澤 俊浩	1学期	2	2	417
		2年			
	原価計算論II 梅澤 俊浩	2学期	2	2	418
		2年			
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	419
		2年			
	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	420
		2年			
	簿記論III 白石 和孝 他	2学期	2	2	421
		2年			
	工業簿記 大崎 美泉	集中	2	2	422
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	423
		2年			
	社会福祉原論 小賀 久	2学期	2	2	424
		2年			
国際協力論I 藤井 大輔	1学期	2	2	425	
	2年				
国際協力論II 千知岩 正継	2学期	2	2	426	
	2年				
公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	427	
	2年				
雇用関係法 柳澤 旭	1学期	2	2	428	
	2年				
労使関係法 柳澤 旭	2学期	2	2	429	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	政治学	集中	2	2	430
	松田 憲忠	2年			
	途上国開発論		2	2	
	休講	2年			
	国際法I	1学期	2	2	431
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	432
	二宮 正人	2年			
	政治過程論	2学期	2	2	433
	濱本 真輔	2年			
	企業活動と法	1学期	2	2	434
	今泉 恵子	2年			
	自治体政策研究	2学期	2	2	435
	楢原 真二	2年			
	地方行政改革論		2	2	
	休講	2年			
	社会サービス法	2学期	2	2	436
	津田 小百合	2年			
	経済学特殊講義A	1学期	3	2	437
	畔津 憲司	3年			
経済学特殊講義B	2学期	3	2	438	
畔津 憲司	3年				
企業ファイナンスI	1学期	3	2	439	
松本 守	3年				
企業ファイナンスII	2学期	3	2	440	
松本 守	3年				
証券市場論	1学期	3	2	441	
山岡 敏秀	3年				
国際経営A	1学期	3	2	442	
王 効平	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	国際経営B 王 効平	2学期	3	2	443
	3年				
	オペレーションズ・リサーチ 齋藤 朗宏	1学期	3	2	444
	3年				
	情報ネットワーク 隈本 覚	1学期	3	2	445
	3年				
	経営学特殊講義A 高橋 秀直	2学期	3	2	446
	3年				
	経営学特殊講義B 休講	2学期	3	2	
	3年				
	コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	447
	3年				
	地域企業分析 浦野 恭平 他	2学期	3	2	448
	3年				
	中小企業論 休講	1学期	3	2	
	3年				
	地方自治法 村上 英明	1学期(ヘア)	3	4	449
	3年				
	環境法 生野 正剛	集中	3	2	450
	3年				
独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	451	
3年					
アジア地域統合論 篠崎 香織	2学期	3	2	452	
3年					
会社法I 高橋 衛	1学期	3	2	453	
3年					
会社法II 高橋 衛	2学期	3	2	454	
3年					
都市政策論 古賀 哲矢	2学期	3	2	455	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	環境政策論		3	2	
	休講	3年			
	情報公開・個人情報保護法	1学期	3	2	456
	森脇 敦史	3年			
	Advanced Reading and Discussion	2学期	3	2	457
	デニス・ジョーンズ	3年			
	ビジネス英語研究	2学期	3	2	458
	松田 智	3年			
	上級英語I	1学期	3	2	459
	クレイグ・ランバート	3年			
	上級英語II	2学期	3	2	460
	アンデリユー・ジッツマン	3年			
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	461
	綾部 眞道	2年			
	職業指導B	2学期	2	2	462
	綾部 眞道	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	463
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	464
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	465
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	466
	見玉 弥生	3年			
	公民科教育法A	1学期	2	2	467
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法B	2学期	2	2	468
飯田 直弘	2年				
商業科教育法A	1学期	2	2	469	
綾部 眞道	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	商業科教育法B 綾部 眞道	2学期	2	2	470
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	471
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	472
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	473
		2年			
	教育実習1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	474
		3年			
教育実習2 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	475	
	4年				
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	476	
	2年				
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	477	
	2年				
教職実践演習 未開講	2学期	4	2		
	4年				
■選択科目	教育心理学 村上 太郎	2学期	2	2	478
		2年			
	教育実習3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	479
		4年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	480	
	2年				
教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	481	
	2年				
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	482
		2年			

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
■教職に関する科目 ■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	483
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	484
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	485
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	486
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	487
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	488
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	489
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	言語と認知 (昼のみ開講)		2	2	
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	490	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	491
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	492
	内田 若希	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年			
	大学論・学問論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
法律の読み方		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
社会調査	2学期	1	2	493	
稲月 正	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	494	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	教養演習AⅡ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	教養演習BⅠ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	495
	二宮 正人	3年			
	プロジェクト演習Ⅰ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	プロジェクト演習Ⅱ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1	2	
	休講	1年			
	動物のみかた		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	地球の生いたち	2学期	1	2	496
	長井 孝一	1年			
	自然史へのいざない		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	くらしと化学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代人のこころ	1学期	1	2	
	休講	1年			
数のたのしみ		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
私たちと宗教		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
思想と現代	1学期	1	2	497	
伊原木 大祐	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	498
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	499
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	500
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学	2学期	1	2	501	
小野 憲昭	1年				
市民活動論	2学期	1	2	502	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	503	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	504
	伊原木 大祐	1年			
	現代社会の諸問題	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	505
	金 鳳珍	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際紛争と国連	1学期	1	2	506
	戸蒔 仁司	1年			
	民族・エスニシティ問題		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	開発と統治	1学期	1	2	507
	三宅 博之 他	1年			
	グローバル化する経済	2学期	1	2	
	休講	1年			
	テロリズム論		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
国際社会と日本	1学期	1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	508	
小林 道彦	1年				
歴史の読み方II	1学期	1	2		
休講	1年				
そのとき世界は		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
戦後の日本経済		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	509
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 新村昭雄 (文)、三宅博之 (法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	510
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講IV (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	511
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	512
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 休講	1学期	1	2	
		1年			
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	513	
	1年				
日本国憲法 徳永 達哉	2学期	1	2	514	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	515
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	516
	1年				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	517
	1年				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	518
	済営夜 1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	519
	済営夜 1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	520
	済営夜 1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	521
	済営夜 1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	522
	済営夜 2年				
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	523
	済営夜 2年				
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	524
	済営夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	525	
済営夜 2年					
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	526
	済営律政夜 1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	527
済営律政夜 1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ 王 占華	1学期	1	1	528
		済営律政夜 1年			
	中国語Ⅳ 王 占華	2学期	1	1	529
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ 金 貞愛	1学期	1	1	530
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 光子	2学期	1	1	531
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	532
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	533
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	534
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	535
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅲ 芳之内 雄二	1学期	1	1	536
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅳ 芳之内 雄二	2学期	1	1	537
		済営律政夜 1年			
ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	538	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	539	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	540	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	541	
	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅰ 福島 勲	1学期	1	1	542	
	済営律政夜 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	543
		済営律政夜 1年			
	フランス語III 山下 高之	1学期	1	1	544
		済営律政夜 1年			
	フランス語IV 山下 高之	2学期	1	1	545
		済営律政夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	546
		済営律政夜 1年			
スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	547	
	済営律政夜 1年				
スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	548	
	済営律政夜 1年				
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	549	
	済営律政夜 1年				
■専門教育科目 ■専門基本科目	基礎演習 後藤 尚久	1学期	2	2	550
		2年			
	演習I 後藤 尚久	1学期	3	2	551
		3年			
	演習II 後藤 尚久	2学期	3	2	552
		3年			
	演習III 前田 淳	1学期	4	2	553
		4年			
	演習IV 前田 淳	2学期	4	2	554
		4年			
統計学I 林田 実	1学期	1	2	555	
	1年				
統計学II 林田 実	2学期	1	2	556	
	1年				
ミクロ経済学I 朱 乙文	2学期	1	2	557	
	1年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	マクロ経済学I 田中 淳平	2学期	1	2	558
		1年			
	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	559
		2年			
	マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	560
		2年			
	経済学入門A 牛房 義明	1学期	1	2	561
		1年			
	経済学入門B 後藤 尚久	1学期	1	2	562
		1年			
	数学 吉田 祐治	1学期	1	2	563
		1年			
	簿記論I 池口 慶一	1学期	1	2	564
		1年			
	簿記論II 池口 慶一	2学期	1	2	565
		1年			
	現代日本経済入門A 休講(昼のみ開講)	1学期	1	2	
		1年			
	現代日本経済入門B 休講(昼のみ開講)	2学期	1	2	
		1年			
計量経済学I 藤井 敦	2学期	2	2	566	
	2年				
計量経済学II 藤井 敦	2学期	2	2	567	
	2年				
日本経済史I 迎 由理男	1学期	2	2	568	
	2年				
日本経済史II 迎 由理男	2学期	2	2	569	
	2年				
プログラミング 休講	1学期	2	2		
	2年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基本科目	経済学史I	1学期	3	2	570
	平方 裕久	3年			
	経済学史II	2学期	3	2	571
	平方 裕久	3年			
	業界研究I	1学期	3	2	
	(昼間開講)	3年			
	業界研究II	集中	3	2	
	(昼間開講)	3年			
	ビジネス英語A	1学期	3	2	572
	林 裕二	3年			
	ビジネス英語B	2学期	3	2	573
	林 裕二	3年			
	国際比較経済史I	1学期	3	2	
	休講	3年			
国際比較経済史II	2学期	3	2		
休講	3年				
■選択科目A ■現代経済学系	金融論I	1学期	2	2	574
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	575
	後藤 尚久	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	576
	後藤 宇生	2年			
	産業組織論II	2学期	2	2	577
	後藤 宇生	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	578
	魏 芳	2年			
国際経済論II	2学期	2	2	579	
魏 芳	2年				
財政学I	1学期	3	2		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目A ■現代経済学系	財政学II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	ファイナンス論	2学期	3	2	580
	武田 寛	3年			
	公共経済学	2学期	3	2	581
	牛房 義明	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	582
	牛房 義明	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	583
	立石 揚志	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	584
	立石 揚志	3年			
	国際金融論I	1学期	3	2	585
	前田 淳	3年			
国際金融論II	2学期	3	2	586	
前田 淳	3年				
国際マクロ経済学I	1学期	3	2	587	
末永 勝昭	3年				
国際マクロ経済学II	2学期	3	2	588	
末永 勝昭	3年				
■地域経済学系	経済地理学I	1学期	2	2	589
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	590
	柳井 雅人	2年			
	地域経済I	1学期	2	2	591
	田村 大樹	2年			
地域経済II	2学期	2	2	592	
田村 大樹	2年				
北九州経済分析I	1学期	2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A ■地域経済学系	北九州経済分析II	2学期	2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	地域政策	2学期	2	2	
	休講	2年			
	中国経済	1学期	3	2	
	休講	3年			
	地域金融分析	2学期	3	2	
	休講	3年			
	都市財政I	1学期	3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	都市財政II	2学期	3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
	東アジア経済論	1学期	3	2	593
	尹 明憲	3年			
アメリカ経済	2学期	3	2	594	
山崎 好裕	3年				
■選択科目B	経営学入門	1学期	1	2	595
	晴山 英夫	1年			
	民法総則		1	4	
	休講	1年			
	法学総論	1学期	1	2	596
	徳永 達哉	1年			
	コンピュータシステム	2学期	1	2	597
	泉 英明	1年			
	企業論基礎	2学期	1	2	598
	中間 信博	1年			
マネジメント論基礎	2学期	1	2	599	
西村 香織	1年				
福祉国家論	2学期	1	2	600	
狭間 直樹	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目B	都市経済論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	データ構造	2学期	2	2	601
	隈本 覚	2年			
	データベース	1学期	2	2	602
	池田 欽一	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	603
	別府 俊行	2年			
	マーケティングII	2学期	2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	原価計算論I	1学期	2	2	604
	梅澤 俊浩	2年			
	原価計算論II	2学期	2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	605
	西澤 健次	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
	簿記論III	2学期	2	2	
	休講 (昼のみ開講)	2年			
工業簿記	1学期	2	2		
休講 (昼のみ開講)	2年				
地方自治論	1学期	2	2	606	
森 裕亮	2年				
社会福祉原論	2学期	2	2	607	
深谷 裕	2年				
国際協力論I	1学期	2	2		
休講	2年				
国際協力論II	2学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	公共政策論		2	2	
	休講	2年			
	雇用関係法		2	2	
	休講	2年			
	労使関係法	1学期	2	2	608
	柳澤 旭	2年			
	政治学		2	2	
	休講	2年			
	途上国開発論	1学期	2	2	609
	三宅 博之	2年			
	国際法I		2	2	
	休講	2年			
	国際法II	2学期	2	2	610
	二宮 正人	2年			
	政治過程論		2	2	
	休講	2年			
	企業活動と法		2	2	
	休講	2年			
	自治体政策研究		2	2	
	休講	2年			
地方行政改革論	2学期	2	2	611	
森 裕亮	2年				
社会サービス法	2学期	2	2	612	
津田 小百合	2年				
経済学特殊講義A	1学期	3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
経済学特殊講義B	2学期	3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
企業ファイナンスI	1学期	3	2	613	
内田 交謹	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業ファイナンスII 内田 交瞳	2学期	3	2	614
		3年			
	証券市場論 休講	1学期	3	2	
		3年			
	国際経営A 休講	1学期	3	2	
		3年			
	国際経営B 休講	2学期	3	2	
		3年			
	オペレーションズ・リサーチ 休講(昼のみ開講)	1学期	3	2	
		3年			
	情報ネットワーク 休講	1学期	3	2	
		3年			
	経営学特殊講義A 休講(昼のみ開講)	1学期	3	2	
		3年			
	経営学特殊講義B 休講(昼のみ開講)	2学期	3	2	
		3年			
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	615	
	3年				
地域企業分析 休講(昼のみ開講)		3	2		
	3年				
中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	616	
	3年				
地方自治法 休講		3	4		
	3年				
環境法 (昼間開講)		3	2		
	3年				
独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	617	
	3年				
アジア地域統合論 休講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	会社法I 高橋 衛	1学期	3	2	618
	3年				
	会社法II 高橋 衛	2学期	3	2	619
	3年				
	都市政策論 休講		3	2	
	3年				
	環境政策論 申 東愛	2学期	3	2	620
	3年				
	情報公開・個人情報保護法 (昼間開講)		3	2	
	3年				
	Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	621
	3年				
ビジネス英語研究 松田 智	1学期	3	2	622	
3年					
上級英語I 休講 (昼間開講)		3	2		
3年					
上級英語II 休講 (昼間開講)		3	2		
3年					
■自由科目	職業指導A 綾部 眞道	1学期	2	2	623
	2年				
	職業指導B 綾部 眞道	2学期	2	2	624
2年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	625
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	626
	1年				
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	627	
2年					
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	628
3年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■教職に関する科目 ■必修科目	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	629
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	630
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	631
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	632
	黒田 耕司	3年			
教育実習 2	1学期	4	2	633	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	634	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	635	
楠 凡之	2年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	636
	田島 司	2年			
	教育実習 3	1学期	4	2	637
	恒吉 紀寿	4年			
教育法規	2学期	3	2	638	
児玉 弥生	3年				
障害児の心理と指導	2学期	2	2		
休講	2年				

経済学部 経済学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	道徳教育の研究	1学期	2	2	639
	黒田 耕司	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	640
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体现しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場面に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・スティグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 視覚と言語1 (未定)
- 第3回 視覚と言語2 (未定)
- 第4回 視覚と言語3 (未定)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得 (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか：失語症・失文法 (漆原)
- 第7回 ことばはどのように処理されるのか：文法と脳科学 (漆原)
- 第8回 前半のまとめ (漆原)
- 第9回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子1 (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子2 (日高)
- 第11回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子3 (日高)
- 第12回 特別講義 (外部講師)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性 (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論 (杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への姿勢・取り組み...20% 課題...16% × 5
外部講師を含む5名の担当教員の課題をすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージI
- 3回 日本的身体のイメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I（プラトンからホメロスへ）
- 6回 古代ギリシャの身体観II（ソポクレス）
- 7回 古代ギリシャの身体観III（通時的総括）
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査（2回～8回の内容確認テストを実施）
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate.（ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。）」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
 キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第 11 回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時での身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 対応マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話対応	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができないばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

別途、掲示で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷・山本編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房、轟・杉野『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを購入しておくこと。社会科学の入門的講義を受講しておくこと好ましい。

履修上の注意 /Remarks

テキストを持参して授業に出席のこと。(テキストなしでは、授業はまったく理解できません。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世の中の様々に興味を持つこと。新聞、書物などを読むこと。

キーワード /Keywords

社会調査、統計(量的)調査、質的調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとして、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム(1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム(2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム(3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム(4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジユメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジユメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索をしてみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・テネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。
このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス,バレーボールとアナリストの役割
- 第2回 スキルチェック

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

10人程度を予定（最大で12人まで）しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。
原則としてIとIIはセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

【アナリスト】【レセプション】【ディグ】【トランジッション】【記号化：技術・エリア】【評価】【データ分析】

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2~7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 8~14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
- 第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
- 第4・5回 グループワークの説明/視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
- 第6・7・8回
ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
- 第9・10・11回
テキスト輪読と議論
- 第12・13・14回
レポート構想報告
- 第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
 レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある（税込760円）。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。
このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を駆使し、実際のゲームを分析していくことで、応用力の涵養を目指します。分析対象としては、FIVB World Cup 2011の全日本の試合を題材とすることを予定しています。試合の流れを正しく掴み、チームの特徴やゲームの勝因・敗因の分析、攻略策だけでなく今後の課題（チーム・個人の強化策）の検討などを通じ、戦術理解も含めたバレーボールを科学する力をさらに高めていてもらいたいと思っています。
またこのプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていてほしいと思っています。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 FIVB World Cup 2011【分析対象チーム・試合の選定：グループ分け】
- 第3回 事例①『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【ゲーム観賞】
- 第4回 事例②『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【プレゼンの例】
- 第5回 ゲーム分析の基礎①：映像の収集と利用
- 第6回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方
- 第7回 ゲーム分析の基礎③：戦評等の集め方とその活用方法
- 第8回 グループ作業①：映像に基づくゲーム分析
- 第9回 グループ作業②：抽出したデータ等を基にした攻略策・強化策の検討
- 第10回 グループ作業③：プレゼン内容の最終確認
- 第11回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション①
- 第12回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション②
- 第13回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション③
- 第14回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

10人程度（最大で12人まで）を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

【ゲーム分析】 【FIVB】 【World Cup 2011】 【全日本】 【公式記録】 【攻略策】 【強化策】

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等をを目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回に着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接遇スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接遇スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
第2回 質的調査についての基本的説明
第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
(第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など)
第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
(インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377～436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索をしてみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 A II もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 7～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。
AIIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとirkんだ実習の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
第4回 実習（再）：記憶を語ること、記録されること
第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
テキスト：箕浦康子（編）『フィールドワークの技法と実際』
第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー（輪読と議論）
（受講者の関心にに応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。）
第11・12・13回 事前準備のために（輪読と議論）
テキスト：谷岡一郎『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 1 0 回健康増進プログラムの実施
- 1 1 回健康増進プログラムの評価
- 1 2 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 1 3 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 1 4 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索をしてみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄 『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨 『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確認するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほか、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 第2回～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・Ⅱ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BⅠの続きである。BⅠで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村俶（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入：共同体と排除の概念について
- 第2回 『社会とは何か』 第5章
- 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
- 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
- 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

BⅡのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BⅠを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨーロッパの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわ知らずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習 B I」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習Ⅱ）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学（学期内の特定の日曜日を使い2回実施）を予定しています。

- 1回 ガイダンス
 - 2回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
 - 3回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
 - 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
 - 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
 - 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
 - 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
 - 8回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
 - 9回 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
 - 10回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
 - 11回 アンモナイトの古生物学（御前）：【系統進化】【携帯と機能】【恐竜】
 - 12回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【化石】【進化】【古生態】
 - 13回 まとめ
- ※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。レポートで成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

講義に遅れてきたり、出席確認後に退席したりすることがないように、各自マナーを守るよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

化学的知識の理解は、情報を受ける側の基礎知識と情報提供者の工夫によって進みます。化学の専門家でない者には、一つの知識の習得には多面的アプローチが重要です。したがって、講義は、高校理科・化学のまとめと補足のあと教科書より与えられるテーマをもとに、色々補足を加えて、身近な化学知識への興味と理解が進むように努めたい。

教科書 /Textbooks

学説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「沈黙の春」R. Carson著、青木梁一訳 (新潮社)
「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1) 化学の基礎1
- 2) 化学の基礎2
- 3) 香水(香料)・・・においの正体、対置する消臭
- 4) 砂糖と甘味料・・・甘味料の役割
- 5) 味と調味料・・・味覚と化学 (教科書外)
- 6) アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 7) コレステロール、脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 8) くすり・・・毒と薬は紙一重
- 9) 洗剤・・・洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10) 塩化ビニル・・・プラスチックと高分子の歴史
- 11) プラスチック・・・環境問題 (教科書+教科書外)
- 12) ダイオキシン・・・化学汚染、大気汚染・・・都市問題
- 13) 無機窒素肥料・・・化学肥料と有機肥料
- 14) 二酸化炭素・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、地球温暖化、地球の歴史
- 15) 未来社会と化学 (教科書+教科書外)

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートや小テスト30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。テレビ新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義することがあるので、ノートはきちんととること。小テストやレポートが、ノートのに基づくこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは違い、文化的観点を取り入れた「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数が X になるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
 - 8回 究極の折り紙
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
 - 11回 「テーマから考えてみよう」
 - 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中の飲食・私語は禁止。
 携帯電話の電源は切り、鞆の中にしまっておくこと。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらい授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代のコマーシャル、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点をしばり、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法)[~第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
 『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
 必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人権論 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

ジェンダー論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狹間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事小額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全て授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 嚮田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(1)【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(2)【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 関幸彦『武士の誕生』（日本放送協会出版）
- 元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』（NTT出版）
- R・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』（講談社）
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』（吉川弘文館）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり？【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

人物と時代の歴史【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義名：東南アジアを知ろう！

現代東南アジア諸国の政治を、独立まで遡って、国民国家建設、民主化、経済発展などのプロセスと問題点、アジア経済危機のインパクトとその後の体制変動などを概観する。東南アジア諸国の急激な経済発展や社会変動、アジア経済危機の影響など政治と経済の相互作用とともに、貧困層、女性や子供など弱者に対する視点も講義する。ダイナミックに変動する東南アジアを学ぶ面白さを味わってもらいたい。

テキストには、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』（ミネルヴァ書房）を使用する。講義担当者はすべてこの本の執筆者であり、若手・中堅の東南アジア研究者である。受講生は執筆者の講義を直接受けることができるだけでなく、執筆者の東南アジアとの関わりなど興味深いエピソードも聞くことができよう。

教科書 /Textbooks

○清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年3月、予定価格2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記教科書の各章末に参考文献、読書案内が明記されている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	授業の説明、オリエンテーション	田村慶子
第2回	東南アジア概論(1)：東南アジアとは何か	田村慶子
第3回	東南アジア概論(2)：国民国家の創造と課題	田村慶子
第4回	マレーシア(1)：独立と国家建設	篠崎香織
第5回	マレーシア(2)：開発体制とその溶解	篠崎香織
第6回	インドネシア(1)：独立と国家建設	横山豪志
第7回	インドネシア(2)：開発体制とその溶解	横山豪志
第8回	ミャンマー(1)：独立と国家建設	伊野憲治
第9回	ミャンマー(2)：独裁政治体制と民主化	伊野憲治
第10回	シンガポール(1)：独立と国家建設	田村慶子
第11回	シンガポール(2)：開発体制と民主化	田村慶子
第12回	ASEAN(1)：ASEANの結成と発展	清水一史
第13回	ASEAN(2)：アジア地域統合に向けて	清水一史
第14回	(講演)「東南アジアの人身取引被害者保護・自立支援プロジェクト」未定	
第15回	まとめと補足	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト100%・・・各担当者の2回目の講義終了時に30分ほどのテストを実施する。
病気などのやむを得ない理由でテストを受験できなかった受講生にのみ、レポート提出を認める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各講義の前に、必ず『東南アジア現代政治』の該当する章を読んで予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義を通して、多様な民族、言語、文化、宗教が存在する豊穡で国際色豊かな東南アジアを好きになってください！

キーワード /Keywords

東南アジア、植民地支配、国民国家建設、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ASEAN

教養特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

宇宙、生命、そして人間について、未知なるもののロマンから最先端の技術にいたるまでのトピックに触れながら、科学的なものの見方や考え、文系の学生にとって必要な理科系の素養、社会で通用する「科学力」を身につけることを目標とする。

20世紀後半から21世紀にかけて宇宙と生命の科学は飛躍的に進歩した。それによってもたらされた成果は先端技術という形で我々の身近な生活にすでに着々と根付いている。これらをただ享受するだけではなく、根底にある科学の面白さを理解し学ぶことは、これからの社会を生き抜くために極めて重要である。これまで理科系科目が苦手だった学生もそうでない学生も、本講によって新たな世界への扉を開き、視野の広い心豊かな人間形成の一助としてほしい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎、小久保英一郎編著 岩波ジュニア新書、2004年
- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生物学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

宇宙の話題は中尾、生命と人間の話題は日高が担当する。【】内はキーワード。

- 1回 ガイダンス
- 2回 この宇宙のすがた 【ビッグバン】 【銀河】 【太陽系】 【ダークマター・ダークエネルギー】
- 3回 星の一生と生命との関わり 【星の進化】 【元素】 【超新星爆発】 【ブラックホール】
- 4回 太陽の活動と地球の環境 【太陽黒点】 【コロナ】 【太陽風】 【オーロラ】 【地球磁場】
- 5回 天体の衝突と生物絶滅 【小惑星】 【彗星】 【クレータ】 【生物絶滅】
- 6回 もう1つの地球をさがす 【太陽系外惑星探査】 【地球外生命体】
- 7回 地球上の生物共通の文字DNAとは? 【DNA】 【RNA】 【タンパク質】
- 8回 生命の誕生と生物の進化 【生物多様性】 【突然変異】
- 9回 人類のルーツを探れ 【ミトコンドリア】 【DNA鑑定】
- 10回 ヒトゲノム計画で何が見えたか 【DNA解析】 【遺伝情報】 【遺伝と疾患】
- 11回 遺伝子組換え作物は安全か 【遺伝子組換え技術】 【ベクター】
- 12回 ヒトは何歳まで生きられるか 【テロメア】 【老化】 【がん】
- 13回 クローン人間は作れるのか 【ES細胞・iPS細胞】 【再生医療】 【生命操作】
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50%、レポート50% (中尾25%・日高25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の「教養特講III」は、警察実務に携わっておられる方々によるオムニバス方式の講義です。警察実務家の立場から犯罪の発生状況及びその対策等について説明をしていただき、社会の安全・安心の確保に関する政策の一つである「犯罪等の統制に関する政策」の現状と課題を考察することを目的としています。警察本部長をはじめ、公共の安全と社会秩序を維持するために日々活動している現役警察官等の方々から、治安状況や警察活動・公務の重要性、法律が具体的に実社会でどのように役立っているかを学ぶとともに、安全で安心して生活できる社会を実現するにはどうすればよいかを考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 警察捜査
- 2回 科学捜査
- 3回 捜査をめぐる諸問題
- 4回 警察捜査の概要と福岡県警の取組み
- 5回 性犯罪等の身近な犯罪を抑止するために
- 6回 被害者支援の在り方
- 7回 少年犯罪と少年警察、暴走族・少年犯罪対策
- 8回 犯罪の起きにくい社会づくり
- 9回 組織犯罪対策① 暴力団対策
- 10回 組織犯罪対策② 外国人組織犯罪・テロ対策
- 11回 組織犯罪対策③ 薬物対策
- 12回 サイバー犯罪の現状と対策
- 13回 交通警察
- 14回 新しい犯罪対策
- 15回 まとめ

* 毎回講師をお招きしてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは講師の都合等により変更になることがあります。変更があればその都度お伝えします。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取組み・・・10% 期末レポート・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法律学の“い・ろ・は”」
 私たちが生活する現代社会では、非常に多くの事柄が「法」によって規律されています。普段はその存在すら感じられない「法」ですが、ひとたびトラブルが起きると、事態は「法」にしたがって解決されることとなります。このような社会では、多少なりとも法律知識があることで、日常生活において、あるいは仕事の場において、トラブルを避けることができ、またトラブルに適切に対処することができるようになります。そうした法律知識を必要に応じて探し出し、法律を活用し、場合によっては弁護士などの助力を受けるにも、法律学のスキル（技術）が必要となります。法律が「お約束の世界」だからです（これが法律を疎遠にしている主因でもあるのですが……）。
 平穏で快適な生活をおくるためにも、いざという時に「法」を味方にすることができる法律学の基礎技術を学んでいきましょう。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。必要に応じて、適宜、レジユメを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）ISBN：9784335313127
 和田寛伸ほか『法律学の礎』（八千代出版・2002.10）ISBN：9784842912530

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 とても身近な日常の出来事と「法」との関係
- 4回 法律学への入門① 法律を学ぶ＝条文の暗記？
- 5回 法律学への入門② 法令の種類と体系
- 6回 法律学への入門③ 法律を使う～佐藤君は犬？～
- 7回 法律学への入門④ 考える材料を集めよう～なぜ資料が必要か～
- 8回 法律学への入門⑤ 法令を探す
- 9回 法律学への入門⑥ 文献資料を探す
- 10回 紛争を解決するには～訴訟と裁判外紛争解決手続～
- 11回～12回 裁判へ行ってみよう～民事裁判と刑事裁判～
- 13回～14回 法理論と紛争解決
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み...50% レポート...50%
 講義の中でさまざまな「問いかけ」がなされます。恥ずかしがらずに、自分の考えを明らかにしてください。内容の良し悪しではなく、「積極性」を評価したいと考えています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマを考える「素材（具体的事例）」を提供します。その事例を、自分だったら「どう解決する」のか、そう解決するのは「なぜか」をまとめてみてください。自分なりの考えの筋道と、講談（講壇？）で披露される解決策とを比較して、その違いを考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

この科目と並行して、「法律の読み方」「現代正義論」「現代社会の諸問題」「共生の作法」といった、法学系科目を履修されることをお勧めします。それらの科目で、ここで学んだスキルをさらに磨いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的事例をもとに、法を用いた解決策を考えていきます。この科目で問われる問題に、残念ながら、「正解」はありません。「自分だったらどう解決するか」、「なぜその解決が支持されるのか」を、じっくり考えてみてください。そして、周りの人々と意見を交換してください。法の正当性は、社会、すなわち多数の人々の確信によって支えられていることです。だからこそ多数の人との意見交換が重要となります。

キーワード /Keywords

法学 法学入門

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・境域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社、2006年）
- 小熊英二『〈日本人〉の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「日本」の誕生
- 第3回 「鎖国」と「開国」
- 第4回 蝦夷地とアイヌ
- 第5回 近代化とアイヌ社会
- 第6回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第7回 幕藩体制下の琉球から沖縄へ
- 第8回 中世における対馬と朝鮮
- 第9回 対馬からみた日朝関係
- 第10回 〈日本人〉の境界
- 第11回 「帝国日本」の形成(1)【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成(2)【朝鮮】
- 第13回 「帝国日本」の形成(3)【満洲】
- 第14回 「帝国日本」の解体
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

境界、境域、国家

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解釈』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシテイ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシテイ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異に注目し、それがなぜ生ずるのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要な課題の一つである。本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与するか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富田和暁『地域と産業 新版』原書房、2006年。
井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業の取組み20% レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

水河制海面変動 沖積層 貴族世界と武家世界 高速交通 産業構造

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を「地域的観点」から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、プリントを配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(幸福追求権)
- 第5回 人権各論②(平等原則)
- 第6回 人権各論③(信教の自由)
- 第7回 人権各論④(表現の自由)
- 第8回 国民主権論
- 第9回 権力分立
- 第10回 日本の政治制度
- 第11回 平和主義論①
- 第12回 平和主義論②
- 第13回 平和主義論③
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む） ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on ways to help students develop their knowledge and skills with general English as well as with kinds of specialized English used in a variety of contexts. One of the key aims is to improve their performance in general proficiency tests such as the TOEIC test. Each class will include segments for homework review, vocabulary consolidation and test preparation strategies.

教科書 /Textbooks

Successful keys to the TOEIC test 1 Goal 500 Second Edition, Atsushi Matsumoto and Mark D. Stafford, Pearson Longman, ISBN 978-4-342-55273-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 - Introduction and Starter Unit
Week 2 - Unit 1 Daily Life 1
Week 3 - Unit 1 Daily Life 2
Week 4 - Unit 2 Places 1
Week 5 - Unit 2 Places 2
Week 6 - Unit 3 People 1
Week 7 - Unit 3 People 2
Week 8 - Unit 4 Travel 1
Week 9 - Unit 4 Travel 2
Week 10 - Unit 5 Business 1
Week 11 - Unit 5 Business 2
Week 12 - Unit 6 Office 1
Week 13 - Unit 6 Office 2
Week 14 - Unit 7 Technology 1
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 15%
Homework 15%
Class Tasks 20%
Final Test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)・ 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)、TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法及び国際間の比較文化を扱ったテキストと基礎的なTOEIC問題集テキストの2冊を使用し、国際語としての英語の基礎知識を習得すると同時に、インプットとしてのリスニング力及びリーディング力の向上を目指します。(1学期の目標TOEICスコアは400点)

教科書 /Textbooks

「世界の常識：小さいけれど大きな違い！」 川田 伸道著 朝日出版 ￥1600
「TOEICテスト はじめの一歩」 安浪 誠祐 他著 朝日出版 ￥1800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア400~500レベル)で自己学習することをしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit1 : When Do You Eat?
- 3回 Unit2 : Befor You Go to England
- 4回 Unit3:Future of the Shopping Mall
- 5回 Unit4:Bsic of Apartment Renting
- 6回 Unit5:Dining Out:East and West
- 7回 Unit6:Careers and Promotions
- 8回 Unit7:Bath or Shower?
- 9回 Unit8:Bath and Promotions
- 10回 Unit9:White-Right?
- 11回 Unit10:Money and Modern Weddings
- 12回 Unit11:Subway Around the World
- 13回 Unit12:Work Hours
- 14回 Unit13:Female Leaders
- 15回 まとめ

※TOEIC問題テキストは、2回目の授業から1課ずつ進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア400点以上10% (350点未満 - 10%)
欠席2回まで。遅刻2回で一回欠席とみなす。TOEIC300点未満単位取得不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット 基礎力 Step by Step

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC の出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEIC テストのエッセンスを学ぶ」安丸雅子 / 八尋真由実他著 金星堂 ¥1,995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回講義概要
- 2 回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3 回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4 回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5 回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6 回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7 回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8 回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9 回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10 回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 11 回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 12 回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13 回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14 回 Review Test 1 (Unit 1 ~ 6)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点 (20%) と筆記試験 (80%) に、出席状況・学習態度を加味して総合的に評価する。
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。また、学期中にTOEIC テストを受験し、スコアを提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで300点を獲得することを目標とします。ここでは、初歩的な英文法を中心に確認していきます。

教科書 /Textbooks

霜村和久 『はじめてのTOEIC 受験・やさしい英文法25 / Primary Grammar Lessons for the TOEIC TEST』 (センゲージラーニング) ISBN978-4-86312-181-2 (2100円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEICの紹介、英語の構造【品詞】
- 2回 英語の構造【5文型】
- 3回 Unit 1 I work here.【平叙文】
- 4回Unit 2 I don't have a passport.【否定文】
- 5回Unit 3 Do you work on Saturdays?【疑問文】
- 6回 Unit 4 Call us now.【命令文】
- 7回 Unit 5 We are carmaker.【be動詞】
- 8回 Unit 6 They have five factors.【一般動詞】
- 9回 Unit 7 This sells well.【文型】
- 10回 Unit 8 The table is covered with cloth.【受動態】
- 11回 Unit 9 What is your e-mail address?【疑問文2】
- 12回Unit 10 We close at 8 p.m.【現在形】
- 13回Unit 11 I joined the company in 1988.【過去形】
- 14回Unit 12 We will buy a new copier.【未来形】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%、期末試験 60%に出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of economy majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal : Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal : Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal : Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal : The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video Journal : Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal : Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)、TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法及びTOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指します。
2学期は、TOEICスコア450点以上を目標とします。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト：オン・ターゲット」 大賀 リ工 他著 南雲堂 ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(目標スコア500レベル)で自己学習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力確認テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit1 各パート問題
- 3回 Unit2 各パート問題
- 4回 Unit3 各パート問題
- 5回 Unit4 各パート問題
- 6回 Review
- 7回 Unit5 各パート問題
- 8回 Unit6 各パート問題
- 9回 Unit7 各パート問題
- 10回 Unit8 各パート問題
- 11回 Review
- 12回 Unit9 各パート問題
- 13回 Unit10 各パート問題
- 14回 Unit11 各パート問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア450点以上10% (400点未満 - 10%)
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC350点未満は単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習・復習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで350点を獲得することを目標とします。ここではTOEICで高得点を目指すため、その練習に重点を置きます。

教科書 /Textbooks

霜村和久 『はじめてのTOEIC 受験・やさしい英文法25 / Primary Grammar Lessons for the TOEIC TEST』 (センゲージラーニング) ISBN978-4-86312-181-2 (2100円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 13 They are having a meeting. 【現在進行形】
- 3回 Unit 14 I have finished the report. 【現在完了形】
- 4回Unit 15 I can see you today. 【助動詞】
- 5回Unit 16 We set up a company. 【冠詞】
- 6回 Unit 17 They are designers. 【代名詞】
- 7回 Unit 18 This machine is expensive. 【形容詞】
- 8回 Unit 19 The manual is very easy. 【副詞】
- 9回 Unit 20 We need more time. 【比較】
- 10回 Unit 21 I'll go to see the manager. 【不定詞】
- 11回 Unit 22 The game was exciting. 【現在分詞】
- 12回Unit 23 Everybody was excited. 【過去分詞】
- 13回Unit 24 We have an office in Sydney. 【前置詞】
- 14回Unit 25 You need an ID number and a password. 【接続詞】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 50%、期末試験 50%に出席状況・学習態度を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。) また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルの文法書を準備しておくと同様です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of economics majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal: Last of the Woman Divers.
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal: Hula. Identify Possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal: Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal: Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal: Cheese-Rolling Races.
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English
- 第4回 : Unit 2 focus on listening
- 第5回 : Unit 2 focus on speaking
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English
- 第7回 : Unit 4 focus on listening
- 第8回 : Unit 4 focus on speaking
- 第9回 : Unit 5 focus on listening
- 第10回 : Unit 5 focus on speaking
- 第11回 : Unit 6 and discussion in English
- 第12回 : Unit 7 and discussion in English
- 第13回 : Unit 8 focus on listening
- 第14回 : Unit 8 focus on speaking
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to motivate students towards speaking English by accessing specific conversation strategies: framing a conversation (opening--preclosing+closing), asking questions, reacting in English, fixing communication problems, and keeping a conversation going.

教科書 /Textbooks

"Nice Talking with You 1" (Cambridge University Press ¥ 2100 税込み) and supplementary materials supplied by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have, but not be dependent upon, an English~Japanese / Japanese~English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Syllabus distribution; conversation framework, 相づち practice
- 2 回 Syllabus quiz, Unit 1: "Introductions", Let your friends talk; Ask to hear it again
- 3 回 Unit 2: "Family": Shadowing, Getting time to think when you begin talking; dialog requirements
- 4 回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 5 回 First oral presentations and listening quiz
- 6 回 Unit 3: "Shopping": Likes and dislikes, Vocabulary expansion, Showing interest / you're listening, Introducing questions
- 7 回 Unit 4: "Food" : Agreeing and Disagreeing, Showing Indifference; dialog requirements
- 8 回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 9 回 Second oral presentations and listening quiz
- 10 回 Unit 5: "Music": Checking what your partner knows, Asking for examples
- 11 回 Unit 6: "Free Time": Showing you're thinking of a word, Keeping the conversation going; dialog requirements
- 12 回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 13 回 Third oral presentations and listening quiz
- 14 回 Putting it all together: plans for the summer; writing summer-plan presentations
- 15 回 Summer-plan presentation speeches; questions; まとめ, follow-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 \1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)・ 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物(20%)、TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Talking about apartments and houses
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of economics majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%
Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking
- 第5回 : Unit 10 and discussion in English
- 第6回 : Unit 11 focus on listening
- 第7回 : Unit 11 focus on speaking
- 第8回 : Unit 12 and discussion in English
- 第9回 : Unit 13 focus on listening
- 第10回 : Unit 13 focus on speaking
- 第11回 : Unit 14 and discussion in English
- 第12回 : Unit 15 focus on listening
- 第13回 : Unit 15 focus on speaking
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済1 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to motivate students towards speaking English by accessing specific conversation strategies: framing a conversation (opening--preclosing+closing), asking questions, reacting in English, fixing communication problems, and keeping a conversation going.

教科書 /Textbooks

"Nice Talking with You 1" (Cambridge University Press ¥ 2100 税込み) and supplementary materials supplied by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have, but not depend on, an English~Japanese / Japanese~English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Welcome back!; Did you follow-up on your summer-plan, questions,
- 2回 Unit 7: "Travel": Asking for more information, Getting back to the topic, dialog requirements
- 3回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 4回 Fourth oral presentations and listening quiz
- 5回 Unit 8: "Sports": Showing interest, Showing you're listening, Summarizing comments; dialog requirements
- 6回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 7回 Fifth oral presentations and listening quiz
- 8回 Unit 9: "Friends": Staring conversations, Changing the topic, Letting your partner raise a topic; dialog requirements
- 9回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 10回 Sixth oral presentations and listening quiz
- 11回 Unit 11: "Movies": Asking for an explanation, Beginning an explanation, Seeing if your partner understands
- 12回 Unit 12: "Personal Tech": Reacting to news positively and negatively, Showing surprise; dialog requirements
- 13回 Grammar check and oral presentation practice; add gestures
- 14回 Seventh oral presentations and listening quiz; "You've Got a Friend" lyric practice
- 15回 まとめ; Singing of "You've Got a Friend"; Future dream impromptu speeches

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course will include both strategy training and extensive practice of all four listening sections of TOEIC, taught with a communicative methodology in English.

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC: Listening and Reading Test. (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Units 1 & 2
- 第3回 : Unit 3
- 第4回 : Unit 4
- 第5回 : Units 8 & 9
- 第6回 : Unit 10
- 第7回 : Unit 11
- 第8回 : Units 15 & 16
- 第9回 : Unit 17
- 第10回 : Unit 18
- 第11回 : Units 22 & 23
- 第12回 : Unit 24
- 第13回 : Unit 25
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework ... 20% Examination ... 80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC score

英語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the ToEIC Test by Masako Yasumura, Mayumi Yahiro, Malcolm Swanson, Noriko Sunagawa, Miyuki Shibakura, Harumi Yahiro published by Kinseido

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1回 Orientation
- 2回 Daily Life
- 3回 Cooking & Purchasing
- 4回 Traffic & Travel
- 5回 Production & Logistics
- 6回 Business & Economics
- 7回 Advertising & ICT
- 8回 Health & Environment
- 9回 Health and the Environment
- 10回 Employment & Personnel
- 11回 Finances and Banking
- 12回 Finance & Banking
- 13回 Finance &
- 14回 Office Work & Correspondence
- 15回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 10% 試験 ... 90%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて、Self Study Quizの予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーション問題やライティング問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中秀彦編
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 That ball went right by you 「自動詞」
- 3回 She wants to talk to you. 「他動詞」
- 4回 Put it on, and let me see. 「句動詞」
- 5回 School starts again tomorrow. 「基本時制」
- 6回 I'm going into Needles to try to sell one of my western paintings. 「進行形」
- 7回 Review Test I (Units 1-5)
- 8回 My Grampa and Gramma have been married for fifty years. 「完了形」
- 9回 Maybe you should try to dream about me. 「助動詞」
- 10回 How I hate waiting for the school bus! 「名詞・冠詞」
- 11回 It's s easy to apologize to an answering machine. 「代名詞」
- 12回 Especially after I get my sleeve caught in the pencil sharpener. 「受動態」
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (20%)、復習テストや定期試験など (80%)。 TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をすること。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テキストは①The NEXT STAGE TO THE TOEIC TESTと②Global Dynamicsを隔週で学ぶ。
①ではTOEICテスト問題を学習することによってTOEICの出題スタイルに慣れる。TOEICのスキルだけでなく文法や語彙を習得し、英語力が着実に身につくことを目指す。
②では語彙力、読解力、リスニング力、スピーキング力等、総合的な英語力の向上を計り、同時に世界情勢への認識を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

- ①The Nest Stage to the TOEIC Test CD-ROM付き 著者：ハーバート久代 伊藤佳代子 他
出版社：金星堂 ￥2100
②Global Dynamics 『世界情勢を英語で読む』CD付き 著者：植田一三 上田敏子 他
出版社：CEngage Learning ￥2100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてプリントを配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① Unit 8 Business Trips [分詞]
- ② Unit 8 中華民主化運動 - 文化大革命・天安門事件・言論統制-
- ① Unit 9 Environment [助動詞]
- ② Unit 9 朝鮮戦争 - 同じ民族が争う悲劇
- ① Unit 10 Office Work (1)[副詞]
- ② Unit 10 ベトナム戦争 - その始まりと米軍介入の真相-
- ① Unit 11 Economy [主語と動詞の一致]
- ② Unit 11 高度経済成長 - 日本が起こした奇跡の高度経済成長-
- ① Unit 12 Industry [関係詞]
- ② Unit 12 中東情勢 - 血だらけのパレスチナの大地-
- ① Unit 13 Personnel [比較]
- ② Unit 13 キューバ危機 - 世界は第三次世界大戦の危機にあった-
- ① Unit 14 Office Work [時制]
- ② Unit 14 アパルトヘイト - 人種差別撤廃の理想と現実-
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業への取り組み 30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学学習では予習が3分の2、授業が3分の1であると考えられる。従って、予習の段階で各自の英語力が養成されるので、予習は重要である。
常に辞書は傍にいる先生。学習時には多に辞書を活用しよう。

履修上の注意 /Remarks

授業には必ず辞書を携帯すること。
音読を重視するので、予習時には声を出して読む習慣を付けてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高いテキストなのでしっかり予習をして受講すること。

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に続いて、チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーションやライティングの問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中秀彦編著
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 He's going to devote the rest of his life to making his cat happy. 「形容詞」
- 2回 I was already happy. 「副詞」
- 3回 I kept worrying about school. 「分詞」
- 4回 That must have been a hard decision to make. 「不定詞」
- 5回 They hate eating in a kennel. 「動名詞」
- 6回 I read it in French. 「前置詞」
- 7回 Review Test I (Units 11-16)
- 8回 No matter how hard you pretend, a rock is still a rock. 「接続詞」
- 9回 I fall in love with any girl who smells like library paste. 「関係詞」
- 10回 The anchor person looked better when she had long hair. 「比較・否定」
- 11回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(1)
- 12回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(2)
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise, (Pre-Intermediate level) by B. Macgown and V. Richardson. (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week 1: course introduction
week 2: unit 1
week 3: unit 2
week 4: unit 3
week 5: unit 4
week 6: unit 5
week 7: unit 6
week 8: unit 7
week 9: unit 8
week 10: unit 9
week 11: unit 10
week 12: unit 11
week 13: unit 12
week 14: unit 13
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 済2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Communication-Introductions
- 第3回 Communication-Building Skills
- 第4回 Communication-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Marketing-Introduction
- 第7回 Marketing-Building Skills
- 第8回 Marketing-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Management-Introduction
- 第11回 Management-Building Skills
- 第12回 Management-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 4～6まで使用します。
Module 1～3は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。
アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。
文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed each week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol. 4 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. Each lesson will have a different topic. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

Clockwise (Pre-Intermediate level) by B. Macgowen and V. Richardson. (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: How was your summer holiday?
Week 2: Unit 14
Week 3: Unit 15
Week 4: Unit 16
Week 5: Unit 17
Week 6: Unit 18
Week 7: Unit 19
Week 8: Unit 20
Week 9: Unit 21
Week 10: Unit 22
Week 11: Unit 23
Week 12: Unit 24
Week 13: Unit 25
Week 14: Unit 26
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。
2学期は加えてパラグラフライティングの技能を身につける。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2
※Book 2 は 1 学期に使用したものと別本です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Global Marketing-Introductions
- 第 3 回 Global Marketing-Building Skills
- 第 4 回 Global Marketing-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Office Trouble-Introduction
- 第 7 回 Office Trouble-Building Skills
- 第 8 回 Office Trouble-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Networks-Introduction
- 第11回 Networks-Building Skills
- 第12回 Networks-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 4～6まで使用します。
Module 1～3は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。
アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。
文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 済2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every week on how much you speak and how active you are in class.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop critical thinking and express the pros and cons of various topics using appropriate discussion and debate language skills.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 SYLLABUS REVIEW AND CLASSROOM ENGLISH
- 2回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : SIMPLE PAST TENSE REVIEW
- 3回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : WH- QUESTIONS
- 4回 GIVING OPINIONS : SIMPLE AGREEING / DISAGREEING
- 5回 GIVING OPINIONS : FREQUENCY ADVERBS AND ADVERBS OF DEGREE
- 6回 DISCUSSION AND DEBATE LANGUAGE
- 7回 SCHOOL UNIFORM DISCUSSION
- 8回 SCHOOL UNIFORM DEBATE / PRESENTATION
- 9回 CELL PHONE DISCUSSION
- 10回 CELL PHONE DEBATE / PRESENTATION
- 11回 NEW TOPIC DISCUSSION
- 12回 NEW TOPIC DEBATE / PRESENTATION
- 13回 GROUP PROJECT : DEBATE PREPARATION
- 14回 GROUP PROJECT : DEBATE PRACTICE
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 45%, Homework 5%, Quizzes and Presentations 30%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また難解なエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング 第11章
- 14回 リスニング 模擬問題演習、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 Introduction to the course and online resources
 - 2回 Registering in the online course
 - 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
 - 4回 Telling people news or gossip and responding
 - 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
 - 6回 Confirming that you know someone and responding
 - 7回 Giving orders and making requests
 - 8回 Talking about possibilities
 - 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
 - 10回 Expressing certainty and uncertainty
 - 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
 - 12回 Asking for and giving opinions
 - 13回 Expressing and asking questions about necessity
 - 14回 Requesting clarification and responding
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【様態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』(張国璠・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ 1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ 4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ 7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ 10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ 13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ 16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ 19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ 22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ 25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ 29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ 32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ 35～39
- 13回 連絡 フレーズ 40～42
- 14回 連絡 フレーズ 43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ 46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 吉祥紅III
- 第4回 作文練習
- 第5回 淮揚菜I
- 第6回 淮揚菜II
- 第7回 淮揚菜III
- 第8回 紹興与酒I
- 第9回 紹興与酒II
- 第10回 紹興与酒III
- 第11回 作文練習
- 第12回 第一家電視台I
- 第13回 第一家電視台II
- 第14回 朗読練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 八達嶺I
 - 第2回 八達嶺II
 - 第3回 八達嶺III
 - 第4回 作文練習
 - 第5回 潮州功夫茶I
 - 第6回 潮州功夫茶II
 - 第7回 潮州功夫茶III
 - 第8回 作文練習
 - 第9回 漢字簡化方案I
 - 第10回 漢字簡化方案II
 - 第11回 朗読練習
 - 第12回 天壇説九I
 - 第13回 天壇説九II
 - 第14回 天壇説九III
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
 『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館 (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 1課 病院で(1)
- 3回 1課 病院で(2)
- 4回 2課 バス停で(1)
- 5回 2課 バス停で(2)
- 6回 3課 銀行で(1)
- 7回 3課 銀行で(2)
- 8回 4課 本を読む(1)
- 9回 4課 本を読む(2)
- 10回 5課 韓国料理(1)
- 11回 5課 韓国料理(1)
- 12回 6課 天気(1)
- 13回 6課 天気(1)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 7課 趣味は何ですか(1)
- 3回 7課 趣味は何ですか(2)
- 4回 8課 約束(1)
- 5回 8課 約束(2)
- 6回 9課 道を歩く(1)
- 7回 9課 道を歩く(2)
- 8回 10課 引っ越し(1)
- 9回 10課 引っ越し(2)
- 10回 11課 明けましておめでとうございます(1)
- 11回 11課 明けましておめでとうございます(2)
- 12回 12課 中秋節(1)
- 13回 12課 中秋節(2)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2 回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3 回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4 回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5 回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6 回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7 回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8 回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9 回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10 回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11 回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12 回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13 回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14 回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15 回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文を作るために必要な要素である名詞・代名詞・冠詞・動詞・形容詞・前置詞について、また文の種類（肯定文・疑問文・否定文）などを学びます。音声化を重視して、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験5級に合格すれば成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受けること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の仕方とつづり字の読み方
- 2回 名詞・冠詞・エリズイオン
- 3回 人称代名詞（主語）、動詞<etre>、形容詞
- 4回 動詞<avoir>、il y a 構文、否定文
- 5回 1群動詞<-er>の活用
- 6回 疑問文（1） 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞・所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞<aller>、前置詞の縮約、近接未来について
- 10回 動詞<venir>、前置詞の縮約、近接過去について
- 11回 疑問文（2） 疑問代名詞、疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞<-ir>の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 命令文、非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去時制・複文・法（モード）について学びます。11月の仏検4級を合格すると、成績Cが保証されます。その場合でも定期試験を必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2) 直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2) 間接目的語、その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 直説法単純未来
- 7回 特殊な代名詞(中性代名詞)
- 8回 直説法半過去
- 9回 過去時制のまとめ
- 10回 受動態
- 11回 法(1) 条件法
- 12回 法(2) 接続法
- 13回 関係代名詞
- 14回 現在分詞とジェロンティブ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』(藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ: 今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
授業中の飲食・私語は禁止します。
遅刻・途中退室は欠席扱いとします。
携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2310）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

教科書は1回目の講義には用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の飲食・私語は禁止します。

遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

様々な会話の場面

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習に比べ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標としています。また教科書とは別に、フランス映画『アメリ』を鑑賞したいと考えています。そのさいフランスのユーモアを知り、フランス語らしい表現を学んでもらえればと思います。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	フランス語の「音」についての復習、	『アメリ』より	L'enfance d'Aémié
2回	再帰代名詞、	『アメリ』より	Monmartre(1)
3回	再帰代名詞の複合過去、	『アメリ』より	Monmartre(2)
4回	過去分詞の一致のまとめ、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(1)
5回	半過去と大過去、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(2)
6回	半過去と複合過去、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(1)
7回	関係代名詞、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(2)
8回	補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(1)
9回	命令法と補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(2)
10回	現在分詞とジェロンデフ(1)、	『アメリ』より	L'âme soeur(1)
11回	現在分詞とジェロンデフ(2)、	『アメリ』より	L'âme soeur(2)
12回	疑問代名詞 lequel、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(1)
13回	受動態、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(2)
14回	最上級と副詞、	『アメリ』より	Colignon crêpe chignon
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標としています。またひき続きフランス映画『アメリ』を鑑賞しながら、フランス語らしい表現を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	強調構文、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(1)
2回	中性代名詞(1)、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(2)
3回	中性代名詞(2)、	『アメリ』より	Jeux de piste
4回	条件法現在、	『アメリ』より	Nouveaux stratagèmes
5回	条件法過去、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(1)
6回	接続法現在、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(2)
7回	接続法過去、	『アメリ』より	Où est quand(1)
8回	直接話法と間接話法、	『アメリ』より	Où est quand(2)
9回	時制の一致(1)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(1)
10回	時制の一致(2)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(2)
11回	前置詞と接続詞(時の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(1)
12回	前置詞と接続詞(場所の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(2)
13回	前置詞と接続詞(論理の表現)、	『アメリ』より	Saisir sa chance(1)
14回	単純過去、	『アメリ』より	Saisir sa chance(2)
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験3級程度の実力を旨す。6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Bonjour Madame
- 2回 Dans le Quartier Latin
- 3回 長文読解 (フランス)
- 4回 Les deux amis au téléphone
- 5回 Un Anglais à Paris
- 6回 長文読解 (パリ)
- 7回 Philippe à la poste
- 8回 La jolie robe
- 9回 長文読解 (カフェ)
- 10回 Nathalie appelle un taxi
- 11回 Dans le taxi
- 12回 長文読解 (学生生活)
- 13回 Bon anniversaire!
- 14回 L'addition, s'il vous plaît!
- 15回 長文読解 (パン、ワイン、チーズ)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験準2級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 L'interview d'un champion
- 2回 Le cours de tennis
- 3回 長文読解 (ブルターニュ)
- 4回 A la cinémathèque
- 5回 Après le film
- 6回 長文読解 (プロヴァンス)
- 7回 Philippe à Nancy
- 8回 Cher Philoppe
- 9回 長文読解 (アルザス)
- 10回 Le programme des visites
- 11回 Le dîner en famille
- 12回 長文読解 (政治)
- 13回 Une invitation
- 14回 La fin des vacances
- 15回 長文読解 (フランス病)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間にも属します。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずで、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
電子辞書も奨めます。最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 serとestarの活用と用法
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 14 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。また、出席管理において代返や出席のみ登録しての退室が見つかった場合は平常点を一切加算しません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。また授業中に私語や態度などで注意された場合も減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思かもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返などが見つかった場合は即座に失格とします。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超えている場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！（CD付）』第三書房、2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、 日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(粕谷てる子『オラ！(CD付)』第三書房、2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習
- 2回 ir、venir、「これから友達の家に行くつもり」
- 3回 hacer、「今日はいい天気ですね」
- 4回 時間、「何時ですか？」
- 5回 gustar、「私はサッカーが好きです」
- 6回 gustar型動詞、「頭が痛い」
- 7回 再帰動詞llamarse、「お名前は？」
- 8回 その他の再帰動詞、「もう行っちゃうの？」
- 9回 比較表現、「地下鉄はバスよりは安い」
- 10回 最上級、「どのワインが一番おいしいですか？」
- 11回 過去分詞、現在完了、「すごく楽しかった」
- 12回 過去形の概要、「昨日の出来事」
- 13回 過去形の概要2、「昨日電話した時、何していたの？」
- 14回 直説法と接続法の概要、「楽しい週末を！」
- 15回 命令法、まとめ「それを食べてはいけません」

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(会話表現、聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(目的格人称代名詞、再帰動詞などを中心に)
- 3回 過去分詞、現在完了、「ミゲルはもう到着したの?」
- 4回 不定語・否定語、「何か言った?」
- 5回 直説法点過去(1)、「いつスペイン語の勉強を始めましたか」
- 6回 直説法点過去(2)、「夏休みはどこに行きましたか」
- 7回 直説法線過去、「若いころあのレストランへよく行っていた」
- 8回 点過去と線過去、「電話がなったとき、本を読んでいた」
- 9回 スペイン語圏についてのDVD教材
- 10回 現在分詞、「私は音楽を聴きながら通学する」
- 11回 直説法未来、直説法過去未来「明日はハイメとテニスをするだろう」
- 12回 直説法過去完了、「私が到着したとき、もうパーティは始まっていました」
- 13回 DVD教材(スペイン語で見る・1)
- 14回 DVD教材(スペイン語で見る・2)
- 15回 直説法の動詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、簡単な表現を使い、スペイン語での発表も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。
(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習 (DVD教材)
- 2回 スペイン語VIIの復習 (直説法のまとめ)
- 3回 接続法現在、(1)、独立文、「いい天気になればいいなあ」
- 4回 命令形、「どうぞこちらへ来てください」
- 5回 接続法現在(2)、名詞節、「ホセに本当のことを言ってもらいたい」
- 6回 接続法現在(3)、形容詞節・副詞節、「ペットが飼える家を探しています」
- 7回 接続法過去、「こんなに人気があったとは、知らなかった」
- 8回 接続法過去完了、「あの時すでにメキシコに住んでいたなんて、知らなかった」
- 9回 接続法、条件文、「あの時返事をしていれば、今頃はペルーにいるはずだったのに」
- 10回 DVD教材など、会話練習
- 11回 スペイン語で発表(1)
- 12回 スペイン語で発表(2)
- 13回 スペイン語で映画などを見る 前半
- 14回 スペイン語で映画などを見る 後半
- 15回 接続法のまとめと会話について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、授業内のスペイン語での発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(I・II・III・IV)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『大学生の日本語トレーニング』(世界思想社編集部、世界思想社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<小林担当分>	<清水担当分>
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 履修登録とシラバス	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 情報の探し方	7回 定義をする
8回 勉強以外の大学生生活	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 留学生の進路	9回 時間軸に沿って考える
10回 留学生と日本人学生	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 試験に備える：試験勉強	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 試験に備える：レポート	12回 総合的に表現する
13回 試験に備える：期末試験	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学生としての自分	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語 (ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語 (キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語 (アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Bでは、特に「聞く・話すこと」に焦点を当てる。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学ぶ。さらに、「質疑応答」「評価 (自己評価)」では建設的な意見交換やコメントができることを目標とする。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
 - 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
 - 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
 - 5回 「不登校」【予告】【データの提示】
 - 6回 「高校生とバイク」【データの説明・解釈】
 - 7回 「食料自給率」【データ比較】
 - 8回 応用練習テーマ「少子化」(1)【序論構成】
 - 9回 「少子化」(2)【本論構成①】
 - 10回 「少子化」(3)【本論構成②】
 - 11回 「少子化」(4)【結論の提示】
 - 12回 プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】
 - 13回 クラスメイト紹介 (1)【他者紹介】
 - 14回 クラスメイト紹介 (2)【インタビュー】
 - 15回 セルフチェック (1)【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】
 - 16回 セルフチェック (2)【チェックシート・評価シート】
 - 17回 施設紹介 (1)【相手の視点に立った情報整理】
 - 18回 施設紹介 (2)【サンドイッチ構成】
 - 19回 日常生活で目にするものを説明する (1)【比較】
 - 20回 日常生活で目にするものを説明する (2)【マトリックス】
 - 21回 アンケート (1)【調査項目】
 - 22回 アンケート (2)【アンケート用紙】
 - 23回 ポスター発表 (1)【ポスターの構成】
 - 24回 ポスター発表 (2)【ポスター作成】
 - 25回 ポスター発表 (3)【ポスター発表】
 - 26回 案内状を作る (1)【5W1H】
 - 27回 案内状を作る (2)【案内状】
 - 28回 案内状を作る (3)【当日の進行】
 - 29回 1年間を振り返る【時系列】【トピック】
 - 30回 まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・・・40% 授業への取り組み・・・40% 自己評価・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生 (文学部比較文化学科日本語教師養成課程) が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。

教科書 /Textbooks

『大学・ 大学・ 大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 則松担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 学術的文章の特徴
3回 自己評価	3回 テーマに合う文献を探す
4回 絵やイラストを読む	4回 文献を読んで研究テーマを
5回 文章を読んで図や表にする	5回 ピア・リーディングとは何か
6回 表やグラフを読み取る	6回 ピア・リーディング：読みの個人差に着目する
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 ピア・リーディング：読む過程を重視する
8回 マッピングしながら読む	8回 ピア・リーディング：協同的に読む
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 ピア・リーディング：読み方を変える
10回 どちらがいかを考えながら読む	10回 ピア・リーディング：他者の視点で読む
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的・ 能動的な読み
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 読みにおける他者の存在
13回 総合的に読む	13回 自分で書いた文章のピア・リーディング：初回
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 自分で書いた文章のピア・リーディング：修正
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング ストラテジー

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、情報を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
レポート・発表...40%
ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 他大学学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)他大学学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他大学の留学生とレポート交換活動をする予定である。

履修上の注意 /Remarks

昨年度開講されなかったため、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェームズ・バスキンド / James Baskind / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Zen Culture and Japan

With D.T. Suzuki's publication of Zen and Japanese Culture, Zen came to be heralded as the quintessence of Japanese culture. However, the question remains: how much of Zen doctrine and history support this view? As the title of this course indicates, we will be turning Suzuki's contention on its head, as we examine the creation of a culture of Zen itself or a "Zen culture" that subsumes and informs much of what is considered "Japanese" both in Japan and the West. We will also consider Zen's history in India, China, and Japan, as well as "Zen" aspects of painting and poetry, martial arts, tea ceremony, literature, and its role in pop/modern culture in Japan and abroad. In addition to presenting the history and practice of Zen, this course aims to also provide a modern and international perspective on Zen.

教科書 /Textbooks

Textbook: Zen and Japanese Culture Daisetz T. Suzuki (Author) Richard Jaffe (Introduction). Princeton University Press, reprint edition. ¥ 1,900.
Other materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本事情 (人文) B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

Week 1

WHAT IS ZEN?

EARLY BUDDHISM: DOCTRINE AND PRACTICE

Week 2

ZEN PRACTICE

ZEN ANTECEDENTS: DAOISM AND THE VIMALAKIRTI SUTRA

Week 3

THE TRANSMISSION OF BUDDHISM TO CHINA

LEGENDARY BEGINNINGS OF ZEN: BODHIDHARMA

Week 4

INTRODUCTION OF ZEN TO JAPAN: THE RINZAI, SOTO, AND OBAKU SCHOOLS

Week 5

FORMS OF ZEN PRACTICE

Week 6

ZEN IN THE MODERN ERA: D.T. SUZUKI

Week 7

ZEN AESTHETICS AND THE TEA CEREMONY

Week 8

ZEN AND MARTIAL ARTS: FACT, FICTION, AND FANTASY

Week 9

ZEN ARTS: PAINTING, GARDEN DESIGN AND POETRY

Week 10

MIDTERM EXAM

Week 11

ZEN IN THE WEST: THE BEGINNINGS

Week 12

BEAT ZEN SQUARE ZEN: THE BEATNIKS, ZEN AND AMERICAN SUBCULTURE

Week 13

ZEN IN MEDIA AND POP CULTURE

Week 14

IMAGE AND IDEAL: ZEN PRACTICE CENTERS ABROAD

Week 15

ZEN IN THE WEST: TENSIONS AND CONFLICTS, CONCLUSIONS (FINAL PAPER DUE)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment

Participation/daily effort 30%

Midterm exam 30%

Paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本事情 (人文) B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

No familiarity with Japanese religions is required.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Zen, Japanese culture, Buddhism, arts, D.T. Suzuki

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生のための講座である。1年生と短期交換留学生の混合授業である。また中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスからの留学生と、国際的な講義である。
そこで、日本を知る上で必要な観点から、外部講師を招聘して講義をしていただく場合もある。例えば、大学生協の店長が寿司文化を語り、留学生にその作り方を実地で教え、試食させてくれるとかといった具合である。
日本社会を、社会科学分野から追求することを旨としているが、日本の伝統文化を知らないと日本の政治経済の理解が深まらない。それゆえ、多士済々の講師が登場するゆえである。
これらの講義を通じて日本社会に興味をもち、積極的に参加してくれることを目的としている。

教科書 /Textbooks

口述講義により、教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済(1)
- 第12回 戦後日本経済(2)
- 第13回 戦後日本経済(3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語で講義をするので、日本語を上達させておくこと。

日本の政治経済の動きを理解するために、新聞を毎日読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本滞在を有効にするために、この講義に参加している日本人学生との交流を積極的に行ってもらいたい。

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的・韓国、中国、オーストラリア、イギリス、日本の学生と一緒に集まって、さまざまなテーマについて日本と自国との比較検討をする。
使用言語は主として日本語である。ただし英語も一部使用する。理由は、イギリスやオーストラリアからの留学生にとって複雑な内容を日本語で説明するには無理があるときがあるからである。

教科書 /Textbooks

口頭講義である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介 オリエンテーション 山崎勇治
- 第2回 関門地域をめぐる日本の近代化一、中国、韓国、アメリカ、イギリス
- 第3回 雇われ外国人たちと日本の近代化ートーマス・グラバー
- 第4回 官営八幡製鉄所の北九州に果たした役割
- 第5回 新幹線を開発した男たち
- 第6回 TOTOと日本のトイレ革命
- 第7回 公害問題の発生と母親たちの反対運動
- 第8回 安川電機と産業用ロボット(宗像志功、孫文)
- 第9回 松本清張と朝鮮戦争
- 第10回 森川知治 生協食堂店長:「オーストラリアに定着させた寿司文化」
- 第11回 北九州市役所 西之原局長 「北九州市と国際化」
- 第12回 出光興産と美術館
- 第13回 カーディフ炭と日本海海戦
- 第14回 バーナード・リーチと小鹿田焼き
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本についての関心事を絶えずもち続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究デザインの設定、スケジュールリング
3. 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
4. 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
5. 他のグループの研究に対する意見表明
6. Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

1. 研究テーマの設定
2. 研究デザインの設定、スケジュールリング
3. 図書館、インターネットを使った文献、資料収集
4. 各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
5. 他のグループの研究に対する意見表明
6. Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、次の内容についてグループで練習していきます(順不同)1回~15回

- 1.研究テーマの設定
- 2.研究デザインの設定、スケジュールリング
- 3.図書館、インターネットを使った文献、資料収集
- 4.各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ
- 5.他のグループの研究に対する意見表明
- 6.Power Pointを用いた資料作成、プレゼンテーションの練習

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周到的な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

教員が指定する教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教員が指定する参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

1回目の講義の際に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、2年次までに習得した経済学に関する知識を改めて修得してもらい、ゼミ論文、卒業論文作成における土台を築いていきます。演習では、講義のように教員の話だけでなく、自分の意見を発言できる機会があり、間違っただけを発言したからといって、責められることはなく、失敗したことから多くのことを学べる機会があると思います。そのため受講生には積極的・主体的な参加が求められます。

教科書 /Textbooks

未定。履修者の関心、習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 文献精読について
- 4～5回 伝える技術の習得
- 6～9回 文献輪読、プレゼンテーション、ディスカッション
- 10～11回 文献輪読と論文の書き方
- 12～15回 文献輪読と調査・研究の方法

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度および発表内容...40% 課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いつつ、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業だけではなく地域経済を担う組織は、NPOや商店街なども含めて事業を遂行するためにビジネスモデルを構築し、安定的な経営を目指している。そこで、本演習では経営戦略のフレームワークについて学んだうえで、実際にグループで具体的な組織や地域の戦略について調査研究を行って、プレゼンテーションできるアウトプットを作成する。
なお、調査研究の成果を外部へプレゼンテーションすることと知見を広げるためのフィールドワークを兼ねたゼミ合宿を夏休みに実施する。

教科書 /Textbooks

塚原美樹『マインドマップ戦略入門』ダイヤモンド社(2009年3月)
伊丹敬之『経営を見る眼』東洋経済新報社(2007年7月)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『経営戦略の論理 第3版』日本経済出版社(2010年1月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業とは何か【株主主権】、【従業員主権】
- 2回 リーダーとは何か【リーダーシップ】、【マネジメント】
- 3回 戦略とは何か【企業戦略】、【競争優位】
- 4回～8回 フレームワークの習得【3C】、【SWOT分析】、【4P】、【AIDMA】、【STP】
- 9回 調査研究の対象の検討【調査対象】、【調査方法】、【段取り】
- 10回 調査研究の計画の検討【調査計画】、【文献調査】
- 11回 調査研究成果のアウトプットのノウハウについて【プレゼンテーション】
- 12回～14回 調査研究の中間報告
- 15回 調査研究のプレゼンテーション
- 夏休み ゼミ合宿

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50 % 調査研究の成果への貢献 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループで調査研究を実施するので、好奇心を持って積極的に取り組む姿勢を示して欲しい。また、日頃から企業の経営の比較分析やビジネスモデルについて関心を持って欲しい。さらには、本やレポートを読んだ時に、その内容や感想を人に伝えることを心がけて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論の学習を通じて戦略的思考を学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディキジット・ネイルバフ 『戦略的思考をどう実践するか?』 阪急コミュニケーションズ 2010.
エアーズ 『その数学が戦略を決める』 文藝春秋 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジュメを作成して、報告するという形式でゼミを進める

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の金融制度や金融政策について、現実に起きている事象を高度に理解・分析する基礎をつける

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 グループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を熟読しておく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここではさらに、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

未定。演習生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 西村和雄『ミクロ経済学入門(第2版)』岩波書店(○)
- ・ 武隈慎一『ミクロ経済学(増補版)』新世社(○)
- ・ 岩田規久男『ゼミナールミクロ経済学入門』日本経済新聞社(○)
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 現実の経済との関係についての理解を高めるために、適時課題を出す。1学期の演習の結果として、2学期の演習において興味をもって研究できるテーマの大きなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：演習目標、方法、計画作成
- 2回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(1)
- 3回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(2)
- 4回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(3)
- 5回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(4)
- 6回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(5)
- 7回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(6)
- 8回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(7)
- 9回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(8)
- 10回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(9)
- 11回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(10)
- 12回 ミクロ経済学の基礎理論研究：輪読形式(11)
- 13回 特殊な経済行動研究入門(1)
- 14回 特殊な経済行動研究入門(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

常に現実のミクロ経済に関心を持つこと。

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習I【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年間じっくり時間をかけて中級レベルの経済理論書を勉強することを通じて、自分の頭で物事を考える訓練をする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者はもちろん、報告を割り当てられなかった参加者に対しても、入念な予習を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会的な出来事に対する関心を引き起こしたい。その際、他人の意見を参考として自分の意見を持ち、さらにそれを説得力のあるかたちで表明することを目指す。まずは、比較的容易な時事問題に関する文章の購読からはじめる。具体的には、ゼミ3、4回で新書1冊というのが分量の目安となる。

教科書 /Textbooks

未定（新刊の新書など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 顔合わせ
- 2 回 ~ 1 4 回 学生のレポートを中心として購読を進める
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会に関心があること。
求める人材の詳細については通常のゼミ生募集の際に示す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。経済データベースとして日経二ーズ、コンピュータソフトウェアとしてSAS (統計処理パッケージ言語) を利用する。

教科書 /Textbooks

大屋幸輔『コア・テキスト統計学』新世社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 データの整理
- 第2回 測る
- 第3回 確率
- 第4回 離散確率変数とその分布
- 第5回 連続確率変数とその分布
- 第6回 標本調査・標本分布
- 第7回 推定
- 第8回 仮説検定
- 第9回 回帰分析 (イントロダクション)
- 第10回 回帰分析 (標本相関係数他)
- 第11回 回帰分析 (最小自乗法)
- 第12回 回帰分析 (決定係数)
- 第13回 回帰分析 (σ 自乗の推定、t 変量)
- 第14回 回帰分析 (検定)
- 第15回 最尤推定法と統計モデル

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンに統計ソフトをインストールするので持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の関心分野を他の参加者と議論して一つのテーマに絞り、それについて資料を集め、そこから疑問を設定し、自分たちなりの解答を導きます。これを通じて、自分の考えや疑問を的確に他人に伝え、相手に理解してもらい、また他人を上手に理解してあげることができるようになることがねらいです。学期末に学生主体で発表会を行い、そこでコメントを受けることを目指します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～12回学生による途中経過の報告
- 1 3 回～14回発表会
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席してチーム単位で「学期末発表会での発表・授業での報告とディスカッション・発表会実施のための割り当て作業」をすべて行うこと...60%、これ以外の議論への参加...30%、チームへの特段の貢献...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

割り当てられた報告の回に途中経過を報告できるよう、調査・研究をすること。他の参加者の作業に対して意見を表明できるよう準備すること。発表会の実施およびそのための意見交換のために必要となる文書作成や準備・調整作業を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際金融論の平易なテキストを理解できるレベルを到達目標とする。授業全体のテーマは、不安定化する現代の国際金融システムである。すなわち、国際的な資金の流れが、なぜ活発化しているのか、どのように国際金融システムを不安定化しているのかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 最近の国際金融問題 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
- 2回 外国為替のしくみと形態
- 3回 外国為替相場
- 4回 外国為替市場
- 5回 為替リスクヘッジの手段と方法
- 6回 国際収支のしくみ
- 7回 為替相場と国際収支
- 8回 為替相場の決定理論
- 9回 国際通貨制度のしくみ
- 10回 国際通貨制度の変遷
- 11回 ヨーロッパの通貨統合
- 12回 国際通貨制度の課題と制度改革への道のり
- 13回 円の国際化
- 14回 模擬テスト
- 15回 模擬テストの返却と正解を解説

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(議論への参加など)...30 % 期末試験...70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを必ず事前に予習し、わからない語句や内容については、下調べをしておくこと。『日本経済新聞』を図書館で閲覧し、ニュースを見る習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：環境ビジネス
環境ビジネスについて勉強します。環境問題を解決するためのしくみや、環境をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、環境活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、開講後に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 基礎力を養う(コミュニケーション力を身につける)
- 3回 基礎力を養う(分析力を身につける)
- 4回 基礎力を養う(ディベート力を身につける)
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 文献輪読とディスカッション
- 7回 文献輪読とディスカッション
- 8回 文献輪読とディスカッション
- 9回 文献輪読とディスカッション
- 10回 文献輪読とディスカッション
- 11回 グループによる調査・研究(テーマ設定と事前準備)
- 12回 グループによる調査・研究(実施)
- 13回 グループによる調査・研究(報告およびディスカッション)
- 14回 グループによる調査・研究(ディスカッション)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、日頃から環境問題や経済問題に関心を持つことが重要です。新聞は必ず購読することを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス、ソーシャルビジネス

演習I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を勉強し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：伊藤元重著『ゼミナール 国際経済入門』（日本経済新聞出版社）
Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy
（邦訳：石井菜穂子他訳『国際経済：理論と政策』（新世社））

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英語の関連文献 (The Economist, Wall Street Journal など) をピックアップし、その都度資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、テキストと担当箇所を決める。
- 2回-15回 輪読形式で報告してもらおう。質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 課題報告 40 % ディスカッションへの貢献度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。
英語の関連文献を適宜配り、勉強することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今回の金融危機について多角的に検討します。

教科書 /Textbooks

池尾和人・池田信夫『なぜ世界は不況に陥ったのか』日経BP

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に言及します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の予定で進めます。

- 1回 演習の進め方
- 2回 アメリカ金融危機の深化と拡大(1)
- 3回 同上(2)
- 4回 世界的不均衡の拡大 長期不況
- 5回 アメリカ経済の再活性化
- 6回 金融技術革新
- 7回 投資銀行の成功と変質
- 8回 過剰投機はなぜ起こる
- 9回 金融危機と経済政策(1)
- 10回 同上(2)
- 11回 投資銀行と金融危機
- 12回 規制監督体制見直しの課題
- 13回 日本の経験とその教訓 「失われた10年」の原因
- 14回 同上 「失われた10年」の教訓
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの内容(70%)とディスカッションへの参加度(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートの際には必ずレジユメを作成すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでいくつかの政府による経済政策が行われてきた。我々は政策当事者によって強調されるその効果にとらわれがちであるが、そのような政策が制度上どのように運営されているのか。

日本における財政制度は複数の会計が存在し、税制や社会保障制度も非常に複雑である。これらの制度そのものをしっかり考察することによって、望ましい財政の在り方が見えてくるはずである。聞こえの良い政策が本当に良い政策であるのか？それを考えるための基礎的素養を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。資料は適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
岩田規久男「小さな政府」を問いなおす」ちくま新書 2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション(自己紹介、本演習の進め方の説明)
2回~15回 学生による報告(事前に与えられた課題について、発表を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題報告...100%
課題発表予定時に無断欠席した学生には単位を与えないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時間があれば、図書館に所蔵してある新書を読んで、現代経済の様相について関心を持つようになって欲しい。最近のお勧めの新書は堤 未果「ルポ 貧困大国アメリカ」岩波新書 2008年
青砥 恭「ドキュメント高校中退 - いま、貧困がうまれる場所 - 」ちくま新書 2009年である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の地域や都市の成り立ちを、経済学の基礎的な考え方や立地理論をもとに考察する。テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、ディスカッションや表現技法、論文作成などの基本スキルについても学習する。

教科書 /Textbooks

テキストについては初回に、数冊のテキストを詳しく紹介し、最も好ましいものを選択することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 基礎的立地理論の習得
- 3回 基礎的立地理論の習得
- 4回 基礎的立地理論の習得
- 5回 基礎的立地理論の習得
- 6回 基礎的立地理論の習得
- 7回 基礎的立地理論の習得
- 8回 基礎的立地理論の習得
- 9回 基礎的立地理論の習得
- 10回 基礎的立地理論の応用
- 11回 基礎的立地理論の応用
- 12回 基礎的立地理論の応用
- 13回 基礎的立地理論の応用
- 14回 基礎的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習I【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では労働者の働き方、企業の雇用政策、労働に関する諸問題、労働政策などを中心に考察し、経済学的思考の習得を目標とする。またレポート執筆・発表・ディスカッションを通じての基礎学力の向上も目標とする。

教科書 /Textbooks

事前には指定しない。最初の演習で輪読する書籍を決めた上で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各自の関心によるが、労働経済学の基礎文献として以下を挙げる。
- ・ 『人事と組織の経済学』, エドワード・ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社 .
 - ・ 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン (自己紹介, 演習内容の説明, 輪読・発表の割当など)
第2回~第15回 学生による輪読・発表
* 第1回INTRODUCTIONで輪読する書籍や課題を学生との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1回目の演習までに自分が何に関心があるのかを説明できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習I～Vまで連続的に履修し、卒業論文を作成することを目的とする。演習Iでは、基礎知識の熟成と論文テーマ選定（期末レポートとしてまとめる）までの演習と議論を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 3回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 4回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 5回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 6回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 7回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 8回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 9回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題報告... 30% 期末レポート... 40% 毎回の演習への貢献... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

統計学I、IIは本演習履修以前に履修済みであること。また計量経済学I、IIも履修済みであることが望ましい(履修していないものは3年次に履修することが必須となる)。

履修上の注意 /Remarks

都市・地域経済の数量分析を中心に行うため、数学(微積分や線形代数)の基礎が必要。また、英文論文の輪読等も行う予定であるため、英語にある程度の知識を必要とする。これらの基礎があれば、本演習は学生の知的好奇心を非常に満足させるものとなる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIでは、ゼミ論文、卒業論文のテーマを決め、その準備を行います。各自が関心のあるテーマを取り上げ、それらを調査、検討した成果を報告してもらうことになります。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 テーマ設定と文献・資料収集
- 4～5回 文献・資料の整理
- 5～8回 研究テーマ設定作業
- 9～12回 研究テーマの中間報告
- 13～15回 研究テーマの発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取組み姿勢および発表内容...40% 課題...30%
報告にあたって十分な準備をしたか、演習において積極的に発言したかが基準になります。毎回出席したからといって、よい評価がもらえるとは限りません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告するために十分な時間をかけてください。そのためにはテキストを何度も読み返し、自分が講義する立場になったと思いながら、準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、グループによる調査研究のさらなる向上を目指すとともに報告書として完成させる。また、今後の地域社会の担い手して期待が寄せられているNPOの経営について考察する。なお、NPOの考察にあたっては実際のNPOの現地調査を実施する。

教科書 /Textbooks

山口裕幸『チームワークの心理学』サイエンス社（2008年7月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊佐淳『NPOを考える』創成者新書（2008年9月）
飯盛義徳『社会イノベータ』慶応義塾大学出版（2009年8月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 NPOの可能性について【NPO】、【市民セクター】、【ミッション】
- 2回 NPOの経営の実態【事業システム】、【事業戦略】、【協働】
- 3回 NPOへの訪問調査
- 4回 NPOの訪問調査の整理
- 5回～11回 社会イノベータのケーススタディ【ソーシャルビジネス】【社会起業家】
- 12回 調査研究の加筆修正に関する報告。
- 13回～15回 調査研究の報告書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50 % 調査研究の成果(報告書) 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1つの組織の中の分析から複数の組織の連携に係る事項についての考察を試みるので、広い視野を持って臨んで欲しい。また、グループによる事業研究を少しでも向上できるように日々問題意識を持って欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iに続き、初歩的なゲーム理論の学習を通じて戦略的思考を学ぶ。
また、プレゼンテーションの訓練も行なう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディキジット・ネイルバフ 『戦略的思考をどう実践するか?』 阪急コミュニケーションズ 2010.
エアーズ 『その数学が戦略を決める』 文藝春秋 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストを輪読する。
1回から15回：各章担当を決めて、レジュメを作成して、報告するという形式でゼミを進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iで習得した知識を基に、日本の金融制度や金融政策について、現実に起きている事象を理論的・実証的に分析する。ポスターセッションに参加できるように準備をする。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 個人またはグループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の研究内容を発表できる準備をする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、ミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社。
 ・林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版。
 ・松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店。
 ・友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高めて、4年次の演習において興味をもって研究できるテーマの大ききなアウトラインを固める。

- 1回 イントロダクション：演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習III、IV案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。

履修上の注意 /Remarks

常に現実のミクロ経済に興味をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習II【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年間じっくり時間をかけて中級レベルの経済理論書を勉強することを通じて、自分の頭で物事を考える訓練をする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者はもちろん、報告を割り当てられなかった参加者に対しても、入念な予習を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論理性の高い本を読み、報告することで知識を深めてもらう。知識にも広狭深淺があり、それらが絡み合っていることを実感してもらいたい。また、卒業論文の構想を固めることを併せて行う。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回購読文献の選定
- 2 回～14 回学生のレポートを中心として購読を進める
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 80% 卒論構想の内容 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習はもとより、積極的なゼミ参加を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次で卒業論文を書くための準備を行う。主に、CiNiiに掲載されている和文論文のリーディングを行う。必要に応じて、統計学・計量経済学の様々なテクニックの修得を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松浦克己、コリン・マッケンジー『Eviewsによる計量経済学入門』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：ゼミ生は、毎週、事前に読み込んだ論文をA4一枚に要約したものを提出する。その要約を教員が添削する。それとともに、論文に関連する統計的手法の理解に努める。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の評価による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生は、夏休み期間中に最低10本の論文を集めて準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

チーム単位で疑問を設定し、それについて資料を集め、そこから疑問を設定し、自分たちなりの解答を導きます。これを通じて、自分の考えや疑問を的確に他人に伝え、相手に理解してもらい、また他人を上手に理解してあげることができるようになることがねらいです。学期末に学生主体で発表会を行い、そこでコメントを受け、成果を文書化することを目指します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～12回学生による途中経過の報告
- 1 3 回～14回発表会
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席してチーム単位で「学期末発表会での発表・公開用ペーパーの作成・授業での報告とディスカッサント・発表会実施のための割り当て作業」をすべて行うこと...60%、これ以外の議論への参加...30%、チームへの特段の貢献...10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

割り当てられた報告の回に途中経過を報告できるよう、調査・研究をすること。他の参加者の作業に対して意見を表明できるよう準備すること。発表会の実施およびそのための意見交換のために必要となる文書作成や準備・調整作業を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際金融論の平易なテキストを理解できるレベルを到達目標とする。授業全体のテーマは、不安定化する現代の国際金融システムである。すなわち、国際的な資金の流れが、なぜ活発化しているのか、どのように国際金融システムを不安定化しているのかを学ぶ。さらに、卒業研究のテーマを各自決めて、1回につき2、3名でパワーポイントによるプレゼンを繰り返し、卒業研究を作成する。

教科書 /Textbooks

未定。第1回の授業で説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 最近の国際金融問題 - トピックスの紹介による授業内容・進め方の説明
- 2回 グローバリゼーションと現代国際金融
- 3回 変動相場制下のドルとアメリカの役割
- 4回 現代国際金融と開発途上国
- 5回 金融グローバル化とEU
- 6回 卒業研究の例を提示し、説明する。
- 7回～15回 卒業研究の内容を各自報告(2、3名ずつ)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(発表内容、議論への参加など)...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを必ず事前に予習し、わからない語句や内容については、下調べをしておくこと。『日本経済新聞』を図書館で閲覧し、ニュースを見る習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：環境ビジネス
環境ビジネスについて勉強します。環境問題を解決するためのしくみや、環境をビジネスに結びつける試みについて学びます。また、環境活動に関わる行政、企業、NPOなどの調査や、それらとの共同作業も行う予定です。こうした作業に関連して、合宿や教室以外での実習なども実施します。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習Iをふまえての課題発表会
- 2回 文献輪読とディスカッション
- 3回 文献輪読とディスカッション
- 4回 文献輪読とディスカッション
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 企業 / NPO事例研究
- 7回 企業 / NPO事例研究
- 8回 企業 / NPO事例研究
- 9回 新たな環境ビジネスのアイデア構築 (各自のプラン模索)
- 10回 新たな環境ビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン模索)
- 11回 新たな環境ビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン策定)
- 12回 新たな環境ビジネスのアイデア構築 (グループによるプラン発表)
- 13回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 14回 卒業研究に向けたテーマの検討
- 15回 卒業研究に向けたテーマの発表とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、日頃から環境問題や経済問題に関心を持つことが重要です。新聞は必ず購読することを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス、ソーシャルビジネス

演習II【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際経済学の基礎理論を勉強し、貿易保護、海外直接投資、為替レートの変動など国際経済に関わる諸現象を理解する。各自関心のあるテーマを見つけ、卒業論文を書くための論理的思考能力、基礎分析能力を身につける。

教科書 /Textbooks

未定。参加者の関心分野、履修した科目を考慮して、指定する。
候補：伊藤元重著『ゼミナール 国際経済入門』（日本経済新聞社）
Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy
（邦訳：石井菜穂子他訳『国際経済：理論と政策』（新世社））

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英語の関連文献 (The Economist, Wall Street Journal など) をピックアップし、その都度資料を配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回-12回 前期に続き、輪読形式で報告してもらう。
質疑応答、ディスカッションを行い、理解を深める。
- 13回 研究テーマの設定、参考文献の調査
- 14回 個人研究発表会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 40 % 課題報告 40 % ディスカッションへの貢献 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告が割り当てられなくても、毎回必ず予習し、自分の納得するまで読み込んでほしい。授業中、参加者の積極的な発言を求める。
英語の関連文献を適当配り、勉強することがある。
学期末に、ポスターセッションへの発表を目指すこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界同時不況について検討します。

教科書 /Textbooks

岩田規久男『世界同時不況』ちくま新書2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回目の授業で説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方
- 2回 金融危機の勃発
- 3回 あまりが金融危機はなぜ世界金融危機に発展したのか
- 4回 アメリカはなぜ不況に陥ったか
- 5回 世界同時不況はなぜ起きたのか
- 6回 1930年代の世界恐慌はなぜ起きたのか (1)
- 7回 同上 (2)
- 8回 昭和恐慌
- 9回 高橋財政
- 10回 日本の金融危機
- 11回 失われた10年はなぜ起きたか
- 12回 2000年代の経済回復
- 13回 世界同時不況からどう脱出するか (1)
- 14回 同上 (2)
- 15回 ディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容70% 授業中の態度 (ディスカッションへの参加など) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポーター以外の人も必ずテキストを読み、問題点、疑問点をまとめておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iでは日本の予算制度などの財政制度の現状を中心に考察した。演習IIではこのような日本の財政制度にどのような問題があるのかを考察する。具体的には、経済政策、財政政策、社会保障政策上でどのような問題が起きているのかを考察する。その上で、卒業研究のテーマを決める。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。資料は適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政 (各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制 (各年度版)」財経詳報社 ○
 他に現在の財政制度上の問題点を指摘した参考文献を適宜紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション (本演習の進め方の説明)
 2回~15回 学生による報告 (事前に与えられた課題について、発表を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題報告...100%
 課題発表予定時に無断欠席した学生には単位を与えないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時間があれば、図書館に所蔵してある新書を読んで、現代経済の様相について関心を持つようになって欲しい。最近のお勧めの新書は
 堤 未果「ルポ 貧困大国アメリカ」岩波新書 2008年
 青砥 恭「ドキュメント 高校中退 - いま、貧困がうまれる場所 - 」ちくま新書 2009年
 である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テキストに基づき、輪読形式とディスカッションを中心として授業を進める。ゼミの進行とともに、ディスカッションや表現技法、論文作成などの基本スキルについても学習する。

教科書 /Textbooks

授業の中で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 現代的立地理論の習得
- 3回 現代的立地理論の習得
- 4回 現代的立地理論の習得
- 5回 現代的立地理論の習得
- 6回 現代的立地理論の習得
- 7回 現代的立地理論の習得
- 8回 現代的立地理論の習得
- 9回 現代的立地理論の習得
- 10回 現代的立地理論の応用
- 11回 現代的立地理論の応用
- 12回 現代的立地理論の応用
- 13回 現代的立地理論の応用
- 14回 現代的立地理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習II【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iと同様，労働者の働き方，企業の雇用政策，労働に関する諸問題，労働政策などを中心に考察する。各自の関心にもとづき研究テーマを設定し，卒業研究に向けて必要な知識・技術を身につける。

教科書 /Textbooks

事前には指定しない。最初の演習で輪読する書籍を決めた上で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心によるため，特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション(演習内容の説明，輪読・発表の割当など)
第2回～第15回 学生による輪読・発表
* 第1回インタロダクションで輪読する書籍や課題を学生との話し合いで決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み及び発表 100%
原則として無断欠席した学生には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関心のあるトピックについての書籍を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習I~IVまで連続的に履修し、卒業論文を作成することを目的とする。演習IIでは、演習Iで検討した研究テーマにつきその関連文献の収集および検討に係わる演習と議論を行う。演習の最後に期末レポートとして、卒業論文の中の1章となる既存文献の検証を作成・提出することが必須となる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 3回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 4回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 5回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 6回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 7回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 8回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 9回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題報告... 2.5% 期末レポート... 5.0% 毎回の演習への貢献... 2.5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

統計学I、IIは本演習履修以前に履修済みであること。また計量経済学I、IIも履修済みであることが望ましい(履修していないものは3年次に履修することが必須となる)。

履修上の注意 /Remarks

都市・地域経済の数量分析を中心に行うため、数学(微分積分や線形代数)の基礎が必要。また、英文論文の輪読等も行う予定であるため、英語にある程度の知識を必要とする。これらの基礎があれば、本演習は学生の知的好奇心を非常に満足させるものとなる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIIでは、演習IIで各自が選択した研究テーマをもとに卒業論文を作成します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。また、卒業後の進路についても、ゼミを通じてしっかり考えてもらうために、自己分析、希望する進路について検討します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～12回 研究テーマの設定作業と経過報告
- 13～15回 研究中間報告

成績評価の方法 /Assessment Method

演習に対する取り組み姿勢および発表内容...40% 課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告するためにしっかり時間をかけて準備をして下さい。そのためには、文献、資料を集め、しっかりと読み、論点を整理してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成の1つである卒業論文の準備を行うことにより、ゼロから自分の考えをまとめ人に伝えていく術を身につけることを目標とします。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。(各自の問題意識が多様なため)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。(各自の問題意識が多様なため)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業論文のテーマの検討
- 4回 卒業論文の企画について(プレゼンテーション)
- 5回～12回 卒業論文に係る参考文献についての報告
- 13回～15回 卒業論文の構想案と今後の計画について(プレゼンテーション)

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50% 卒業論文の構想案 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文のテーマを決定するために、また卒業論文を完成させるために、自らの問題意識に従って参考文献を探索や、新聞・雑誌・インターネットから情報収集を日常的に実施して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディキジット・ネイルハフ 『戦略的思考をどう実践するか?』 阪急コミュニケーションズ 2010.
エアーズ 『その数学が戦略を決める』 文藝春秋 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論を受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にむけ、文献を読み、資料を収集する。

教科書 /Textbooks

各自で研究内容にあった文献を収集する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 文献の輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究内容を報告する準備をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習はミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社
- ・ 林 紘一郎『ネットワーキング情報社会の経済学』NTT出版
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* 受講者はそれぞれ、興味のあるミクロ経済現象・問題を見つけ、研究テーマについて報告し、議論を行う。なお、本演習では、最終的に、受講生各自のゼミ論文の基本的テーマを決定する。

- 1回 イントロダクション：演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(11)
- 13回 調査研究結果の報告、議論(12)
- 14回 演習IV案内
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。

履修上の注意 /Remarks

常に現実のミクロ経済に興味をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に関しては、徹底的な準備を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

インプットからアウトプットを得るトレーニングを行う。課題の文献を読み、自分の考えを文章にして表現することによって自らの考えを整理してもらいたい。
また、あわせて卒業論文のテーマを確定してもらおう。

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回購読文献の選定
- 2 回～ 1 4 回学生のレポートを中心として購読を進める
必要に応じて卒業論文のテーマについて話し合う
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 1 0 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他人の意見を参考にして、自らの考えを作り上げてもらいた。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks
教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method
平素の成績 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
報告用レジユメを用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の関心分野を他の参加者と議論して一つのテーマに絞り、それについて資料を集め、そこから疑問を設定し、自分たちなりの解答を導きます。これを通じて、自分の考えや疑問を的確に他人に伝え、相手に理解してもらい、また他人を上手に理解してあげることができるようになることがねらいです。学期末に学生主体で発表会を行い、そこでコメントを受けることを目指します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～12回学生による途中経過の報告
- 1 3 回～14回発表会
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席してチーム単位で「学期末発表会での発表・授業での報告とディスカッション・発表会実施のための割り当て作業」をすべて行うこと...60% , これ以外の議論への参加...30% , チームへの特段の貢献...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

割り当てられた報告の回に途中経過を報告できるよう、調査・研究をすること。他の参加者の作業に対して意見を表明できるよう準備すること。発表会の実施およびそのための意見交換のために必要となる文書作成や準備・調整作業を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容・進め方を説明し、さらに、卒業研究テーマの例を提示して説明する。
2回～15回 発表(2名ずつ)。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次に続き、環境ビジネスについて学びます。とりわけ、新たな環境ビジネスの創出や、地域における環境活動とビジネスのつながりについて、具体的に北九州を舞台に考えていきます。教室以外での実習やフィールドワークなども実施する予定です。また、各自の卒業研究について報告およびディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定。ゼミ参加者の関心や習熟度などを考慮して、指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒業研究の方法と課題
- 3回 卒業研究テーマ報告会
- 4回 文献輪読とディスカッション
- 5回 文献輪読とディスカッション
- 6回 文献輪読とディスカッション
- 7回 ケーススタディから学ぶ(調査)
- 8回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 9回 ケーススタディから学ぶ(ディスカッション)
- 10回 ケーススタディから学ぶ(ビジネスモデルの抽出)
- 11回 卒業研究中間報告
- 12回 卒業研究中間報告
- 13回 卒業研究中間報告
- 14回 卒業研究中間報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、日頃から環境問題や経済問題に関心を持つことが重要です。新聞は必ず購読することを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス、ソーシャルビジネス

演習III 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究論文の執筆に向けて、関連文献の輪読を通じて理解を深め、研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回-14回 輪読または研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず事前に予習と準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミ論の作成が最終目標です。演習IIIでは1990年代の長期不況と金融危機について基本的文献によって整理した後、テーマ設定をおこないます。

教科書 /Textbooks

当面向下記の本を輪読してゆき、文献整理後、あらたなテキスト決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマに関する基本文献をゼミのメンバーで整理します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方
- 2回 高度経済成長
- 3回 1970年代の日本経済
- 4回 バブル経済
- 5回 長期不況の構造
- 6回 国際経済関係
- 7回 日本の産業
- 8回 日本の企業経営
- 9回 ゼミ論のテーマ設定
- 10回 ゼミ論のテーマ設定とグループ分け
- 11回 テーマ関連論文の輪読
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの報告内容70% 授業中の態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1回目の授業時に指示します。

履修上の注意 /Remarks

各自決めたテーマに関する文献をしっかりと収集しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習I・IIを通じて日本の財政や社会保障の現状などを文献によって学習をし、その上で卒業研究のテーマ決定を行った。演習IIIでは、決めたテーマに従って卒業研究を進めていく作業を行う。演習IIIでは主にサーベイを中心に研究を進めてもらう予定である。卒業研究のサーベイに必要な文献は私からも適宜紹介し、学生にとって卒業研究が無理なく進むよう配慮する予定である。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン(自己紹介、本演習の進め方の説明)
- 2回~15回 学生による報告(卒業研究の進捗状況を報告)

学生の卒業研究の進め方の参考とするため、私の研究報告も適宜行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題報告...100%
課題発表予定時に無断欠席した学生には単位を与えないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ報告に際しては十分準備をして欲しいですが、行き詰った時などは気軽に相談して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、ディスカッションの能力も深めていく。

教科書 /Textbooks
テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
日常の授業への取り組み・・・ 50% 課題・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
経済地理学IIIを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

演習Ⅳ【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Ⅳでは、演習Ⅲにつづき、各自が定めたテーマを卒業論文としてまとめます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、卒業論文の途中経過を報告します。

- 1回 オリエンテーション
- 2～13回 卒論の中間報告
- 14～15回 卒論の発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

演習、卒業論文に対する取り組み状況および発表内容...40% 課題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文完成に向け、多くの文献、資料を集め、しっかり読んで、問題点、論点を明確にしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自の問題意識に沿ったテーマで、大学生としての集大成の1つである卒業論文を完成させます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。(各自の問題意識が多様なため)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

卒論テーマに沿って個人別に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 卒業論文の中間報告(プレゼンテーション)
- 4回～12回 卒業論文に係る参考文献やヒアリング調査等についての報告
- 13回～15回 卒業論文の発表(プレゼンテーション)

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメ作成 50% 卒業論文 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本ゼミについては、2万字程度の卒業論文の完成を目指しますので、日頃から文章力の向上や図表による表現力の向上に努めることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自が興味のあるテーマの調査、分析を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディキシット・ネイルバフ 『戦略的思考をどう実践するか?』 阪急コミュニケーションズ 2010.
エアーズ 『その数学が戦略を決める』 文藝春秋 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
各週報告者を決めて、そのレポートに対する討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

総合的に評価する。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・産業組織論を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

各自で卒業論文作成に必要な文献を収集しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 卒業論文の報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の報告を出来るように準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習はミクロ経済学の基礎理論を研究することを目的とする。現代の経済は多様化・複雑化し、それらを総体的に把握することはますます困難なことになっている。ここでは、このような現実の経済における種々のミクロ的経済現象・問題をも取り上げ、ミクロ経済分析についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊坂有三・峰滝和典『ITエコノミー』日本評論社
- ・ 林 紘一郎『ネットワーク情報社会の経済学』NTT出版
- ・ 松石勝彦(編)『情報ネットワーク論』青木書店
- ・ 友野典男『行動経済学』光文社新書(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* ミクロ経済分析の知識を用いて、現実の経済の動きについての理解を高める。具体的に、受講者は、演習Ⅲに続いて、それぞれ興味のあるミクロ経済現象・問題の中から、各自研究テーマを決定し、報告・議論を通じて研究を深める。なお、本演習では、最終的に、各自研究テーマについてゼミ論文をまとめ、提出する。

- 1回 インTRODクシヨN: 演習の目的、計画など
- 2回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 3回 調査研究結果の報告、議論(1)
- 4回 調査研究結果の報告、議論(2)
- 5回 調査研究結果の報告、議論(3)
- 6回 調査研究結果の報告、議論(4)
- 7回 調査研究結果の報告、議論(5)
- 8回 調査研究結果の報告、議論(6)
- 9回 調査研究結果の報告、議論(7)
- 10回 調査研究結果の報告、議論(8)
- 11回 調査研究結果の報告、議論(9)
- 12回 調査研究結果の報告、議論(10)
- 13回 調査研究結果の報告、議論
- 14回 演習(Ⅰ~Ⅳ)再考
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告・演習への参加態度 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学、マクロ経済学についての理解しておくこと、本演習の成果をより大きなものにする。

履修上の注意 /Remarks

現実のミクロ経済に興味をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

特殊なミクロ経済行動

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業論文を作成してもらい、その進捗状況を報告してもらう。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 進捗報告
- 2回 進捗報告
- 3回 進捗報告
- 4回 進捗報告
- 5回 進捗報告
- 6回 進捗報告
- 7回 進捗報告
- 8回 進捗報告
- 9回 進捗報告
- 10回 進捗報告
- 11回 進捗報告
- 12回 進捗報告
- 13回 進捗報告
- 14回 進捗報告
- 15回 進捗報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 ... 50 % 日常の授業への取り組み ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に関しては、徹底的な準備を要求する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

半分は、学生時代の総決算として比較的「堅い」文献の輪読という伝統的なゼミを行う。「じっくり深く読み込む」ために、これまでの学習成果を総動員してもらいたい。
残りの半分は、卒業論文の中間報告会を行う。自分の考えを文章にして表現することは自分自身と向い合う上で最も効果的な方法の一つである、ということを確認してもらいたい

教科書 /Textbooks

参加者と相談し適宜定める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回購読文献の選定、卒業論文のテーマと進捗状況の確認
- 2 回～14 回学生のレポートを中心として購読を進める
卒業論文の中間報告
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート内容およびゼミ参加の姿勢 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ある意味、大学生生活の総括であることを自覚してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自で定めた研究テーマについて卒論をまとめる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：毎週一人ずつ卒業論文の中間報告を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告用レジユメを用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

チーム単位で疑問を設定し、それについて資料を集め、そこから疑問を設定し、自分たちなりの解答を導きます。これを通じて、自分の考えや疑問を的確に他人に伝え、相手に理解してもらい、また他人を上手に理解してあげることができるようになることがねらいです。学期末に学生主体で発表会を行い、そこでコメントを受け、成果を文書化することを目指します。

教科書 /Textbooks

別途の指示がなければ用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～12回学生による途中経過の報告
- 1 3 回～14回発表会
- 1 5 回今後の学習・研究の方針について議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席してチーム単位で「学期末発表会での発表・公開用ペーパーの作成・授業での報告とディスカッション・発表会実施のための割り当て作業」をすべて行うこと...60%、これ以外の議論への参加...30%、チームへの特段の貢献...10%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

割り当てられた報告の回に途中経過を報告できるよう、調査・研究をすること。他の参加者の作業に対して意見を表明できるよう準備すること。発表会の実施およびそのための意見交換のために必要となる文書作成や準備・調整作業を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容・進め方を説明するとともに、卒業研究テーマの例を提示して説明する。
2回～15回 発表(2名ずつ)。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさず
・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を調べ、決められた時間内で説明できる
ようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：環境ビジネス
各自の問題関心に沿って、卒業論文を作成します。中間報告とディスカッションを重ねながら、各人の研究をベースにした相互学習を図ります。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みの課題発表会
- 2回 卒業論文中間報告
- 3回 卒業論文中間報告
- 4回 卒業論文中間報告
- 5回 卒業論文中間報告
- 6回 ケーススタディの研究と報告
- 7回 ケーススタディの研究と報告
- 8回 ケーススタディの研究と報告
- 9回 ケーススタディの研究と報告
- 10回 卒業論文中間報告
- 11回 卒業論文中間報告
- 12回 卒業論文中間報告
- 13回 卒業論文中間報告
- 14回 報告準備および予備作業
- 15回 卒業論文報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業におけるディスカッション状況... 40% 授業における発表内容 ... 30% 課題 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境ビジネス、ソーシャルビジネス

演習Ⅳ【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究論文の執筆に向けて、関連文献の輪読を通じて理解を深め、研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究の進捗状況を確認する
- 2回－14回 卒業研究報告または論文指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず事前に予習と準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文の作成が目標です。テーマに関する基本的文献と整理し、中間報告を重ねながら完成させます。

教科書 /Textbooks

各グループで決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自でテーマに関する基本文献を整理します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの確認
- 2回 基本的文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 中間報告
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 最終報告
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

作成論文の内容80% 授業中の態度20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告用のレジユメの作成をきちんと行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Ⅲに引き続き、卒業研究を進める。演習Ⅲではサーベイを中心にどこまで研究が進んでいるのかを明らかにすることを中心としたが、演習Ⅳではその上で自分の主張を入れて卒業研究を完成させる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(本演習の進め方の説明)
- 2回~15回 学生による研究報告(卒業論文の途中報告を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告...100%
研究報告予定時に無断欠席した学生には単位を与えないので注意すること。
最終回には完成された卒業論文を報告する。この最終報告に間に合わない場合も単位を与えないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ報告に際しては十分準備をして欲しいですが、行き詰った時などは気軽に相談して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に力をいれていく。経済地理学の基礎的な考え方や産業論をもとに、各自のテーマを追究し、論文を仕上げる。同時にテキストも輪読し、ディスカッションの能力を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストについては各人の研究テーマに応じた文献を、そのつど紹介することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 3回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 4回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 5回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 6回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 7回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 8回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 9回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 10回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 11回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 12回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 13回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 14回 企業立地、産業立地に関する論文作成指導
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% 課題・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Ⅲを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業立地、産業立地、都市システム、地域構造

統計学I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題1
- 15 推定と検定に関する標準問題2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イン트로ダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、 t 変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、 t 変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提して行われる。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 6回 市場と厚生(2): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【余剰分析】、【価格規制】
- 8回 需給分析の応用(2): 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ベビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について (1) 【取引のメリット・生産可能性・機会費用】
- 6-7回：相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】 【需要の弾力性】 【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】 【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】 【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き・問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について (1) 【取引のメリット・生産可能性・機会費用】
- 6-7回：相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】 【需要の弾力性】 【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】 【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】 【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き・問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版(最新年版(毎年出版されています))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
(【 】は講義のキーワード)
1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【景気】
4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【国民負担率】
12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【予算】
14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
15回 まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後には各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学のはじめの一歩となる講義科目ですので講義内容をしっかりと理解して下さい。講義内容をしっかりと理解するためには講義に出席するだけでなく、指定されたテキストを穴があくほど読み込んでください。言うまでもなく、講義内容についての質問はどんどんしてください。しかしながら、分からないことはまず学生同士で大いに考えあってください。ああでもない、こうでもないと考えをめぐらすことが理解へとつながります。

キーワード /Keywords

GDP GNI 名目と実質 金融 利子率 貨幣 金融政策 為替 租税 市場の失敗 失業

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版(最新年版(毎年出版されています))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
(【】は講義のキーワード)
1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【景気】
4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【国民負担率】
12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【予算】
14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
15回 まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後には各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学のはじめの一歩となる講義科目ですので講義内容をしっかりと理解して下さい。講義内容をしっかりと理解するためには講義に出席するだけではなく、指定されたテキストを穴があくほど読み込んでください。言うまでもなく、講義内容についての質問はどんどんしてください。しかしながら、分からないことはまず学生同士で大いに考えあってください。ああでもない、こうでもないと考えをめぐらすことが理解へとつながります。

キーワード /Keywords

GDP GNI 名目と実質 金融 利子率 貨幣 金融政策 為替 租税 市場の失敗 失業

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基礎的な計算方法を身につけます。この講義では、1次関数や2次関数からスタートし、関数と接線の関係や逆関数とグラフの関係を理解します。また、指数法則と対数法則をもとに指数関数と対数関数の性質を学習します。微分では、経済でよく使われる多項式関数、指数関数、対数関数の微分を理解し、微分に関する性質として関数の四則演算についてのルールや合成関数の微分計算を身につけます。さらに、合成関数や逆関数の微分公式と対数微分法を練習します。積分では、不定積分と定積分の概念と置換積分法などの計算練習を行います。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1回：関数の考え方と微分 | 【関数の極限】、【連続関数】 |
| 2回：関数の考え方と微分 | 【接線】、【導関数】、【線形性】 |
| 3回：指数関数と対数関数 | 【指数関数のグラフ】、 |
| 4回：指数関数と対数関数 | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5回：導関数 | 【多項式の微分】、 |
| 5回：導関数 | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7回：微分 | 【関数の和・差の微分】 |
| 8回：微分 | 【関数の積・商の微分】 |
| 9回：微分法 | 【合成関数の微分】、【対数微分】 |
| 10回：微分法 | 【逆関数の微分】、【曲線とグラフ】 |
| 11回：不定積分 | 【多項式的不定積分】 |
| 12回：不定積分 | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13回：定積分 | 【多項式の定積分】 |
| 14回：定積分 | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・30%
期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論(改訂版)』(税務経理協会)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』(税務経理協会)、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』(税務経理協会)、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』(TAC出版)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算(その1)【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算(その1)【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後から今日までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗ほか(2006)『現代日本経済 - 新版』有斐閣アルマ。なお、本テキストは、現代日本経済入門Bのテキストと同一である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- 1 回現代日本経済をみる眼と戦後改革
- 2 回経済復興
- 3 回高度成長のメカニズムについての概説
- 4 回産業政策の効果
- 5 回メインバンク・システム
- 6 回安定株主化
- 7 回「民族大移動」と大量消費社会の出現
- 8 回石油危機と経済構造の転換についての概説
- 9 回赤字国債
- 10 回債権大国・経済大国への道についての概説
- 11 回プラザ合意と直接投資
- 12 回赤字国債
- 13 回バブル崩壊と日本型企業システムの転換についての概説
- 14 回不良債権問題
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所を事前に講読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として平易に解説していく。学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになる。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年、¥2,625

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド(1)【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 2回 日本経済のトレンド(2)【安定成長】【ハイテク産業】【バブル経済】
- 3回 日本経済のトレンド(3)【構造改革】【IT産業】【中国市場】
- 4回 まとめと復習
- 5回 日本企業の国際競争力(1)【ジャストインタイム】【企業系列】
- 6回 日本企業の国際競争力(2)【自動車クラスター】【トヨタイズム】
- 7回 日本企業の国際競争力(3)【東アジア市場】【電機産業】
- 8回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】
- 9回 まとめと復習
- 10回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 11回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】
- 12回 日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】
- 13回 日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】
- 14回 日本企業の新規事業展開(補論)【イノベーション】【クラスター】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代日本経済入門Aを履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際競争力、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 中山 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

パソコン（コンピュータ）をより高度に利用するためには、パソコンが処理すべき問題を分析して適切に手順化しパソコンに与える、プログラミングの作業が必要となる。授業ではVisual Basicというプログラミングのためのツールを使って、実際に動作するプログラムを作りながら、プログラミングの基本的な考え方と技術を学んでいく。さらに、より応用的な課題を設定し、それらを解決するために必要なプログラミングの知識について、演習を通じて習得する。

教科書 /Textbooks

林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子: 実習 Visual Basic、サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて随時指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータとプログラミングの基礎
2. Visual Basicソフトウェアの基本操作
3. データの入出力と順次処理(1)【変数、式、文】
4. データの入出力と順次処理(2)【代入文、入出力】
5. 分岐処理(1)【二分岐、条件式】
6. 分岐処理(2)【多分岐】
7. 繰り返し処理(1)【一般的な繰り返し】
8. 繰り返し処理(2)【回数指定の繰り返し】
9. より複雑なデータの処理(配列)
10. プログラムの分割と構造化
11. 応用プログラミング(ミニゲーム)
12. 応用プログラミング(グラフィック1)【基本的な動作の作成】
13. 応用プログラミング(グラフィック2)【複雑な動作への拡張】
14. 他のソフトウェアにおける応用 (Visual Basic for Application)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績を70%、演習、提出課題など平常の学習状況を30%として評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学のパソコン (Windows) の基本操作に習熟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミング【昼】

担当者名 /Instructor 中山 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

パソコン（コンピュータ）をより高度に利用するためには、パソコンが処理すべき問題を分析して適切に手順化しパソコンに与える、プログラミングの作業が必要となる。授業ではVisual Basicというプログラミングのためのツールを使って、実際に動作するプログラムを作りながら、プログラミングの基本的な考え方と技術を学んでいく。さらに、より応用的な課題を設定し、それらを解決するために必要なプログラミングの知識について、演習を通じて習得する。

教科書 /Textbooks

林直嗣、室井勝子、鈴木三枝子: 実習 Visual Basic、サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて随時指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータとプログラミングの基礎
2. Visual Basicソフトウェアの基本操作
3. データの入出力と順次処理(1)【変数、式、文】
4. データの入出力と順次処理(2)【代入文、入出力】
5. 分岐処理(1)【二分岐、条件式】
6. 分岐処理(2)【多分岐】
7. 繰り返し処理(1)【一般的な繰り返し】
8. 繰り返し処理(2)【回数指定の繰り返し】
9. より複雑なデータの処理(配列)
10. プログラムの分割と構造化
11. 応用プログラミング(ミニゲーム)
12. 応用プログラミング(グラフィック1)【基本的な動作の作成】
13. 応用プログラミング(グラフィック2)【複雑な動作への拡張】
14. 他のソフトウェアにおける応用 (Visual Basic for Application)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績を70%、演習、提出課題など平常の学習状況を30%として評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学のパソコン (Windows) の基本操作に習熟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究I【昼】

担当者名 /Instructor 土山 勇 / 北方キャンパス 非常勤講師, 小田 浩史 / Hiroshi Oda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生活において具体的な将来の職業を考え、そのためのキャリアプランニングをすることを目的にいたします。
「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか、大学で何をするのか、大学生として何を意識するのが、将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。

その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報を学びます。また、「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座の役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト：マイナビ2012オフィシャル就活BOOK 内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート
岡茂信 著、1,365円(定価)

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

就職情報サイト「マイナビ」など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(オリエンテーション)
- 2回 授業から得た情報の活用法と具体的な就活スケジュール
- 3回 社会を知る(社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義)
- 4回 自分を知る(自己理解の必要性)基礎編
- 5回 自分を知る(自己理解の必要性)実践編
- 6回 自分と社会との接点(職業興味の発見)
- 7回 業界研究(研究の方法と調べ方)
- 8回 先輩(OB・OG)から社会の話をお聴く
- 9回 業界研究(課題研究・中間報告)
- 10回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる①)
- 11回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる②)
- 12回 業界研究(将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける)
- 13回 現状把握(現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く)
- 14回 インターンシップの現状・今後求められる活動
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%
授業内での小レポート提出(計7回) 35%
最終授業での課題発表・提出 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。
また、この講義は「就職テクニク」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じ、何か動かなければならない。と、感じている学生の参加を待っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

当講義のねらいは、(1)就業体験を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、(2)学習体験を現場で活かし、学習意欲を高めるとともに実践的な知識を習得すること、(3)職業意識を涵養し、進路選択に資すること、(4)就業体験を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、である。
なお、業界研究IIに関するインターンシップ実施要領を参照すること。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習
第5回～12回 インターンシップによる実践的活動
第13回～15回 活動報告と事後評価

成績評価の方法 /Assessment Method

就業受け入れ事業体の評価と、学生が提出する報告書、および報告会の発表内容により総合的に評価する。なお、報告書は研修後、1週間以内に提出すること。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ運営委員会で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となる。なお、インターンシップ実施要領を参照すること。

履修上の注意 /Remarks

事前研修と事後研修の受講が必須です。詳しくはインターンシップ実施要領を参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済・社会 キャリア 実践

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people
- 2 回 Brands; Outsourcing
- 3 回 Discussing Promotions; Taking Part in Meetings; Case Study
- 4 回 Business Travel: Needs and Problems
- 5 回 Making Arrangements on the Phone; Case Study
- 6 回 Company Structure; Successful Organisation
- 7 回 Socializing and Networking; Case Study
- 8 回 Change: Managing and Describing
- 9 回 Taking Part in Meetings 2; Case Study
- 10 回 Money; Financial Terms; Raising Capital
- 11 回 Reporting Success; Describing Trends; Case Study
- 12 回 Advertising Media and Methods; Achieving Success; Planning Ad Campaigns
- 13 回 Presentations; Case Study
- 14 回 Cultural Awareness and Advice
- 15 回 Advice, Obligation and Necessity; Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Test
- 9 回 Workplace
- 1 0 回 Describing Location and Direction
- 1 1 回 Corporate Events
- 1 2 回 Offers, Requests, and Permission
- 1 3 回 Business Costs
- 1 4 回 Orders and Invoices
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年選抜クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Employment: Recruiting, Retaining, and Headhunting
- 2 回Managing Meetings; Case Study
- 3 回Free Trade; Fair Trade
- 4 回Working Conditions; Negotiating; Case Study
- 5 回Quality Control; Quality Management
- 6 回Making and Dealing with Complaints; Case Study
- 7 回Ethics; Responsible Business
- 8 回Problem Solving; Case Study
- 9 回Describing Character; Leadership Qualities
- 1 0 回Decision Making; Case Study
- 1 1 回Describing Innovations
- 1 2 回Presentation Techniques; Case Study
- 1 3 回Competitive Edge; Staying Competitive
- 1 4 回Being Diplomatic; Case Study
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Project Analysis
- 3 回 Project Discussion
- 4 回 Explaining Problems
- 5 回 Describing Solutions
- 6 回 Product Description
- 7 回 Unusual Markets
- 8 回 Test
- 9 回 Discussing Competitors
- 10 回 Market Share
- 11 回 Location Comparison
- 12 回 Giving Opinions
- 13 回 Discussing Careers
- 14 回 Interview Skills
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from the previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外書講読【昼】

担当者名 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発音の周波数域一つ取ってみても、英語と日本語は全く異なった言語と言えます。ですから、日本でだけ暮らしている人には、英語はたいへん聞き取りにくく感じられます。逆の経験として、私は、アメリカに住んでいたときに不意に日本語で話しかけられ、全然聞き取れなかったことがありました。

そんな英語の文章を、日本人がスラスラ読めるようにするにはどうすればいいんでしょう？私は、カタカナ発音と学校文法からどれだけ脱却できるかだと思います。その過程で、辞書をできるだけ引かず、書いてある内容を漠然とでも理解しながら適度なスピードで読み進む練習がとても重要になります。

教科書 /Textbooks

The Economist の記事 (こちらで用意します。)

The Economist は1843年9月にロンドンで発行が開始された世界的な経済雑誌です。世界中に事務所を構え、多くのビジネスマンや学者をファンに持ちます。記事の内容も世界のあらゆる経済事情に渡りますが、アメリカの事情を中心に毎回最新号の記事を読み解いていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な書籍があれば授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. The Economist を読む (1)
2. The Economist を読む (2)
3. The Economist を読む (3)
4. The Economist を読む (4)
5. The Economist を読む (5)
6. The Economist を読む (6)
7. The Economist を読む (7)
8. The Economist を読む (8)
9. The Economist を読む (9)
10. The Economist を読む (10)
11. The Economist を読む (11)
12. The Economist を読む (12)
13. The Economist を読む (13)
14. The Economist を読む (14)
15. The Economist を読む (15)

たとえば、日本のニュースでも株価、為替レートなどがよく出てきますが、あなたはそれらを英語で言えますか。正解はそれぞれ、stock price, foreign exchange rate です。日本のニュースでよく聞く経済用語も英語では意外と言えないものですね。

授業ではアメリカ産業の現状やアメリカ人の余暇の過ごし方など、産業や企業、消費生活についてのタイムリーな記事を取り上げ、参加意識を持ちながら楽しく読解に取り組んでもらいます。知らず知らずのうちに英文読解力が身に付くこと請合いです。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加具合や音読の上達度などから総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業では、英語習得のコツを伝授したいと思います。経済学者による英書講読の授業で、英語を読む勉強と経済知識の獲得と、一挙両得を目論みませんか？英語は得意だがもっと読解に強くなりたい人にも、昔から英語に苦手意識のある人にも、面白く、ためになる授業だと思いますよ。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際比較経済史I【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 1・ 講義の目的；過去を知ることによって現在および未来を予測すること。
 - 2・ 台風とその進路予測と良く似ている。
 - 3・ 日本経済を取り巻く状況を知る方法；財政学、金融論、など沢山ある。
 - 4・ 具体的にはイギリスの産業革命を取り扱う。それは今日の南北問題の原因を知るためである。
 - 5・ なぜ、イラク戦争や国際テロが起こっているのか。
 - 6・ なぜアフリカで反英闘争が激化しているのか。
- これらの原因の1つはイギリスである。
- 7・ なぜならば日本にも実はイギリスの産業革命が影響を与えている。
 - 9・ とくに北九州と関門地域である。
 - 10・ 今日はイギリスと関門地域-私のデートコースと題して、その関係を見よう。
 - 11・ またイギリスの影響を受けたドイツ資本主義についても検討する。
 - 12・ 紅茶帝国主義から自由貿易帝国主義へと展開したイギリス資本主義の特徴を見ることによって現在の資本主義の方向性を見極めよう。

教科書 /Textbooks

ノート講義を中心とする

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の目的と方法【台風とその予測】、【南北問題】
- 第2回 学説整理 大塚史学【商人資本】、【農村と都市】、【】
- 第3回 農民層の分解、【囲い込み運動】、【毛織物工業】【富裕農民】
- 第4回 大塚史学批判【世界資本主義】【上昇転化】【綿花と亜熱帯】
- 第5回 アジア三角貿易 【イギリス東インド会社】【中国の茶】【インドのキャラコ】
- 第6回 西インド三角貿易 【砂糖】【奴隷貿易】【プランテーション】【王立アフリカ会社】
- 第7回 キャラコ論争と産業革命 【ハ-グ-リーブズ】【アークライト】【クロンプトン】
- 第8回 技術革新と機械製大工業【ダ-ビ-】【ワット】【製鉄業】
- 第9回 イギリス資本主義確立の意味【賃労働と資本】【景気循環】【恐慌】
- 第10回 景気循環とインド市場【インド省】【本国費】
- 第11回 ドイツの荘園経済の特徴【ゲルマン民族】【エルベ川】【グルントヘルシャフト】
- 第12回 ゲ-ツヘルシャフトとイギリスとの結びつき【ベスト】【資本主義的農業】【奴隷】
- 第13回 ドイツの産業革命と金融資本【株式会社】【重工業】【金融資本】
- 第14回 過剰資本の処理困難と植民地再分割要求【大不況期】【持たざる国】【第1次世界大戦】
- 第15回 比較経済史の総まとめ-産業革命の歴史的意義-

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50%
出席点50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済史関係の著書を読んでおくこと。

角山栄『茶の世界史』（中央公論新書）
鶴見良行『バナナと日本人』（岩波新書）

国際比較経済史I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に都合により世界史や日本史を勉強しなかった学生や、忘れてしまった学生は是非参加をしてもらいたい。
歴史を知らない大人はグローバル社会の現在、肩身の狭い思いをすることになるからである。

キーワード /Keywords

国際比較経済史II 【昼】

担当者名 張 暁紅 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国が急速な経済発展を遂げていることはよく知られているが、中国がどのように発展し、どのような経済構造をもっているのかについては日本の学生は十分な知識を持っていない。この講義では、日本や欧米との違いを明確にしなが、できるだけやさしく中国の近現代経済史を話していきたい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

狭間直樹・岩井茂樹・森時彦・川井悟『中国近代史』有斐閣選書
中兼和津次監修『シリーズ現代中国経済』名古屋大学出版会
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近現代経済史の学習内容
- 第2回 アヘン戦争前の中国伝統経済
- 第3回 資本主義世界市場の形成と中国伝統市場
- 第4回 中国伝統市場の近代化
- 第5回 中国伝統経済構造の近代化
- 第6回 日中戦争と中国経済
- 第7回 ディスカッション：私を感じた中日近代経済史の相違点
- 第8回 中華人民共和国の成立と計画経済
- 第9回 計画経済時期の経済発展と停滞
- 第10回 改革開放政策
- 第11回 経済改革の展開
- 第12回 高度成長政策とその目標
- 第13回 格差の拡大とその是正
- 第14回 金融危機と中国経済
- 第15回 ディスカッション：中国現代経済史を学んで

成績評価の方法 /Assessment Method

テストの成績 (70%)、ディスカッションへの参加度 (20%)
日常の授業への取り組み (10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくに必要ありませんが、復習はしっかりやってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
David Besanko and Ronald Braeutigam. Microeconomics. Wiley. 4 edition. 2010.
Preston McAfee. Competitive Solutions: The Strategist's Toolkit. Princeton Press. 2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用・最適化】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク・余剰】
- 6-7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14回 TyingとMixed Bundling
- 15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
井堀 利宏「新経済学ライブラリー7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
 - 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
 - 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
 - 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
 - 5回 租税①(日本の【租税】制度)
 - 6回 公債①(日本の【公債】事情)
 - 7回 演習(これまでの復習)
 - 8回 地方財政①(【地方財政制度】)
 - 9回 地方財政②(【地方財政事情】)
 - 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
 - 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
 - 12回 財政事情の国際比較
 - 13回 財政収支①(【財政収支】とは?)
 - 14回 財政収支②(【世代間の不公平】)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% レポート課題2つ... 50%(=25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

予算制度 租税 公債 地方財政制度 財政史 財政事情 財政収支 世代間の不公平

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○
 小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 インTRODクシヨN(財政学Iと経済理論のおさらい)
 - 2回 租税②(【租税理論】と日本の税制度の特徴について)
 - 3回 租税③(【負担】と転嫁)
 - 4回 公債②(【公債】の経済理論)
 - 5回 公共財①(【公共財】の最適供給)
 - 6回 公共財②(【投票】)
 - 7回 マクロ財政政策①(【減税政策】と【公共事業】)
 - 8回 マクロ財政政策②(【財政政策】が無効な場合)
 - 9回 演習(これまでの復習)
 - 10回 所得再分配
 - 11回 経済政策理論
 - 12回 社会保障制度①(【社会保障事情】)
 - 13回 社会保障制度②(【社会保障理論】)
 - 14回 最近の研究の動向について
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50% レポート...50%(= 25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

経済理論を扱うため、数学や計算を用いた講義となります(2回に1回程度)。また、高校レベルの数学である微分を用いることもありますが、微分を用いる計算については試験の範囲に含めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では計算をよく行います。よく使う計算は中学レベルなのですが、慣れていないとできないものです。しかしながら、中学レベルの計算は日常では必ず役に立ちますので(お買い物をする時など)、計算が苦手だという人もこの講義で是非慣れて欲しいです。

キーワード /Keywords

課税 公債 公共財 投票 マクロ財政政策 所得再分配 経済政策 社会保障

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーソン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

専門教育科目
選択科目A
現代経済学系

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「日本経済の動き」及び「世界経済の動き」を国際マクロ経済の視点から理解することができ、また日本経済を世界経済の動向と結び付けて理解できる。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（Ⅰ）：世界の余剰資金とアメリカ経済
【国際資本】【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済と新興経済国（BRICs）
【欧州連合】【ユーロ】【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の基本的分析視点（Ⅰ）-マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）-
- 第5回 第6回 国際マクロ経済の基本的分析視点（Ⅱ）-国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）-
- 第7回 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念
【貿易収支】【経常収支】【資本収支】【外貨準備】
- 第9回 第10回 国際収支と日・米経済関係
【貿易黒字】【貿易赤字】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ）
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ）
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高
- 第14回 世界経済の不均衡問題
【経常収支の黒字】【債権大国：日本・中国】【経常収支の赤字】【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおく、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結びつけて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズM
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】 【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の效果 【財政政策】 【金融政策】 【資本移動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策效果 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策效果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部 の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- * この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF 体制 円建レート ドル建レート
円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入
不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【パージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の地域経済の変化について学び今後について見通す。
1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
藻谷浩介『デフレの正体』角川oneテーマ21、2010年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 経済発展と人口【地人口動態】
- 3回 戦後日本の人口構成の変化【生産年齢人口】
- 4回 デフレの正体と地域経済【高齢化社会】
- 5回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 6回 ちょっと面倒な情報社会論批判
- 7回 技術革新と経済発展【技術論】
- 8回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 9回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 10回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 11回 労働市場の変容【格差社会】
- 12回 企業の変容
- 13回 CNと都市
- 14回 地域経済の行方
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州経済分析I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で現在展開されている産業政策を具体的に解説する。よって、受講生には今後の北九州市の経済社会を展望するとともに、経済活性化への施策について検討を加えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北九州都市協会『北九州に生きた人々 ものづくりの心を未来へ』(2006年3月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
 - 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【軍都】
 - 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
 - 4回 企業城下町としての北九州【企業城下町】、【社宅】、【鉄鋼業】
 - 5回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
 - 6回 地域産業政策の中の北九州【傾斜生産方式】、【地域産業】、【産学連携】
 - 7回 北九州学術研究都市の現状と課題【産学連携】、【クラスター政策】
 - 8回 ICT産業と北九州の産業振興【IT】、【クラウド】、【データセンター】、【情報化社会】
 - 9回 少子高齢化の中の北九州市【人口減少】、【少子】、【高齢化】、【地域コミュニティ】
 - 10回 日本の中の北九州市のポジション【人口】、【工業出荷額】、【政令指定都市】
 - 11回 産学連携の実態と今後の可能性【産学連携】、【大学】、【ベンチャー】
 - 12回 成熟社会の到来と市民セクターの台頭【市民セクター】、【協働】、【NPO】
 - 13回 北九州におけるNPOの現状と課題【NPO】、【指定管理者制度】、【協働】
 - 14回 北九州の経済活性化に向けて【経済活性化】、【地域振興】
 - 15回 まとめ
- * 8回目、12回目の講義はゲストを招聘する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、人口減少社会、成熟社会、情報化社会

北九州経済分析II【昼】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州地域を中心とした九州の主要産業の実態を分析しながら、産業のダイナミズムを学びます。また、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の経営戦略について具体的に考察します。

教科書 /Textbooks

九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』西日本新聞社(2010年10月)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

アナタ・M・マクガーハン『産業進化4つの法則』ランダムハウス講談社(2005年6月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域企業への関心を高めるために【企業広告】、【マーケティング】
- 2回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 3回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 4回 地域の老舗企業の特徴【老舗企業】、【企業の寿命】、【経営戦略】、【倒産】
- 5回 北九州の鉄鋼業の変遷と企業集積【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】
- 6回 北九州の鉄鋼関連企業の経営戦略【下請け】、【国際戦略】
- 7回 九州の半導体産業の動向【シリコンアイランド】、【半導体】、【国際分業】
- 8回 九州の自動車産業の動向【自動車】、【企業立地】、【下請け】、【産業ピラミッド】
- 9回 自動車産業を担う中小企業の経営戦略【中小企業】、【経営戦略】、【下請け】
- 10回 食品産業の今後の可能性【食料】、【農業】、【焼酎産業】
- 11回 F Cビジネスと外食産業【店舗展開】、【F Cビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 12回 地域における小売業の歴史I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】、【大量消費】
- 13回 地域における小売業の歴史II【コンビニ】、【通信販売】、【IT】、【業態変化】
- 14回 産業のダイナミズムと企業戦略【産業構造】、【成長産業】、【衰退産業】
- 15回 まとめ

* 6回目と9回目の講義はゲストを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 20 % 課題レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今現在は興味はななくとも、北九州市立大学の学生として北九州に縁のある企業について少しでも知識を蓄えて欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

地域産業、産業構造、地域企業、新事業創出

地域政策【昼】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、その上で新しい地域政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のグランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換とその背景（これまでの講義の振り返り）
- 10回 新産業育成と地域政策（環境産業を事例に）
- 11回 地域間連携と地域政策
- 12回 地域づくりと地域政策（観光振興を事例に）
- 13回 地域づくりと地域政策（コミュニティビジネスを事例に）
- 14回 今後の地域政策に必要なものを考える
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 30% 期末テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学、地域経済、都市地理学、北九州経済分析などと併せて受講すると、より理解が深まるでしょう。

受講にあたっては、単に「授業に出てノートを取り知識を得る」ということではなく、自ら現状を分析し考えるということを意識してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、国土計画、地域づくり

中国経済【昼】

担当者名 /Instructor 園 康寿 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【ねらい】

新聞・雑誌などの中国に関する政治経済の項目がより多く理解できるようになること。

【テーマ】

テキストに従って、①中国の経済発展や農村問題を通して、改革開放政策の果たす役割、②経済発展に従って発生した格差問題やその問題解決への取り組み、③人口問題と一人っ子政策、④財政構造と一人っ子政策下での社会保障制度の役割と限界、⑤中国のモノづくりの特徴、⑥中国特有の戸籍制度の役割と問題、⑦人民元改革、⑧中国の環境問題などについて概説する。

教科書 /Textbooks

堀口正『中国経済論』世界思想社、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の進度に従って、適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国経済の概要
- 2回 農村経済【農業生産・流通・農村工業】
- 3回 地域格差と貧困問題
- 4回 対中経済協力
- 5回 人口問題
- 6回 財政問題【財政請負制、分税制、社会保障制】
- 7回 日中のモノづくりの特徴【家電産業、自動車産業】
- 8回 戸籍制度と労働移動【流動人口の管理と処遇】
- 9回 人民元切り上げの効果【中国の金融システム】
- 10回 環境問題
- 11回 観光開発【中国の観光・ツーリズム】
- 12回 貿易構造【世界の貿易構造、中国の貿易構造】
- 13回 中国企業の国際化【対内直接投資の動向、対外直接投資の状況】
- 14回 WTOからFTAへ【中国のWTO加盟】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習レポート：50%、学期末定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の学習レポートは毎日の新聞の記事からスクラップ・ブックを作成します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の理解は中国に関することを一つでも多く知ることが大切です。毎日、新聞を眺めることから始めましょう。

キーワード /Keywords

中国の農村問題、中国の経済格差問題、中国の人口問題、中国の財政改革、中国の金融改革

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、発展著しい東アジア地域の経済動向を学習し、日本と東アジアとの今後の経済関係がどうあるべきかを考えてみることである。この授業では、まず東アジア経済を概観する。次に、経済発展の「成功」と「挫折」を経験してきた韓国に焦点を当てて、その発展過程を見る。そして、東アジアで現れている経済統合や地方間の国際交流などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済データで見る東アジア経済の現状
- 2回 世界の中の東アジア 【戦後の国際経済体制】【1970年代以上の国際分業】【プラザ合意】
- 3回 東アジア工業化戦略(1) 【1次産品輸出】【輸入代替工業化】
- 4回 東アジア工業化戦略(2) 【輸出志向工業化】【雁行形態型発展】
- 5回 技術の蓄積 【人的資本】【外国からの技術移転】【研究開発推進】
- 6回 開発主義と開発独裁 【政府の役割】【開発独裁】【開発政策の制度化】
- 7回 韓国の経済発展過程(1) 【経済開発5カ年】【財閥】【貿易の役割】
- 8回 韓国の経済発展過程(2) 【重化学工業化】【三低現象】【開発体制の台湾との比較】
- 9回 1990年代の韓国経済 【文民政権】【世界化・先進国化】【OECD加盟】
- 10回 アジア通貨危機の経緯 【21世紀型危機】【資本自由化】【通貨アタック】
- 11回 韓国におけるIMF危機の背景と経緯 【金融構造】【国際信用力】【総合金融会社】【IMF救済融資】
- 12回 IMF後の韓国経済 【4大改革】【V字型回復】【知識基盤経済】
- 13回 通貨危機に対する国際的対応策 【コンディショナリティ】【ASEAN+3】【通貨スワップ】
- 14回 東アジアにおける経済統合の動向 【ASEAN】【APEC】【日本の戦略】【地方の取組】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 学期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済の入門書を読んでおくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年A/Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせることで企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋剛一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (ただし出席は不定期に取り、単位の修得条件とする)
期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

民法総則【昼】

担当者名
/Instructor

中山 布紗 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、家族や財産、契約といった、社会生活における身近な人間関係の中で形成される基本的な「権利」や「義務」について定めた法律です。民法典は、5つの編(総則・物権・債権・親族・相続)に分かれています。民法総則はその1番目にあたる編で、残り4編の通則的事項を抽出した規定が配列されています(1条~174条の2)。民法とりわけ総則編の条文は、抽象的な内容であることに加え、普段耳慣れない難しい用語もたくさん出てきますので、一見とっつきにくいと思われることでしょう。しかし、民法総則は、民法全体を貫く基本的な原理について定めた条文群ですから、今後、民法の具体的な内容について学習するための「パスポート」的な役割を果たします。

この講義では、民法の原理・原則、法律用語の意味をひとつひとつ確認しながら、「法的なものの考え方」を身に付けてもらうことを目的とします。法的なものの考え方とは、「いかにして他人を説得させることができるか。」という観点から、結論に至る妥当な理由付けを紡ぎだすことです。皆さんも、学んだ知識を、具体的な事案(紛争)を解決するための道具として使いこなせるように努力してください。

教科書 /Textbooks

- ①佐久間毅『民法の基礎〈1〉総則(第3版補訂)』(有斐閣、2009年、3150円)。
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選1・総則・物権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。
- ③六法(出版社は問わない。ただし、定期試験には判例なし六法(書き込みなし)の持参のみ許可する。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス-民法総則とは何か / 講義の狙いと注意
- 第2回 人①- 権利能力の始期と終期 / 胎児の権利能力 / 同時死亡の推定
- 第3回 人②- 失踪宣告
- 第4回 法律行為の分類と内容確定 / 意思主義と表示主義
- 第5回 制限行為能力者制度①
- 第6回 制限行為能力者制度②
- 第7回 意思表示の瑕疵①心裡留保 / 虚偽表示
- 第8回 意思表示の瑕疵②錯誤
- 第9回 意思表示の瑕疵③詐欺・強迫
- 第10回 強行規定と任意規定 / 公序良俗違反
- 第11回 無効と取消し
- 第12回 代理総論 / 有権代理論
- 第13回 無権代理論①
- 第14回 無権代理論②表見代理 - 代理権授与の表示による表見代理
- 第15回 無権代理論③表見代理 - 権限超越の表見代理
- 第16回 無権代理論④表見代理 - 代理権消滅後の表見代理 / 表見代理規定の競合
- 第17回 無権代理論⑤代理権濫用
- 第18回 無権代理人の責任
- 第19回 無権代理と相続
- 第20回 代理のまとめ
- 第21回 条件と期限
- 第22回 法人①
- 第23回 法人②
- 第24回 時効①
- 第25回 時効②
- 第26回 時効③
- 第27回 民法の基本原則 - 権利濫用・信義則
- 第28回 民法94条2項類推適用論①
- 第29回 民法94条2項類推適用論②
- 第30回 民法事例問題の解き方 / 法律的に「論じる」ことの意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験により評価します(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法総則 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義には、先に挙げた指定教科書等①、②、③すべて（三点セット）を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、これから法学を学ぶ学生が法律の全体像を把握することをねらいとします。具体的な事件を解決するための手段である法律の基礎を体系的に理解することによって、法を身近なものとし、法に主体的に関わるための法の知識と考え方を修得します。

教科書 /Textbooks

伊藤真 著 『伊藤真の法学入門』 日本評論社 定価 (1500円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村田彰 編 『リーガルスタディ - 法学入門』 定価 (3150円) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義ガイダンス、法とは何か
- 2回 法と規範、法規範の特質と機能
- 3回 日本における法の歴史と法意識
- 4回 法学の学び方 1(法解釈と価値判断)
- 5回 法学の学び方 2(法を学ぶことの意義、リーガルマインドについて)
- 6回 憲法と法
- 7回 法と正義
- 8回 法的安定性
- 9回 法の体系、法の種類
- 10回 法の目的と価値基準
- 11回 法の解釈と基準
- 12回 日本の裁判制度と判例
- 13回 法律の勉強
- 14回 法律文書の書き方、法情報の調べ方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 平常の学習状況(小テスト、ミニツツペーパーを含む)...30%の配分の評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識を持って授業に臨まれば理解がより深まりますので、予習、復習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1、1 - 2、1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に使用したEUC(エンドユーザコンピューティング)のテキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年A/Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。
テキストは、各自で予め必ず用意してください。講義で毎回、使用する。また、数回、実施する小テストでは、教科書を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1回 企業形態と会社 | 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】 |
| 2回 企業形態の分布 | 【税務統計からみた法人企業の実態】 |
| 3回 私企業1 | 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】 |
| 4回 私企業2 | 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】 |
| 5回 私企業3 | 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】 |
| 6回 株式会社制度1 | 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】 |
| 7回 株式会社制度2 | 【企業ファイナンス】【直接金融】【間接金融】 |
| 8回 株式会社制度3 | 【株式所有構造】【株主行動の変化】 |
| 9回 株式会社の国際比較1 | 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】 |
| 10回 株式会社の国際比較2 | 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】 |
| 11回 企業統治1 | 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】 |
| 12回 企業統治2 | 【取締役会の改革と会社経営者】 |
| 13回 持株会社の解禁 | 【独禁法】【企業集団】【持株会社】 |
| 14回 株式会社の社会的責任 | 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつかない。②、現実に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年A/Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 日本的経営論特徴と課題【終身雇用】【年功制】【成果主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によりますが、学期中の小レポートの結果(10%)も加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の科目の基礎科目なので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療について関心をもっておいってください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ構造【昼】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 - 第2回：データベースシステム
 - 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 - 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 - 第5回：リレーショナルデータベース
 - 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 - 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 - 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 - 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 - 第10回：正規化とは【正規化】
 - 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
 - 第12回：データベース設計【データベース設計】
 - 第13回：データベース設計方法
 - 第14回：データベース設計評価
 - 第15回：まとめ
- (進行状況等により内容は変更になる場合があります。受講人数がコンピュータ教室に収容可能な場合はデータベースソフトの演習を実施します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。しかしこれが企業の戦略行動に具体的に活かされているかどうかは疑問が残り、しかも成熟市場下の現在、マーケティングをめぐる分析フレームワークも高度化してきている。
ここでは、このマーケティングをI(前期)とII(後期)に分け、マーケティングIでは、基礎的知識と科学的方法論をまず身につけることを目標とし、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 "
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 "
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 出席・課題等の平常点・・30% 期末試験・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングIIでは、戦略ロジックと具体的なスキルの習得を通じて、マーケティングに関する問題解決能力を身につけることを目標とし、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 "
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 "
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

前半：使用しない。
後半：清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 中間試験
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」=「利益」+「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第10講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第10講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第11講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第11講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第12講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第12講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第12講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第13講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第13講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第13講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第14講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「原価計算論I・II」を履修済みであることが望ましい。
電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』3版新世社、1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,830円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計(その1)【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科, 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度(中級レベル)の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに主眼をおきたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』(TAC出版)、そのほかプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 有価証券取引【売買・評価】
- 2回 固定資産取引【減価償却】
- 3回 引当金取引【貸倒引当金】
- 4回 手形【裏書と割引】
- 5回 社債【満期償還と買入償還】
- 6回 本支店会計【内部取引】
- 7回 演習(解答と解説)【日商簿記検定試験2級(第126回)】
- 8回 演習(解答と解説)【同上(第126回)】
- 9回 演習(解答と解説)【同上(第127回)】
- 10回 演習(解答と解説)【同上(第127回)】
- 11回 演習(解答と解説)【同上(第128回)】
- 12回 演習(解答と解説)【同上(第128回)】
- 13回 演習(解答と解説)【同上(第129回)】
- 14回 演習(解答と解説)【同上(第129回)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業において使われる簿記で、商業簿記と対比される。すなわち、材料を購入して加工し、製品化するまでの製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記とは大きく異なっている。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録していく。したがって、工業簿記を理解するためには、原価計算の仕組みを理解し、これと簿記システムとの関連を把握することが必要である。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習するが、理論説明に終始することなく練習問題を多く取り入れる予定であり、実際に記帳練習を行うことによってより確実な理解が得られるよう図っていききたい。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(増補改訂版)』 実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 工業簿記の基礎と構造
- 第 2 回 原価と原価計算
- 第 3 回 材料費の計算
- 第 4 回 労務費の計算
- 第 5 回 経費の計算
- 第 6 回 個別原価計算
- 第 7 回 製造間接費の配賦
- 第 8 回 部門別原価計算
- 第 9 回 総合原価計算
- 第 10 回 等級別総合原価計算
- 第 11 回 組別総合原価計算
- 第 12 回 工程別総合原価計算
- 第 13 回 標準原価計算
- 第 14 回 直接原価計算
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%)、日常の学習状況 (10%)、提出課題 (20%) を勘案して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓かソロバンを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

社会福祉原論 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今、わたしたちの生活を取り巻く社会のなかにはさまざまな世界との関わりがあります。世界で起こるいろいろな出来事を読み解きながら、今何が起きているのか？について学び、考える場所にしたいと思います。本講義では、世界と私たちの繋がりを「国際協力」の視点から考えます。地球上で起きているさまざまな問題を具体的に取り上げます。授業を通して、多様で多角的な視点から世界を見る視点を養い、「地球人」としての私たちの生き方を考え、養ってください。

教科書 /Textbooks

なし。講義ごとにレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

友松篤信・桂井宏一郎編『実戦ガイド国際協力論』古今書院
内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社
今田克司・原田勝弘編著『連続講義国際協力NGO』日本評論社
齋藤文彦編著『国際開発論』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義ガイダンス
- 2 私たちのまわりにある世界
- 3 国際協力とは何か？(1)
- 4 国際協力とは何か？(2)
- 5 国 / 政府における国際協力(1)【ODAとは】
- 6 国 / 政府における国際協力(2)【日本のODA】
- 7 国際機関による国際協力(1)【国際開発金融機関】
- 8 国際機関による国際協力(2)【援助関連専門機関】
- 9 NGO (非政府組織) による国際協力
- 10 貧困とは何か？(1)【貧困】
- 11 貧困とは何か？(2)【貧困削減の取り組み】
- 12 教育を支援する国際協力活動
- 13 保健・医療における国際協力
- 14 環境問題を巡る国際協力活動
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)
レポート(20%)
期末テスト(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加は大歓迎します。
写真や映像などを使って国際協力を頭と体と心で学びましょう。

キーワード /Keywords

国際協力 国際開発 ODA NGO 国際機関 国連 貧困削減 ミレニアム開発目標(MDGs) 保健・医療 環境問題 教育問題 市民社会 グローバリゼーション

国際協力論II 【昼】

担当者名 千知岩 正継 / Instructor
北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 授業のテーマ >

この授業では、国際協力の課題のなかでも、武力紛争への国際社会やNGOの対応について学びます。もう少し詳しくいうと、武力紛争そのものの予防、武力紛争や国家の破綻により引き起こされる人道危機への対処、紛争後の復興と平和の確立などが授業内容の中心となります。授業の前半では人道的介入や「保護する責任」の問題を、後半では平和構築を、それぞれ重点的にあつかいます。

< 学修目標 >

- ① 武力紛争の予防や解決、さらに人道危機のもとで苦しむ人びとの保護や救援について、どのような主体がどういった措置を講じてきたのかを事例にもとづき理解する
- ② 世界で生じる武力紛争の原因や特徴、戦火や人道危機にさらされている人びとの現状を知る
- ③ 現地の人びとの視点にたった紛争予防や平和構築、人道的介入の在り様について考える

教科書 /Textbooks

東大作『平和構築-アフガン、東ティモールの現場から-』（岩波新書、2009年）、819円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン [著]、大平剛 [訳] 『諸刃の援助-紛争地での援助の二面性-』（明石書店、2006年）、3,045円
- 大平剛『国連開発援助の変容と国際政治-UNDPの40年-』（有信堂、2008年）、4,200円
- 最上敏樹『人道的介入-正義の武力行使はあるか-』（岩波新書、2001年）、777円

※授業中に適時紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

イントロダクション

1. 冷戦の終焉と国際社会：冷戦、新世界秩序、グローバル化
2. 新しい戦争：弱い国家、国内武力紛争、アイデンティティ・ポリティクス
3. 国連PKOの変容：予防展開、平和強制部隊、平和構築
4. 冷戦後PKOの事例 旧ユーゴスラヴィア紛争：民族浄化、国連保護軍、NATO
5. 人道的介入と「保護する責任」①：介入の権利、ルワンダ・ジェノサイド、コソヴォ紛争
6. 人道的介入と「保護する責任」②：予防する責任、対応する責任、再建する責任
7. 武力紛争にたいする予防外交：早期警報、根本原因の予防、直接予防
8. 紛争後の復興支援と平和構築 総論：政治・法制度改革、選挙支援、司法支援
9. 紛争後の復興支援と平和構築 各論：法執行支援、SSR、DDR
10. 平和構築の具体的事例①：東ティモール、
11. 平和構築の具体的事例②：アフガニスタン
12. 紛争地域での援助活動：人道援助活動、援助の二面性、人道援助機関
13. 武力紛争とグローバル市民社会：国際人道法、オタワ・プロセス、オスロ・プロセス
14. 平和へと向かう現地の力：レバノン、ブルンジ、ソマリア
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20%
期末試験：30%
レポート課題：50%

※レポート課題については第1回目の授業で説明します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論II 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際協力論I」を履修しておくこと、本授業の理解が深まります

履修上の注意 /Remarks

前もって指示するので、教科書や配布プリントを読んで予習する。配布プリントに記載の設問を解いて復習する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争予防、国連平和維持活動、人道的介入、保護する責任、平和構築

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困の現状を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 循環型社会(1)・・・導入、リサイクルは環境に優しいのか？
- 9回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 10回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を変更する予定であるので、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、介護保険

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の人口の約半数の6400万人は働いて生活基盤を確保している。その内、5400万人は、企業や官公庁で働いており、「労働契約」を締結し雇用労働関係にある。学生諸君にとっては、就職（22歳）から定年（65歳）まで、実に40年以上に渡り長期のスパンでこの関係は続いていくこととなる。

雇用関係法は、このような雇用労働関係についての基本的な法律を理解することを目的とする。例えば、学生のほとんどは「アルバイト」の経験があるだろうが、この関係は既に労働法の適用があり、賃金未払い、時間外・深夜労働規制、労災補償の対象となっているのである。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 雇用関係法全体の見取り図
2. 労働法の課題と役割・労働紛争と解決の方法
3. 労働法の当事者（労働者、使用者、労働組合）
4. 労働契約I
5. 労働契約II
6. 労働契約上の権利義務
7. 労働契約と就業規則
8. 労働者の自由と人権、雇用平等
9. 懲戒
10. 労働契約の展開I
11. 労働契約の展開II
12. 解雇・退職・定年
13. 労働条件と労働基準保障I
14. 労働条件と労働基準保障II
15. 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポートや出欠も考慮に入れる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

雇用労働関係は、日々の生き物でもあるので、日々の新聞記事を講義の資料に使うことが多い。そこで、新聞記事を常にチェックしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

講義は一方的なものではなく、学生諸君に質問や意見をのべてもらう双方向的なものである。学生諸君は氏名を指名されたら、「わかりませぬ」と言ってはならない。この言葉は、この講義では禁句（タブー）である。このことの意味は、講義の冒頭で理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

雇用労働関係の法律は、40年以上に及ぶ関係なので、自分のこととして理解しておくことが大切なので、自己中心的（自分にとって何なのか。役に立つのかどうかということ。）に理解してもらいたい。

キーワード /Keywords

憲法27条、28条、労働契約、就業規則、労働基準法、労働組合法、労災補償、解雇、雇用差別

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口の約半数（5400万人）を占める雇用労働関係は、私たちの生活の基盤である。労働者と使用者との労働条件をめぐる法は、労働関係法として多様な法律からなっているが、その中でも、労働組合と使用者とをめぐる労使関係法を理解することがこの講義の目的である。具体的には労働組合とは何か。団体交渉とはどのようなことを行うのか。ストライキを行うとはどういうことか。これらの基本的な問題を取り扱う。しかし労働組合を中心とした労使関係は、現実の日本社会では重要であるが、組織率の低下も顕著であり、その役割も低下しているのが現状である。そこで講義では、労働法全体の中で労使関係の役割を常に意識しながら問題を見ていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 労使関係法と労働法全体の見取り図
2. 労使関係の当事者としての労働組合
3. 労働組合法と労働基準法
4. 団体交渉
5. 団体行動
6. 団体行動と賃金
7. 組合活動
8. 労働協約
9. 不当労働行為I
10. 不当労働行為II
11. 労働委員会と裁判所
12. 労働組合の現在と未来
13. 労働法における労使関係法
14. 労働委員会と裁判所
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポート提出、出欠状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に次回の講義についての課題を与えるので、講義のときに説明できるようにしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

新聞記事を講義資料として使うことが多いので、日々の新聞記事について、気を付けてチェックしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は一方的なものでなく、学生諸君に質問や意見を述べてもらうことにしたい。氏名を指名されたら「わかりません」という言葉は、この講義では使ってはならない禁句（タブー）である。このことの意味は講義の冒頭で理解してもらえたいと思います。

キーワード /Keywords

憲法、27条、28条、労働基本権、労働組合、団体交渉、組合活動、争議行為、労働協約

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。

本講義のねらいは、受講生の皆さんが、政治学の基礎的な概念等を理解し、デモクラシー及びそれを支える政治制度に対する社会科学的な視点を習得することです。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート
(詳細については、第1回授業で説明いたします)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回授業で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回: イントロダクション 【科学としての政治学】 【政治学の社会的役割】
 - 2回: デモクラシーと制度 【多数決原理】
 - 3回: デモクラシーと安定性① 【政権交代】 【政党制】
 - 4回: デモクラシーと安定性② 【二大政党制】 【中位投票者定理】 【多党制】
 - 5回: デモクラシーと代表① 【直接民主制】 【間接民主制】 【議会主義】 【行政国家】
 - 6回: デモクラシーと代表② 【代表と代表性】 【社会選択と投票方法】
 - 7回: デモクラシーと代表③ 【参加デモクラシー】 【市民参加】
 - 8回: デモクラシーと政治制度設計① 【制度設計指針】 【代表性と統治の効率性】 【拒否点】
 - 9回: デモクラシーと政治制度設計② 【議院内閣制】 【大統領制】 【選挙制度の類型化】
 - 10回: デモクラシーと政治制度設計③ 【小選挙区制】 【比例代表制】 【中選挙区制】 【混合型】
 - 11回: デモクラシーと政治制度設計④ 【単一国家】 【連邦制国家】 【一院制】 【二院制】
 - 12回: デモクラシーと政治制度設計⑤ 【重層的なデモクラシー】 【グローカリゼーション】
 - 13回: デモクラシーの展望① 【デモクラシーの安定】 【デモクラシーと個人】
 - 14回: デモクラシーの展望② 【政治的社会化】 【市民教育】 【利他的利己主義】
 - 15回: 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

(学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【昼】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、政治制度、政治に参加する人々への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 -』有斐閣、2009年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 民主政治の諸制度(1)
- 第3回 民主政治の諸制度(2)
- 第4回 政治文化
- 第5回 マスメディア
- 第6回 政治参加・投票行動
- 第7回 政治家
- 第8回 政党
- 第9回 利益団体
- 第10回 官僚制
- 第11回 首相
- 第12回 地方政治(1)
- 第13回 地方政治(2)
- 第14回 政治体制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第4回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人の3類型】【雇用】
- 第10回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【その他の商業使用人】
- 第12回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第13回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか【商業登記】
- 第14回 営業・事業に関する重要事項が「公示」されるとどのような効果が生じるか【登記の効力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポートを含む授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代日本の公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといえる。本講義では、まず、こうした課題を①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティといった視点から分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め議論することにした。

次に、現代日本で進行中の地方分権改革の中で、地方自治体が「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているのか（あるいは担うことができるのか）といった問題について触れることにしたい。そして、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関としての位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうかといった問題を、政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農村漁村文化協会、2005年）
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」
- 7回 限界集落（3）-限界集落の再生、「集落支援員制度」の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 10回 公共事業について考える
- 11回 北海道伊達市の移住政策
- 12回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 13回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ
- 14回 三鷹市における市民参加の実験とまちづくり
- 15回 商店街について考える（時間に応じて変更あり）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を変更する予定であるので、第一回目の授業に必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、介護、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、介護保険法の改正、障害者自立支援法の制定・改正、福祉領域における契約制度の導入など、制度の根本的改革が行われており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。本講義は、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジユメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係と給付構造～
- 第4回 医療保障③ ～医療保険の保険給付①～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付②～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政～
- 第7回 医療保障⑥ ～高齢者医療に関する法～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式①～
- 第10回 社会福祉③ ～社会福祉の給付方式②～
- 第11回 社会福祉④ ～サービス利用の法律関係①～
- 第12回 社会福祉⑤ ～サービス利用の法律関係②～
- 第13回 社会福祉⑥ ～福祉サービスの提供体制
- 第14回 社会福祉⑦ ～福祉サービス利用者の権利擁護システム～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「契約法」「不法行為法」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとっては高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義 A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回イントロダクション：経済学の視点から見た労働【労働】
- 第2回社会的分業と生産性【分業の利益】【規模の経済】
- 第3回労働市場という概念と機能（1）【労働の取引】【市場】
- 第4回労働市場という概念と機能（2）労働の需要と供給【労働需要】【労働供給】
- 第5回労働市場という概念と機能（3）社会的な労働配置【市場メカニズム】
- 第6回労働市場という概念と機能（4）市場賃金と実際の賃金の違い【市場賃金】
- 第7回労働市場への介入の是非【市場介入】
- 第8回失業問題：いろいろな原因と対策【失業】
- 第9回日本の就業・賃金構造を見る：さまざまな労働市場【統計データ】
- 第10回労働の需要（1）企業の雇用量決定と雇用調整【最適雇用量】【雇用調整】
- 第11回労働の需要（2）労働の代替性と補完性【代替性】【補完性】
- 第12回労働の需要（3）技術や経済環境の変化と労働需要の変化【労働需要曲線】
- 第13回労働の供給（1）労働者・家計の労働供給行動【労働供給曲線】
- 第14回労働の供給（2）労働供給における組織的行動【独占力】【交渉力】
- 第15回労働市場分析の基本：いくつかの応用例【労働移動】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 労働市場における独占力：買い手市場と売り手市場【独占力】【交渉力】
- 第2回 労働組合とその機能【労働組合】
- 第3回 内部労働市場の考え方（1）市場と内部化による組織形成【内部化】
- 第4回 内部労働市場の考え方（2）いくつかの事例紹介【トヨタ自動車】
- 第5回 長期雇用と賃金プロファイル【終身雇用】【年功序列】
- 第6回 職務配置と昇進について【トーナメント】
- 第7回 勤労・訓練インセンティブ【成果主義】
- 第8回 労働者の社内における利害行動【チームインセンティブ】
- 第9回 経営者のインセンティブと報酬について【ストックオプション】
- 第10回 近年の労働に関する問題（1）日本の解雇法制に関する議論【解雇法制】
- 第11回 近年の労働に関する問題（2）増える非正規労働者に関する議論【非正規雇用】
- 第12回 近年の労働に関する問題（3）賃金格差の原因とその是非【賃金格差】
- 第13回 近年の労働に関する問題（4）公務員給与について【公的部門】
- 第14回 データを活用した分析方法の紹介【回帰分析】
- 第15回 若年労働者の労働事情【若年労働市場】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年)
石野雄一, 『ざっくり分かるファイナンス』, 光文社(2007年)
大津広一, 『ファイナンスと事業数値化力』, 日本経済新聞社(2010年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーポン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート(課題)・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」・「企業ファイナンスI」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレイド、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、証券市場の基本的存立構造、公開株式会社と証券市場の関係、コーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動、M & Aに関わっての証券市場の役割を中心に展開していく。

教科書 /Textbooks

鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門（新訂版）』白桃書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらし。 【日本の証券市場】 【上場銘柄】 【証券会社】
- 2回 景気と株価。 【株式会社と証券市場】 【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】 【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】 【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】 【社債】 【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】 【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】 【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】 【資本還元】 【貨幣の時間価値】 【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】 【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】 【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債権の種類】 【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】 【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】 【貯蓄から投資？】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】 【金融不安定性】 【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20% (この割合を、100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳(信用論研究者)と金子勝(異端の経済学者)の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心をもてるように講義を受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

株式会社と証券市場・株式会社における資本の二重性・証券価格・投資尺度・ガバナンスと証券市場・台頭する外国人株主・金融不安定性

国際経営 A 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際経営に関する基礎知識の取得と理解促進にウエイトを置く。

以下3部分に分けて講義を進めていく。

- ①基礎概念、ビジネス手法の紹介
- ②統計や財務資料の配布・解説
- ③多国籍企業による投資戦略のユニークな事例の紹介

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく。
質疑は随時受付する。

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の狙い、概要、段取りの説明
- 第2回 基礎概念の説明I: 「多国籍企業」、「経営国際化」【企業の国籍】【操作的定義】
- 第3回 基礎概念の説明II: 「直接投資」【対外・対内投資】、【間接投資】【国際収支ベース】
- 第4回 企業の多国籍化の誘因I【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【規制回避】
- 第5回 企業の多国籍化の誘因II【PLC説】【資本余剰説】
- 第6回 多国籍企業誕生・成長の歴史【株式会社誕生起源説】【保護貿易】【FORTUNE誌】
- 第7回 多国籍企業の国際事業本部の機能と立地【RHQ】【地域統合】【外資政策】
- 第8回 多国籍企業の所有戦略I 【持ち分型】【完全所有】【共同所有】【非持ち分型】
- 第9回 多国籍企業の所有戦略II 【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第10回 事例紹介I: 日系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第11回 事例紹介II: 東アジア系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第12回 多国籍企業の租税戦略I【法人所得税率】【節税と脱税】
- 第13回 多国籍企業の租税戦略II【タックスヘイブン】
- 第14回 多国籍企業の租税戦略III【移転価格】【関連取引】
- 第15回 総合質疑

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40%
期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際経営 A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

紹介資料、配布資料を熟読すること
講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

履修上の注意 /Remarks

私語を謹んで下さい
大幅な遅刻・早退を謹んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営B 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する日中韓の企業経営システムの比較を中心に講義を進めていく。
現地企業調査で得た認識、具体的な企業事例（一部現地調査時の報告書）を織り交ぜながら、3カ国経営様式の異同を分かりやすく紹介する。

教科書 /Textbooks

未定（改めて通知する予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日中韓企業の経営比較』税務経理協会、2009年改訂版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 2回 比較アプローチの意義と課題
- 3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 4回 企業制度比較【企業統治】、【経営権市場】、【同族企業】
- 5回 経営システムの比較
- 6回 経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 7回 経営戦略【多角化】、【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】
- 8回 経営組織【公式化】、【集権化】【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 9回 管理特性【業績評価】【人材養成】【情報伝達】
- 10回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 11回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】【エクセレントカンパニー】
- 12回 事例紹介I【韓国のケース】
- 13回 事例紹介II【中国のケース】
- 14回 事例紹介III【日本のケース】
- 15回 グローバル化と東アジア型企業経営

成績評価の方法 /Assessment Method

期中小テスト40%
期末試験60%
積極的な質疑応答・討議への参加に対して加点を賦与する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストでよく予習復習すること
授業における配布資料を熟読すること

履修上の注意 /Remarks

私語を謹んで下さい
大幅な遅刻・早退を謹んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オペレーションズ・リサーチは、最小の労力で最大の効果を挙げるための手段を考えるための方法の一つで、経営の場面においても、工程の管理や店、サービス機関における窓口の管理など様々な場面で利用されています。この授業では、オペレーションズ・リサーチの基礎について、実習も交えてなるべく実践的に講義します。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、ORとは。
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】
- 3回 【PERT】の実習
- 4回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】
- 5回 【経済性工学】の実習
- 6回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 7回 【線形計画法】の実習
- 8回 競争状態における利得の最大化【ゲーム理論】
- 9回 【ゲーム理論】の実習
- 10回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】
- 11回 【待ち行列理論】の実習
- 12回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 13回 【AHP】の実習
- 14回 質問受付など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2 回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3 回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4 回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5 回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6 回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7 回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8 回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9 回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10 回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11 回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12 回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13 回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14 回 問題演習
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、企業によるイノベーションのマネジメントに関する基礎知識を取得することである。成熟化し、停滞する国内の経済環境において、企業が成長する上ではイノベーションを持続的に生み出すことができるシステム作りが重要となる。それゆえに、今日の企業経営者には、イノベーションの本質について深い理解が求められる。本講義では、企業経営者がイノベーションをマネジメントする上で必要な基礎的な概念と理論について学習する。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一橋大学イノベーション研究センター[編]『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 イノベーション・マネジメントとは何か?
- 3回 イノベーションのプロセス
- 4回 イノベーションのパターン(1)
- 5回 イノベーションのパターン(2)
- 6回 イノベーションと企業のパフォーマンス(1)
- 7回 イノベーションと企業のパフォーマンス(2)
- 8回 研究・技術開発のマネジメント(1)
- 9回 研究・技術開発のマネジメント(2)
- 10回 新製品開発のマネジメント(1)
- 11回 新製品開発のマネジメント(2)
- 12回 新製品開発のマネジメント(3)
- 13回 イノベーションと企業間システム(1)
- 14回 イノベーションと企業間システム(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト(あるいはレポート)...25% 期末テスト...60% 小レポート(テスト)...15%を基礎点にして、授業中の発言を加味して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営組織論、経営戦略論などを履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

受講生が少人数の場合、課外活動を実施する可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する準備や復習に十分な時間が求められる。

キーワード /Keywords

イノベーション、技術経営、経営戦略、経営組織

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス（企業統治）が日本でも欧米でも大きな注目を集めている。それは、ガバナンスの問題が企業の在り方や存在意義にかかわっているだけでなく、企業の活力や国際競争力を左右する戦略要因とみなされるようになったからである。本講義のねらいは、会社法や経済学の成果も活用しながら、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、日本におけるガバナンス改革の方向性について検討することにある。

教科書 /Textbooks

レジュメとプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コーポレートガバナンスとは何か
- 第2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 第3回 企業主権論：株主理論とステークホルダー論
- 第4回 ガバナンス方法論：外部コントロールと内部コントロール
- 第5回 エージェンシー理論 とM&A
- 第6回 アメリカの内部監督システム
- 第7回 ドイツの内部監督システム
- 第8回 日本の内部監督システム
- 第9回 中国の内部監督システム
- 第10回 経営者の報酬制度
- 第11回 日本のガバナンスの功罪
- 第12回 日本のガバナンス改革：監査役設置会社の事例研究
- 第13回 日本のガバナンス改革：委員会設置会社の事例研究
- 第14回 日本の経営の再生に向けて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（課題、小テストを含む） 30%、 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「なし」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域企業分析 【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科, 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本科目は経営情報学科の学生が1年生から学んできたマネジメント理論修得の総仕上げにあたるものです。学生が修得してきた理論と企業経営の実践とを統合的に理解することを目的としています。

授業内容は、スケジュールの前半部分で学内教員が様々な視点から企業経営を分析する手法を提示し、後半部分では学外から経営者を中心に経済界の方々を特別講師として招聘して企業経営の実践を講演していただきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な際には随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「全体説明」
 - 第2回 「経営戦略の分析」
 - 第3回 「経営組織の分析」
 - 第4回 「人的資源管理の分析」
 - 第5回 「企業ファイナンスの分析」
 - 第6回 「情報管理の分析」
 - 第7回 「国際経営の分析」
 - 第8回 「中小企業経営の分析」
 - 第9回 外部講師
 - 第10回 外部講師
 - 第11回 外部講師
 - 第12回 外部講師
 - 第13回 外部講師
 - 第14回 外部講師
 - 第15回 まとめ
- (なお、全体スケジュールは外部講師の方の都合等で変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課すレポート30% 学期末テスト(あるいはレポート)70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3年時まで学んだ経営学系の科目の復習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

第5回 「企業ファイナンスの分析」の回には電卓を準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修ガイドの履修モデルを見てもわかるように、1年時から学んだ知識の総仕上げとなります。

キーワード /Keywords

理論と実践

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は、住民の権利義務、住民と自治体との関係、自治体の議会と執行機関の組織と権限などに関する地方自治法上の制度について学び、自治体においては、国の政治の仕組みと違って、より住民の意見や要望が自治体の政策の決定に生かされ得る民主主義的なプロセスが保障されていることを理解することです。授業は、制度に関する単純な説明にとどまることなく、各テーマに関する判例や事例を素材に、地方自治の現実の姿(制度の運用実態と問題点)を紹介しながら、地方分権時代における地方自治はいかにあるべきかを、地方自治の主人公である住民=学生諸君に考えてもらうというスタンスで進めます。なお、公務員試験や国家資格試験の受験を考えている諸君も多いことから、授業内容の復習を兼ねて、それらの試験で出題された地方自治法関連の過去問の解説も行う予定です。2コマ連続の授業ですが、前半はテキストに基づく基本的知識の修得を、後半は判例や事例の検討により基本的知識の応用並びに過去問の解答・解説による復習を行うこととします。

教科書 /Textbooks

中川義朗(編)『これからの地方自治を考える』(2010年、法律文化社、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○磯部力他(編)『地方自治判例百選(第3版)』(2003年、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 【地方自治の本旨】、地方自治制度の沿革、憲法と地方自治
第3回～第6回 【住民の権利】(【選挙権】、【直接請求権】、【公の施設】)
第7回～第8回 【住民監査制度】、【住民訴訟】
第9回～第12回 【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
第13回～第14回 【住民投票制度】
第15回～第16回 地方自治体の種類、大都市制度
第17回～第18回 【地方議会】の組織と権限
第19回～第20回 執行機関の組織と権限、【自治事務】、【法定受託事務】
第21回～第22回 地方議会と長との関係
第23回～第24回 【条例制定権】の限界
第25回～第26回 地方自治体と国との関係
第27回～第28回 【地方公務員制度】
第29回～第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30%、学期末試験...70%(レポートの課題については授業中に説明します。なお、レポート未提出者は、学期末試験を受けることができないものとします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本国憲法あるいは行政法を履修していれば、より効果的な学習ができると思います。

履修上の注意 /Remarks

授業では地方自治法などの法律の条文が数多く出てきますので、できるだけ六法(ポケットサイズのもので可)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【地方分権時代における地方自治の現状と課題】です。【地方分権】、【住民自治】、【団体自治】、【地方議会】、【条例】、【住民】、【住民訴訟】、【住民投票】

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 正剛 / Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前の防止を目指す環境法の重要性は増大しているし、環境法のカバーする範囲も広がっている。

本講義では、そのように広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境保全のための政策手法、環境法の歴史、環境法の中での主要な法律（環境基本法、循環型社会形成基本法、環境影響評価法、環境汚染防止関連法、廃棄物処理法、リサイクル関連法など）の内容を概観する。そのことを通じて、受講生は、環境法の基本的考え方、環境法の流れ、各法律での環境保全のための基本的仕組み、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題、環境法の今後進むべき方向性を理解できることとなる。

教科書 /Textbooks

『環境法ガイド』（坂口洋一著）、上智大学出版刊、2450円
なお、講義の際には、ある程度詳細なレジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境法』（大塚直著）、有斐閣刊、4410円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 環境法とは何か、環境法の体系、環境法の基本原則（1）【環境権】【持続可能な発展】
【汚染者負担の原則】
- 第2回 環境法の基本原則（2）【未然防止の原則】【予防原則】【拡大生産者責任】
- 第3回 環境保全政策の手法（1）【規制的手法】【非規制的手法】
- 第3回 環境保全政策の手法（2）【経済的手法】【情報的手法】
- 第5回 環境法の歴史（1）【公害法から環境法へ】【公害対策基本法】【都市生活型環境問題】
【地球環境問題】
- 第6回 環境法の歴史（2）【環境基本法】【循環型社会形成基本法】【環境影響評価法】
【有害化学物質規制】
- 第7回 環境基本法と環境基本計画
- 第8回 環境影響評価法
- 第9回 環境汚染の防止（1）【環境基準】、【排出基準】【総量規制】【大気汚染防止法】
- 第10回 環境汚染の防止（2）【水質汚濁防止法】【土壌汚染防止法】
- 第11回 廃棄物の処理法制（1）【廃棄物処理法】【廃棄物の定義】【廃棄物の分類】
- 第12回 廃棄物の処理法制（2）【一般廃棄物処理規制】【産業廃棄物処理規制】
- 第13回 循環型社会形成のための法体系（1）【循環型社会形成基本法】【拡大生産者責任】
【容器包装リサイクル法】
- 第14回 循環型社会形成のための法体系（2）【家電リサイクル法】【自動車リサイクル法】
【建設リサイクル法】【食品リサイクル法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験により、環境法の基本概念、環境法での基本的原則・基本的考え方、各法律での環境保全のための基本的仕組み等を理解しているかを評価する。

定期試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境法 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法・民法不法行為法を既に履修していれば、本講義の理解がより深まります。
また、講義内容が多いので、テキストおよび前もって配布するレジユメを事前に読んで来て下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持続可能な発展、環境権、環境基本法、循環型社会、経済的手法、外部費用の内部化

独占禁止法 【昼】

担当者名 /Instructor 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『テキスト 独占禁止法（再訂二版）』（波光 巖他 青林書院 ￥4,935）
- 『ベーシック経済法 独占禁止法入門（第3版）』（有斐閣アルマ）（川濱 昇他 有斐閣 ￥1,995）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
- 6回 私的独占
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力（市場支配力） カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度 再販売維持制度
優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 課徴金

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、アジア・太平洋地域で展開する様々な地域協力の枠組みは、ASEAN (東南アジア諸国連合) が中核となっているものが少なくない。それは、独立したばかりの東南アジアの発展途上の小国が、自国の将来や自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねてきた結果である。現在アジア・太平洋地域で進展する地域統合を理解するには、東南アジア諸国がおかれてきた国際関係の理解が不可欠であるといっても過言ではない。

この授業では、東南アジアの国際関係を理解することにより、今日アジア・太平洋地域で展開している様々な地域協力の枠組みをとらえることを目的とする。そのために、ASEANをめぐる動きを軸として見ていく。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジア最初の地域協力機構：ASA (東南アジア連合)
- 4回 流動的な国境線：マレーシア成立をめぐる地域紛争
- 5回 域紛争解決の試み：マフィリンド
- 6回 ASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(1) ベトナム戦争
- 9回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(2) カンボジア紛争
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大：ASEAN10
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANの国際経済秩序形成への参画：APEC
- 13回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画：ARF
- 14回 「東アジア共同体」への関わり
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域研究入門 (東南アジア)」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アジア地域統合論 【昼】

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の譲渡】【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【合併】【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

なし（レジユメを配布する）。六法は持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第5版』（有斐閣、2010年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....保護対象（個人情報、個人データ、保有個人データ）、
【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報、保有個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の授業に該当する条文を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Marriage and Couples
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prerequisites: Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading, Text Comprehension, Vocabulary Development

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is for English majors who already have a sound foundation in English skills and who wish to push their language ability to a higher level. The topics and new language input for the course will come from reading and discussing British novelist George Orwell's contemporary masterpiece "1984". Learners will practice reading more quickly and focusing on specific points. The course will be supplemented by a viewing of the film starring John Hurt and Richard Burton. The in-class discussions will address issues of individualism and culture relevant to anyone concerned with life in a progressively more globalized world. The focus throughout the course will be on learning new vocabulary and expressions to enable more efficient and effective communication on topics of international interest.

教科書 /Textbooks

George Orwell. 1984. Everyman's Library Edition. ISBN: 978-0-679-41739-2 (US) or 978-1-85715-134-3 (UK). This book can be ordered online from booksellers such as amazon.co.jp, amazon.com or amazon.co.uk

Hugh Graham-Marr. ABAX Workbook for New Words and Expressions (Japan Version). ISBN: 4-900-81900-X.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Merriam-Webster's Collegiate Dictionary with CD-ROM (11th Edition)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- Part 1
- 2回 Presentation and discussion of ideas (pp. 3-21: 19 pages)
- 3回 Presentation and discussion of ideas (22-39: 17)
- 4回 Presentation and discussion of ideas (40-66: 26)
- 5回 Presentation and discussion of ideas (66-84: 18)
- 6回 Presentation and discussion of ideas (85-107: 22)
- Part 2
- 7回 Presentation and discussion of ideas (111-143: 31)
- 8回 Presentation and discussion of ideas (143-167: 34)
- 9回 Presentation and discussion of ideas (167-200: 33)
- 10回 Presentation and discussion of ideas (200-234: 34)
- 11回 Watch film for Parts 1 and 2 of the book (Initial draft of essay due)
- Part 3
- 12回 Presentation and discussion of ideas (pp. 237-272: 35)
- 13回 Presentation and discussion of ideas (pp. 273-295: 22)
- 14回 Presentation and discussion of ideas (pp. 295-310: 15)
- 15回 Watch film for Part 3 of the book (Final draft of essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

Completion of weekly written assignments	50%
Term paper on topic to be agreed on with the instructor	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Reading: 15-35 pages of English per week
- Writing: Summary and opinion of reading to be presented in class each week
- Discussion: Express/share opinions on reading with classmates and instructor each week

履修上の注意 /Remarks

All reading, writing, discussion, instruction and video will be in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You should take this course if you are genuinely interested in contemporary culture and want to improve your ability to discuss more advanced issues of international interest in English.

キーワード /Keywords

Contemporary culture, literature, discussion, vocabulary building

上級英語II 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking skills through the reading, analysis and discussion of topical materials. Essays, magazine articles, and timely materials will be provided by the instructor as reading assignments that will lead to the analysis and discussion of the given topic.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Justifying decisions: rational
- 3回 Justifying decisions: emotional
- 4回 Justifying decisions: review
- 5回 Recognizing bias 1
- 6回 Recognizing bias 2
- 7回 Recognizing bias 3
- 8回 Assignment 1
- 9回 Recognizing logical fallacies 1
- 10回 Recognizing logical fallacies 2
- 11回 Assignment 2
- 12回 Evaluating evidence 1
- 13回 Evaluating evidence 2
- 14回 Evaluating evidence 3
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導A【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、職業と産業および経済社会の発展との関係についての理解を深め、次いで、職業指導・進路指導の係る基礎理論を修得する。さらに、高卒者の職業生活移行への課題を明らかにし、適切な職業指導を行うための資質・能力の育成を目指す。
講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 本講座のガイダンスおよび職業の概念
- 第 2 回 産業構造の変化と職業
- 第 3 回 望ましい職業観
- 第 4 回 能力・適性」の解釈
- 第 5 回 自己概念と自己変革
- 第 6 回 進路指導(職業指導)の法的規定
- 第 7 回 進路指導(職業指導)の諸活動【個人理解】、【進路情報】、【啓発的経験】
- 第 8 回 進路指導(職業指導)の諸活動【進路相談】、【進路選択・決定の指導】、【追指導】
- 第 9 回 職業適性検査(GATB)・・・(講義及び演習)
- 第 10 回 職業レジネステスト(VRT)・・・(講義及び演習)
- 第 11 回 商業高校卒業生の進路および就職状況の推移。
- 第 12 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職環境の変化】、【就職の仕組み】
- 第 13 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職慣行の見直し等】
- 第 14 回 企業が求める人材について。
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導B【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、「職業指導A」の学習に引き続いて、高等学校における職業指導・進路指導の具体的展開について学び、その上で、キャリア教育への展開やデュアルシステムの動向等について修得し、適切な職業指導を行うための基礎的な実践的指導能力の育成を目指す。
講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 職業指導 (進路指導) の全体計画の立案。
- 第 2 回 ホームルーム活動における職業指導 (進路指導) 計画。
- 第 3 回 ホームルーム活動における指導の展開 (例 1 - 仕事と生きがい -)
- 第 4 回 ホームルーム活動における指導の展開 (例 2 - 職業レジネステストの活用 -)
- 第 5 回 進路相談の具体的展開 (例 1 - 進路適性の理解を深める就職相談 -)
- 第 6 回 進路相談の具体的展開 (例 1 - 進路計画の立案を助ける進学相談 -)
- 第 7 回 インターンシップの意義
- 第 8 回 インターンシップの具体的事例
- 第 9 回 インターンシップの評価と課題
- 第 10 回 就職活動のスケジュールと手続きおよび具体的指導内容。
- 第 11 回 職業指導からキャリア教育へ。
- 第 12 回 キャリア教育の基本方向。
- 第 13 回 キャリア教育推進のための方策。
- 第 14 回 デュアルシステムの動向
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況 (課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 第2回 公民科のねらいと内容
- 第3回 現代社会の課題、模擬授業
- 第4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 第5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 第6回 国際社会と日本、模擬授業
- 第7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 第8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 第9回 宗教と倫理、模擬授業
- 第10回 経済格差、模擬授業
- 第11回 環境問題、模擬授業
- 第12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 第13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 第14回 人種・民族問題、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科（「現代社会」、「倫理」、「政治経済」）の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業... 50% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 30%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商業科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我が国における教育改革の動向及び学習指導要領の改訂の背景について学び、その上で高等学校における商業（ビジネス）教育について、教科「商業」及び商業に関する学科の枠組みの理解を図り、商業に関する各科目の目標、内容、指導方法等について科目群別に学ぶ。
なお、指導方法等について実践的に学ぶ意味及び教育実習への配慮から、途中において「学習指導案」作成の要点について学ぶこととする。

教科書 /Textbooks

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版、「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

雲英道夫他編著「商業科教育論」多賀出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入講義及び我が国における教育改革の動向
- 第2回 現行学習指導要領改訂の背景
- 第3回 教科「商業」の目標と教科の組織
- 第4回 商業に関する学科とその目標
- 第5回 学習指導案作成の要点
- 第6回 基礎科目
- 第7回 流通ビジネス科目群
- 第8回 国際経済科目群
- 第9回 簿記会計科目群(1)【簿記】、【会計】
- 第10回 簿記会計科目群(2)【原価計算】、【会計実務】
- 第11回 経営情報科目群(1)【文書デザイン】、【情報処理】
- 第12回 経営情報科目群(2)【ビジネス情報】、【プログラミング】
- 第13回 総合学習科目群(1)【課題研究】
- 第14回 総合学習科目群(2)【総合実践】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% , 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許(商業)取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術(複式簿記、マーケティング、情報処理など)については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育への転換が図られていますが、高い志と使命感をもって、商業(ビジネス)教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の意義、教科商業の目標及び組織、ビジネスの基礎・基本の能力、学習指導要領

商業科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我が国の商業教育の歴史的変遷について理解を深め、改めて商業教育の現状と課題について考察する。また、学力観の転換及び評価について学び、その上で評価基準の設定について演習を行う。

さらに、教育課程の編成について理解を深めるとともに、各自、学習指導案を作成し、発表、協議を行い実践的指導力の基礎を身に付ける。

教科書 /Textbooks

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版、「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

雲英道夫他編著「商業科教育論」多賀出版
三好信浩著 「日本商業教育成立史の研究」風間書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 商業教育の生成(明治期以前)
- 第2回 商業教育の生成(明治期)
- 第3回 商業教育の発展(大正、昭和(戦前))
- 第4回 商業教育の試練(戦中、戦後)
- 第5回 戦後の商業における教育課程基準の変遷(商業教育の拡充、商業教育の多様化)
- 第6回 戦後の商業における教育課程基準の変遷(商業教育の集約化)
- 第7回 商業教育の現状と課題(商業に関する学科の生徒数、卒業生の進路)
- 第8回 商業教育の現状と課題(生涯学習社会・知識経済社会への対応)
- 第9回 指導と評価の一体化
- 第10回 評価基準の設定(演習)
- 第11回 教育課程の編成
- 第12回 学習指導案の作成(講義及び演習)
- 第13回 学習指導案の模擬授業(簿記)
- 第14回 学習指導案の模擬授業(商品と流通)
- 第15回 まとめ-商業教育の根底にあるもの-

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80%, 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許(商業)取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術(複式簿記、マーケティング、情報処理など)については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育へと転換が図られているが、高い志と使命感をもって、商業(ビジネス)教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の変遷、森有礼、福澤諭吉、渋沢栄一、商業倫理、戦後の教育課程基準(商業)の変遷、学習指導案、模擬授業

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学 【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授 - 学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授 - 学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授 - 学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授 - 学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 ー 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 - 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント(講義レジュメ・資料)を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における「道徳教育」について学修するためのものである。この「学校教育」における「道徳教育」については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
- 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・ 遊びと人生
 配偶者の選択 ・ 病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(○)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(○)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(○)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名
/Instructor

福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法である日本国憲法と国民生活との関わりを理解することをねらいとする。そのために、まず、日本国憲法の全般的な仕組みを簡単に学び、その後に基本的人権と統治機構の中心部分を学ぶこととする。具体的には現在とくに盛んな論議をよんでいる外国人の人権、プライバシー権、自己決定権、平等権、信教の自由、表現の自由等の人権問題、および天皇の地位と役割、第9条を巡る現在の諸問題、国会の仕組みと役割、内閣の誕生、裁判制度等の統治機構に関する問題を主たるテーマとする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編著 『憲法新教科書』（法律文化社刊・2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 日本国憲法の成立とその基本的な原理(テキスト3頁および153頁)
- 2 外国人の人権(18頁)
- 3 プライバシーをめぐる諸問題(34頁)
- 4 新しい権利としての自己決定権(38頁)
- 5 平等権をめぐる諸問題-親子や夫婦と平等原則(47頁)
- 6 思想・良心の自由の保障の意義(58頁)
- 7 信教の自由の意義と個人の信教の自由巡る具体的な問題(64頁および68頁)
- 8 政教分離原則が日本で問題になる理由と具体的問題(64頁および72頁)
- 9 表現の自由の現代における重要性和具体的問題(83頁および87頁)
- 10 日本国憲法における天皇の地位と役割(159頁)
 - 11 憲法9条をめぐる現在の問題(168頁)
 - 12 国会の地位と権能(183頁)
 - 13 内閣の誕生と役割(204頁)
 - 14 司法権の独立と違憲立法審査権(222頁および229頁)
 - 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%)+知識の確認課題(40%)+レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来られなくなりますので、集中力を切らないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ-】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語を初めて学ぶ学生向けに初歩のコミュニケーション能力を養う。

簡単なあいさつから始めて、自己紹介や家族のこと、好き嫌い、架空の自分等々について口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本的な数字、月名、曜日、天気の違い等を覚える。

基本単語を覚え、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験5級程度の実力を旨とする。6月に行われる検定試験5級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 あいさつ、自分の名前
- 3回 自己紹介
- 4回 アルファベット。「誰か」を聞く
- 5回 いろいろな国籍を覚える。3人称単数
- 6回 架空の名前を選び、自己紹介をする
- 7回 架空の国籍を選び、自己紹介をする
- 8回 今日の天気を言う
- 9回 架空の職業を選ぶ
- 10回 日づけを言う
- 11回 誕生日を言う
- 12回 曜日を言う
- 13回 年齢を言う
- 14回 持ち物について話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

フランス語Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期フランス語Ⅲを受講した学生向けに、引き続き初歩のコミュニケーション能力を養う。

フランス語Ⅲで身についた内容をさらに発展させ、口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本単語をさらに増やし、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験4級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験4級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。前期の復習
- 2回 自分の特徴を言う
- 3回 持ち物について話す
- 4回 両親について話す
- 5回 有名人について話す
- 6回 料理の値段を言う
- 7回 バリで住みたい地区について話す
- 8回 架空のバリの住所を決め、それについて話す
- 9回 架空のバリの住居について話す
- 10回 バリの地下鉄について知る。切符を買う
- 11回 好きな有名人について話す
- 12回 好きな物事について話す
- 13回 デパートで買い物をする
- 14回 レストランへ行く
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語Ⅲ(前期)を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を取り入れます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会のさまざまな面も学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発音)ことを反復すること。発音はいたって簡単ですが、動詞の活用だけがやや難しいので、練習を繰り返しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロジカル・シンキング、ライティング（論理的な思考と文章表現）の能力を養成します。それによって、3年次以降に開講される応用的な専門科目、演習の理解を助けるとともに、よりよいレポート、試験答案（論述）、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

初回の授業の際に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは担当教員によって異なりますが、概ね、次の順序で行います。
 第1回：イントロダクション
 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジュメを用いて発表します。
 * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 出来が良くない場合には、レジュメの再提出を課されることがあります。
 第11回～第14回：研究レポート（A4用紙1枚、1000字超）の作成・提出
 * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、必要な情報収集を図る等、周到な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の金融制度や金融政策について、現実に起きている事象を高度に理解・分析する基礎をつける

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 グループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を熟読しておく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iで習得した知識を基に、日本の金融制度や金融政策について、現実に行っている事象を理論的・実証的に分析する。

教科書 /Textbooks

毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 グループ発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30 % ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を熟読しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。

教科書 /Textbooks

未定。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容・進め方を説明するとともに、卒業研究の例を提示して説明する。
2回～15回 発表(2名ずつ)。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各自、卒業研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 授業内容・進め方を説明するとともに、卒業研究の例を提示して説明する。
2回～15回 発表(2名ずつ)。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容とその成果物提出...100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題 1
- 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イン트로ダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、 t 変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、 t 変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提して行われる。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 6回 市場と厚生(2): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【余剰分析】、【価格規制】
- 8回 需給分析の応用(2): 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済的考え方、市場均衡、市場の効率性、余剰分析、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 第2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 第13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性について(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性について(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性について(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性について(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ヘビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について(1)【仮定とモデル】【フロー循環図】【生産可能性】
- 6-7回：相互依存と交易について(2) 【絶対優位】【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】【需要の弾力性】【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き】【比較静学】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
 1回 インTRODクシヨン (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【国民所得の三面等価】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【財政】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【財政政策】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基礎的な計算方法を身につけます。この講義では、1次関数や2次関数からスタートし、関数と接線の関係や逆関数とグラフの関係を理解します。また、指数法則と対数法則をもとに指数関数と対数関数の性質を学習します。微分では、経済でよく使われる多項式関数、指数関数、対数関数の微分を理解し、微分に関する性質として関数の四則演算についてのルールや合成関数の微分計算を身につけます。さらに、合成関数や逆関数の微分公式と対数微分法を練習します。積分では、不定積分と定積分の概念と置換積分法などの計算練習を行います。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数の考え方と微分 【関数の極限】、【連続関数】
- 2回：関数の考え方と微分 【接線】、【導関数】、【線形性】
- 3回：指数関数と対数関数 【指数関数のグラフ】、
- 4回：指数関数と対数関数 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数 【多項式の微分】、
- 5回：導関数 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法 【合成関数の微分】、【対数微分】
- 10回：微分法 【逆関数の微分】、【曲線とグラフ】
- 11回：不定積分 【多項式的不定積分】
- 12回：不定積分 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分 【多項式の定積分】
- 14回：定積分 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・30%
期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術打である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(1) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(1) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート20% 平素の学習状況10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期は前期に修得した簿記の基本的知識を応用するものとし会社会計を講義する。

教科書 /Textbooks

「新検定 簿記講義 2級商業簿記」 加古宜士・渡部裕亘編著 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 帳簿組織(1) 転記の合理化と事務分掌
- 第2回 帳簿組織(2) 補助簿の仕訳帳化および補助元帳
- 第3回 帳簿組織(3) 総合練習問題
- 第4回 特殊商品売買(1) 委託販売と受宅販売
- 第5回 特殊商品売買(2) 未着品販売
- 第6回 特殊商品売買(3) 割賦販売
- 第7回 長期請負工事(1) 工事進行基準と工事完成基準
- 第8回 長期請負工事(2) 練習問題
- 第9回 本支店会計(1) 本支店間の取引の処理
- 第10回 本支店会計(2) 本支店財務諸表の合併
- 第11回 社債(1) 社債の発行と利払いの会計処理
- 第12回 社債(2) 社債償還の会計処理
- 第13回 資本金(1) 株式会社の設立会計
- 第14回 資本金(2) 増資及び減資の会計
- 第15回 資本金(3) 合併の会計

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート20% 平素の学習状況10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

後期の講義内容は簿記論Iの理解を前提に株式会社会計を主題にしている。
受講者は簿記論Iの内容を復習しつつ株式会社会計を勉強してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

計量経済学とは、経済学と統計学の知識をもつひとが経済データを見たときに行うことを、整理してまとめあげた学問です。その分析対象となる経済データはさまざまで、株価、病気になったときにどの病院へ行くか、失業率、企業の設備投資、人が犯罪をおかす回数など、多岐にわたります。この講義では計量経済学の基礎的な知識をデータの分析例とともに学びます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹田聡, 『Excelによる経済データ分析』, 東京図書, 2001。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 計量経済学的な分析の目的を学びます。分析がどのように進んでいくのかを学びます 【モデル化】【回帰分析】【回帰診断】【予測】
- 4回～6回 データの散らばりや動きをあらわすための数式を、計量経済モデルと呼んでいます。基本的な計量経済モデルのつくりかたを学びます。 【経済理論モデル】【回帰式】【誤差項】
- 7回～9回 モデルをコンピュータに処理させたときに、現実のデータからどのような数値が計算されてくるのかを学びます。またその数値をどのように解釈すべきかを考えます。 【推定値】【P値】【決定係数】
- 10回～12回 経済データの分析をしているときに頻繁に生じる問題があります。どのような問題があるのかを、解決方法とともに学びます。 【内生性】【系列相関】【多重共線性】
- 13回～15回 現代の計量経済分析では、基本的なモデルの他にもさまざまなモデルが用いられています。これらのモデルを、現実のデータへの応用例とともに学びます。 【離散選択モデル】【時系列モデル】【パネルデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループウェアと情報処理教室のパソコンを使用します。これらのアカウントを取得していない人は取得しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学II 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済データの実証分析のモデル・事例を紹介します。経済学者が経済データの分析をする上で、なぜ、何に悩み、どんな工夫をして乗り切ろうとしたのかを考えます。

教科書 /Textbooks

授業中に資料を配布し、文献(論文)を指示する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～ 3 回統計学と基本的な計量経済学をデータ解析者の立場から復習
【1.標本・母集団】【2.確率分布・期待値・分散】【3.回帰分析】
- 4 回～ 5 回実証分析例 1：多重共線性 【1.相関】【2.できることとできないことの区別】
- 6 回～ 7 回実証分析例 2：内生性 【1.同時決定】【2.操作変数】
- 8 回～ 9 回実証分析例 3：事業の効率性分析 【1.最尤法】【2.フロンティア分析】
- 1 0 回～ 1 2 回実証分析例 4：商品選択行動の分析
【1.カテゴリーデータ】【2.ロジットモデル】【3.効用最大化】
- 1 3 回～ 1 4 回実証分析例 5：時系列分析 【1.自己回帰モデル】【2.単位根】
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...60%，授業中の質問・コメント...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループウェアと情報処理教室のパソコンを使用します。これらのアカウントを取得していない人は取得しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史I【夜】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

明治維新以降の近代日本経済の発展過程を産業構造と消費生活の変容を中心に講義します。日本資本主義の特質を理解しやすくするために、欧米諸国の発展過程についても概括的に触れる予定です。

欧米諸国がすでに帝国主義段階に突入する頃に、資本主義のスタートを切った日本が何故に急速な経済成長を成し遂げることができたのか、その諸条件と発展のプロセスを検討すると共に、成立した日本資本主義の構造的特徴を明らかにすることが講義の中心です。

教科書 /Textbooks

授業中に配布するレジユメによって進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三和良一『概説日本経済史 近現代史』東京大学出版会
- 石井寛治『日本経済史』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本資本主義の発展とその特質
- 第2回 明治維新 【開港】【廃藩置県】【倒幕派】【天皇制】
- 第3回 日本資本主義の成立 【殖産興業政策】【地租改正】【秩禄処分】
- 第4回 日本の産業革命 【産業革命】【製糸業】【紡績業】
- 第5回 資本主義確立期の産業構造・貿易構造 【部門間不均衡】【官営工業】【米と繭】
- 第6回 財閥 【政商】【三井・三菱・住友・安田】
- 第7回 地主と小作 【地主制】【高率小作料】【出稼ぎ】
- 第8回 第一次大戦と産業構造の変化(重工業化の進展) 【成金】【債権国】【中国進出】
- 第9回 独占資本の確立 【財閥の制覇】【二重構造】
- 第10回 昭和恐慌 【金融恐慌】【金解禁】【金本位制の崩壊】
- 第11回 高橋財政 【赤字公債】【低金利・低為替政策】【時局匡救事業】
- 第12回 戦時統制経済 【国家総動員法】【企画院】【経済統制】
- 第13回 大東亜共栄圏とその崩壊 (1) 【ブロック経済】【満州】【大東亜共栄圏】
- 第14回 大東亜共栄圏とその崩壊 (2) 【ブロック経済】【満州】【大東亜共栄圏】
- 第15回 まとめ 戦後への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジユメによって復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本経済史II 【夜】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第二次大戦後の日本経済の発展過程について講義します。敗戦から日本経済がどのように復興し、どのように発展してきたのか、日本経済がどのような構造的特徴を持っているのかを、企業システムを中心に明らかにします。

教科書 /Textbooks

配布するレジュメにしたがって進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭『現代日本経済』有斐閣
森武麿・浅井良夫・西成田豊・春日豊・伊藤正直『現代日本経済史』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで講義します。
- 1-2 戦後改革 【財閥解体】【農地改革】【労働改革】
 - 3-4 経済復興 【傾斜生産方式】【ドッジライン】【朝鮮特需】
 - 5 高度成長と重化学工業化 【技術革新】【設備投資】
 - 6 企業集団と中小企業 【系列融資】【株式持ち合い】【下請制】【系列】
 - 7 メインバンクシステムと企業統治 【メインバンク】【情報の非対称性】【安定株主】
 - 8 日本的労使関係の成立 【終身雇用】【年功制賃金】【企業別組合】
 - 9 高度成長政策 【極大成長政策】【租税特別措置法】【産業政策】
 - 10 高度成長と対外経済関係 【貿易・資本の自由化】【IMF体制】
 - 11 ドルショックと石油危機 【スタグフレーション】【赤字国債】
 - 12 安定成長と経済構造の転換 【貿易摩擦】【減量経営】【構造不況】
 - 13 バブル経済とその崩壊 【グローバリゼーション】【不良債権】
 - 14 日本型企業システムの転換 【構造改革】【成果主義】【ストックオプション】
 - 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テストの成績80% 小テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学史I【夜】

担当者名 /Instructor 平方 裕久 / Yasuhisa Hirakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、経済学の歴史を学びます。
過去の偉大な経済学者たちは、彼らの時代の経済とそこでの問題から経済理論を編み出しました。これらの問題の多くは、例えば貿易自由化の問題など、私たちにとっても依然として考えさせられる課題です。だとすれば、現代を生きる私たちが、彼らの思想や理論を学ぶことには大いに意義があるといえるでしょう。
授業では、歴史の展開と関連づけて18世紀のアダム・スミスから20世紀初頭のケインズやシュンペーターに至る多くの経済学者の理論と思想を学びます。こうすることで市場経済・社会の発展とともに経済学がどのように展開してきたのかを考え、現代の経済や経済学を考えるヒントを学びます。

教科書 /Textbooks

大田一廣・鈴木信雄・高哲男・八木紀一郎『新版経済思想史：社会認識の諸類型』名古屋大学出版会, 2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロバート・L・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗的思想家たち』ちくま学芸文庫, 2001年
中村廣治・高哲男編『自由と反市場の経済思想：経済学の史的再構成』ミネルヴァ書房, 2000年
根井雅弘『経済学の歴史』講談社学術文庫, 2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN-経済学史を学ぶ意義・意味-
- 第2回 市場経済の形成と私有財産制度の思想 【勤労】、【自己保存】、【私有財産制度】
- 第3回 市場経済形成の経済思想：J.ステュアート 【勤労の精神】、【為政者の巧みな手】
- 第4回 古典派経済学(1)：A.スミス 【利己心】、【自然価格と市場価格】、【自然の成り行き】
- 第5回 古典派経済学(2)：D.リカードウ 【投下労働価値説】、【比較生産費説】
- 第6回 古典派経済学(3)：T.R.マルサス 【人口の原理】、【一般的(供給)過剰論】
- 第7回 古典派経済学の展開：J.S.ミル 【功利主義】、【人間的進歩】、【アソシエーション】
- 第8回 古典派経済学への批判：K.マルクス 【剰余価値】、【資本の有機的構成】
- 第9回 新古典派経済学(1)：L.ワルラス 【希少価値理論】、【純粋経済学】、【社会経済学】
- 第10回 新古典派経済学(2)：A.マーシャル 【(社会)進化論】、【有機的成長】、【経済騎士道】
- 第11回 20世紀の経済学(1)：J.M.ケインズ 【非自発的失業】、【有効需要の理論】
- 第12回 20世紀の経済学(2)：T.B.ヴェブレン 【顕示的消費】、【製作者本能】、【競争心】
- 第13回 20世紀の経済学(3)：J.A.シュンペーター 【慢性的不況】、【企業者の役割】
- 第14回 現代経済学の潮流
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ...30% 期末試験 ...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的にはテキスト・参考書を中心に、進めていきます。テキストを事前に読んでおくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学が発展してくる過程でさまざまな経済学が生まれてきたことを学ぶのがこの授業の目的です。このことがわかると今後の経済学の学習がさらに豊かなものになると思います。少し難しいかもしれませんが、レジュメ等は配りますのでしっかりと頑張りましょう。

キーワード /Keywords

経済学史II 【夜】

担当者名 /Instructor 平方 裕久 / Yasuhisa Hirakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では経済学の歴史を、経済全体の「厚生（幸福）」という観点から学習します。市場社会が発展するにつれて明らかになったのが「貧困」の問題です。この貧困をどのようにして解決すべきだと多くの経済学者が考えたのが、その思想と理論を学習します。貧困解決のための理論・思想には、次第に形成されることになった「市場」に関する経済学者の理解がその根底にありました。これらの発展の先に国民に最低限度の経済的保障を実現しようとする「福祉国家」があるのです。私たちが現在身近に利用している公的医療や年金もこれらの展開の成果であるといえるでしょう。だとすると、このような理論や思想を学習することは重要であるように思われます。市場と貧困、国民への経済的保障と経済成長などこの授業で扱ったさまざまな考えを踏まえると、私たちの生きる現代をさらに深く理解することができるようになるでしょう。

教科書 /Textbooks

小峯敦編『福祉の経済思想家たち』（増補改訂版）ナカニシヤ出版, 2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西沢保・服部正治・栗田啓子編『経済政策思想史』有斐閣, 1999年。
根井雅弘『経済学の歴史』講談社学術文庫, 2005年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経済学の成立と貧困の発見(1)【スミス】
- 第3回 経済学の成立と貧困の発見(2)【マルサス】、【リカードウ】
- 第4回 経済学の成立と貧困の発見(3)【J.S.ミル】
- 第5回 経済学の革命と社会改良【マーシャル】、【ピグー】
- 第6回 20世紀型福祉国家への模索(1)【ホブソン】、【ウェップ夫妻】
- 第7回 20世紀型福祉国家への模索(2)【ヴェブレン】、【コモンス】
- 第8回 20世紀型福祉国家への模索(3)【シュンペーター】
- 第9回 20世紀型福祉国家への模索(4)【ケインズ】
- 第10回 福祉国家の誕生(1)：イギリス【ケインズ】、【ペバリッジ】
- 第11回 福祉国家の誕生(2)：スウェーデン【ミュルダール】
- 第12回 「福祉国家」批判を超えて(1)【ハイエク】、【フリードマン】
- 第13回 「福祉国家」批判を超えて(2)リバタリアニズムとリベラリズム【ノージック】、【ロールズ】、【セン】
- 第14回 福祉国家の再編？：イギリス福祉国家とサッチャリズム【ネオ・リベラリズム】【サッチャリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績・小テスト ...30% 期末試験 ...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストにしたがって、授業を進めていきます。
どのような時代に生き、どのような問題意識で、それぞれの経済学者が何を考えたのか、考えてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学史、というと少し難しくとっつきにくい印象をもってしまうかもしれませんが。
しかし、さまざまな学者のさまざまな考え方を、時代のニーズとともに考え直してみると経済社会の発展をより立体的に捉えることができるようになると思います。
まずは、楽しんで過去の経済学者との対話をしましょう。

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【夜】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【夜】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 ブルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジユメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。
2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
David Besanko and Ronald Braeutigam. Microeconomics. Wiley. 4 edition. 2010.
Preston McAfee. Competitive Solutions: The Strategist's Toolkit. Princeton Press. 2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用・最適化】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク・余剰】
- 6-7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14回 TyingとMixed Bundling
- 15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

専門教育科目
選択科目A
現代経済学系

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門(経済学入門シリーズ)』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

ファイナンス論【夜】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。また、ファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。

ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 講義に関連する日本経済新聞の記事
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回～3回 投資の基本概N【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】【内部収益率】
- 4回～5回 債券【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】【単利】【複利】
- 6回～7回 株式【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回～12回 ポートフォリオ理論【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】【選好】
【相関度】【相関係数】【分散投資効果】【効率的フロンティア】【分離定理】
- 13回～15回 CAPM(資本資産評価モデル)【資本市場線】【証券市場線】【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験... 50% 期末試験... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に毎回出席して、内容を100%理解するように努めてください。
授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【夜】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社（1998）○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社（2005）○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
スティグリッツ『公共経済学』（上・下）（第2版）（2003）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から検討できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 日本の直接投資と貿易の変遷
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 日本のFTA, EPAの現状
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 東アジア共同体構想の歴史
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 ASEANを巡る動き
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 ASEAN+3, ASEAN+6
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 自由貿易論への賛否
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 TPPを巡る最新状況
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』有斐閣アルマ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。	
1回 国際収支	【複式簿記の原理】
2回 国際収支	【経常収支】 【資本収支】
3回 外国為替と国際通貨	【並為替・逆為替】
4回 外国為替と国際通貨	【基軸通貨】
5回 為替相場と円高・円安	【購買力平価】
6回 為替相場と円高・円安	【実効為替レート】
7回 戦後の国際通貨制度	【IMF】
8回 戦後の国際通貨制度	【変動相場制】
9回 発展途上国の開発金融	【世界銀行】
10回 発展途上国の開発金融	【直接投資】
11回 ドル体制の変遷	【プラザ合意】
12回 ドル体制の変遷	【世界金融危機】
13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【投資銀行】
14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【デリバティブ】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、学習支援フォルダにアップロードされる追加のプリントも、予習・復習の際に、必要に応じて参考にとすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論Iのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』(第3版)有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- | | |
|--|--------------|
| 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【安定成長協定】 |
| 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【ERM2】 |
| 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【アジア金融・通貨危機】 |
| 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【ロシア危機】 |
| 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【ドルペッグ】 |
| 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【不胎化介入】 |
| 7回 アメリカ発の金融危機 | 【サブプライム危機】 |
| 8回 アメリカ発の金融危機 | 【リーマンショック】 |
| 9回 欧州への金融危機の波及 | 【流動性危機】 |
| 10回 欧州への金融危機の波及 | 【ラトビア危機】 |
| 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【金融安定化法】 |
| 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【外貨準備】 |
| 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど) | |
| 14回 DVD学習内容の解説 | |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、追加の参考プリントを学習支援フォルダにアップロードするので、予習復習の際に参照すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結びつけて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（Ⅰ）：世界の余剰資金とアメリカ経済
【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済と新興経済国（BRICs）
【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の基本的分析視点（Ⅰ）-マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）-
- 第5回～第6回 国際マクロ経済の基本的分析視点（Ⅱ）-国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）-
- 第7回～第8回 国際収支表と国際収支の諸概念
【貿易収支】 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第9回～第10回 国際収支と日・米経済関係
【貿易黒字】 【貿易赤字】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ）
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ）
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高
- 第14回 世界経済の不均衡問題
【経常収支の黒字】 【債権大国：日本・中国】 【経常収支の赤字】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部 of 学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本

国際マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】 【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】 【金融政策】 【資本移動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

* 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくこと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF 体制 円建レート ドル建レート

円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入

不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

経済地理学I【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報論と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【夜】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の地域経済の変化について学び今後について見通す。
1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
藻谷浩介『デフレの正体』角川oneテーマ21、2010年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 経済発展と人口【地人口動態】
- 3回 戦後日本の人口構成の変化【生産年齢人口】
- 4回 デフレの正体と地域経済【高齢化社会】
- 5回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 6回 ちょっと面倒な情報社会論批判
- 7回 技術革新と経済発展【技術論】
- 8回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 9回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 10回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 11回 労働市場の変容【格差社会】
- 12回 企業の変容
- 13回 CNと都市
- 14回 地域経済の行方
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、発展著しい東アジア地域の経済動向を学習し、日本と東アジアとの今後の経済関係がどうあるべきかを考えてみることである。この授業では、まず東アジア経済を概観する。次に、経済発展の「成功」と「挫折」を経験してきた韓国に焦点を当てて、その発展過程を見る。そして、東アジアで現れている経済統合や地方間の国際交流などを取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済データで見る東アジア経済の現状
- 2回 世界の中の東アジア 【戦後の国際経済体制】【1970年代以上の国際分業】【プラザ合意】
- 3回 東アジア工業化戦略(1) 【1次産品輸出】【輸入代替工業化】
- 4回 東アジア工業化戦略(2) 【輸出志向工業化】【雁行形態型発展】
- 5回 技術の蓄積 【人的資本】【外国からの技術移転】【研究開発推進】
- 6回 開発主義と開発独裁 【政府の役割】【開発独裁】【開発政策の制度化】
- 7回 韓国の経済発展過程(1) 【経済開発5カ年】【財閥】【貿易の役割】
- 8回 韓国の経済発展過程(2) 【重化学工業化】【三低現象】【開発体制の台湾との比較】
- 9回 1990年代の韓国経済 【文民政権】【世界化・先進国化】【OECD加盟】
- 10回 アジア通貨危機の経緯 【21世紀型危機】【資本自由化】【通貨アタック】
- 11回 韓国におけるIMF危機の背景と経緯 【金融構造】【国際信用力】【総合金融会社】【IMF救済融資】
- 12回 IMF後の韓国経済 【4大改革】【V字型回復】【知識基盤経済】
- 13回 通貨危機に対する国際的対応策 【コンディショナリティ】【ASEAN+3】【通貨スワップ】
- 14回 東アジアにおける経済統合の動向 【ASEAN】【APEC】【日本の戦略】【地方の取組】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 学期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済の入門書を読んでおくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...? 授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりとお伝え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毛利良一『アメリカ金融覇権終りの始まり - グローバル経済危機の検証』新日本出版社、2010年4月。
藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはず。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学入門【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義のねらいは、経営学の考え方や課題を学ぶことにより、経営学について豊かなイメージと学問的関心をもってもらうことにあります。そのために何よりも大事なことは、生きた経営学を楽しく学ぶことです。

教科書 /Textbooks

プリントとレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経営学の考え方と発展I 【科学的管理法】、【管理過程論】
- 第2回 経営学の考え方と発展II 【人間関係論】、【行動科学】
- 第3回 経営学の考え方と発展III 【環境適応理論】、【企業戦略論】
- 第4回 企業と経営の仕組み
- 第5回 企業の発展と構造変化
- 第6回 企業の目的
- 第7回 企業の戦略
- 第8回 戦略と組織
- 第9回 企業の社会的責任
- 第10回 企業の国際化
- 第11回 企業の統治
- 第12回 アメリカ的経営、ドイツ的経営、日本的経営、中国的経営
- 第13回 日本的経営のジレンマと変貌
- 第14回 日本企業の再生と未来像
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題、小テストを含む) 30%, 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「なし」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされている基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

六法 (出版社の指定はありません)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法律用語辞典 (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道德との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1(民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2(契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3(民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4(クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法1(社会契約としての公法)
- 14回 国家と法2(人権と国家権力)
- 15回 国家と法3(違憲審査権)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来れなくなりますので、集中力を切らさないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、企業や個人でのコンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、単にコンピュータを使うのではなく、コンピュータシステムの本質を理解することを目的とする。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組み、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【ファイル】【ユーザインタフェース】
- 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【DFD】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジコンテーブル】
- 9回 コンピュータでのデータ表現と計算【2進数】【誤差】
- 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
- 11回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
- 12回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【i-Japan計画】
- 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
- 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

内容が広範囲にわたるので、自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
受講生は「これからの企業に何が求められ、企業はそれにどのように対応しているか」を学ぶことになります。
本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』（佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン(本講義および企業論についての概要説明)
- 2回 企業とは何かI【企業の定義】、【企業の本質】
- 3回 企業とは何かII【企業の目的】、【企業は誰のものか】
- 4回 現代企業の諸形態I【企業形態】
- 5回 現代企業の諸形態II【持分会社】、【株式会社】
- 6回 株式会社の発展I【東インド会社】、【資本の証券化】
- 7回 株式会社の発展II【経営者支配】、【企業統治】
- 8回 企業結合の諸形態【企業連合】、【トラスト】、【コンツェルン】、【M&A】
- 9回 日本の会社機関と企業統治【日本の企業統治】、【委員会設置会社】
- 10回 企業統治の国際比較I、【米国の企業統治】
- 11回 企業統治の国際比較II、【ドイツの企業統治】
- 12回 企業に求められる21世紀型CSR【企業と社会】、【CSR】
- 13回 企業の環境経営【環境マネジメント・システム】
- 14回 SRIの広がりとその課題。【SRI(社会的責任投資)】、【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など、必ず何らかの組織に属して生きています。よって、組織のマネジメント、すなわち組織をいかに経営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。マネジメントを学ぶことは、自分の生活とかけ離れた理論を学ぶということではなく、現代社会に生きる私たちにとって不可欠な、重要な考え方を学ぶことなのです。

本講義では、経営学やマネジメントの基本的な考え方を知り、自らが生きている組織や社会のマネジメントに興味をもてるようになること、そして、自身が所属する組織において、少しでもマネジメントの考え方を活かしていくことができるようになることを目標として学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『ひとりで学べる経営学』（三戸 浩・池内 秀巳・勝部 伸夫 著）文真堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『管理とは何か』（三戸 公著）文真堂 4,200円、
- 『経営学100年の思想』（宮田 矢八郎 著）ダイヤモンド 3,200円、
- 『はじめて学ぶ経営学』（中野 裕治・貞松 茂・勝部 伸夫・嵯峨 一郎 編）ミネルヴァ書房 2,800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と企業
- 2回 企業における所有と支配について
- 3回 古典的管理論に基づくマネジメント(1) 【科学的管理と管理過程】
- 4回 古典的管理論に基づくマネジメント(2) 【ヒューマン・リレーションズ】
- 5回 マネジメントの新次元
- 6回 意思決定論的マネジメント
- 7回 人間性への方向を示すマネジメント論
- 8回 現代管理論の展開
- 9回 コンフリクトのマネジメント
- 10回 マネジメントにおける創造性
- 11回 日本の経営について
- 12回 グローバル化とマネジメント
- 13回 企業の社会的責任について
- 14回 これからの社会が求めるマネジメント
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物、受講態度)...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
また、各回の授業で配布するレジュメを導入として、学習を深めていってください。
専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。
自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

企業と社会 組織と管理 人と組織 相違性(異質性) 科学と経験

福祉国家論 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療に関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

データ構造【夜】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【夜】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
第2回：データベースシステム
第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
第5回：リレーショナルデータベース
第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
第8回：ERモデルとは【ERモデル】
第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
第10回：正規化とは【正規化】
第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
第12回：データベース設計【データベース設計】
第13回：データベース設計方法
第14回：データベース設計評価
第15回：まとめ
(進行状況等により内容は変更になる場合があります。受講人数がコンピュータ教室に収容可能な場合はデータベースソフトの演習を実施します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

マーケティングI【夜】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。しかしこれが企業の戦略行動に具体的に活かされているかどうかは疑問が残り、しかも成熟市場下の現在、マーケティングをめぐる分析フレームワークも高度化してきている。
ここでは、このマーケティングをI(前期)とII(後期)に分け、マーケティングIでは、基礎的知識と科学的方法論をまず身につけることを目標とし、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 "
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 "
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 出席・課題等の平常点・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

前半：使用しない。
後半：清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 中間試験
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、(2010年11月)、1,890円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

社会福祉原論 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2 回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3 回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5 回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7 回 福祉政策の関連領域【保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9 回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10 回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12 回 福祉政策の国際比較
- 13 回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14 回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の内容について、翌週の授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【夜】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口の約半数（5400万人）を占める雇用労働関係は、私たちの生活の基盤である。労働者と使用者との労働条件をめぐる法は、労働関係法として多様な法律からなっているが、その中でも、労働組合と使用者とをめぐる労使関係法を理解することがこの講義の目的である。具体的には労働組合とは何か。団体交渉とはどのようなことを行うのか。ストライキを行うとはどういうことか。これらの基本的な問題を取り扱う。しかし労働組合を中心とした労使関係は、現実の日本社会では重要であるが、組織率の低下も顕著であり、その役割も低下しているのが現状である。そこで講義では、労働法全体の中で労使関係の役割を常に意識しながら問題を見ていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 労使関係法と労働法全体の見取り図
2. 労使関係の当事者としての労働組合
3. 労働組合法と労働基準法
4. 団体交渉
5. 団体行動
6. 団体行動と賃金
7. 組合活動
8. 労働協約
9. 不当労働行為I
10. 不当労働行為II
11. 労働委員会と裁判所
12. 労働組合の現在と未来
13. 労働法における労使関係法
14. 労働委員会と裁判所
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポート提出、出欠状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に次回の講義についての課題を与えるので、講義のときに説明できるようにしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

新聞記事を講義資料として使うことが多いので、日々の新聞記事について、気を付けてチェックしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は一方的なものでなく、学生諸君に質問や意見を述べてもらうことにしたい。氏名を指名されたら「わかりません」という言葉は、この講義では使ってはならない禁句（タブー）である。このことの意味は講義の冒頭で理解してもらえらと思います。

キーワード /Keywords

憲法、27条、28条、労働基本権、労働組合、団体交渉、組合活動、争議行為、労働協約

途上国開発論 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われているが、同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えて欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民衆学の視座から』岩波新書、1994年
* 菊地京子編『開発学を学人のために』世界思想社、2001年、1900円
* 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起
- 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発」の定義
- 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって
- 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発
- 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策
- 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在
- 第7回 居住問題～スラム・スクワッター居住区
- 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）
- 第9回 環境問題～ゴミ問題を中心に
- 第10回 途上国での農村・農業問題
- 第11回 途上国での山村・漁村での林業・漁業の在り方
- 第12回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA
- 第13回 台頭するNGO～インド・バングラシユの事例より
- 第14回 地域内共生～隣人関係の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施。途上国に関するさまざまなテレビ番組の視聴。

履修上の注意 /Remarks

英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発

国際法II【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【夜】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

地方行政改革論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年は、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革：係制とグループ制】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革：組織内分権の理論】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革：組織内分権の実際】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。授業中の飲食・私語・携帯電話は禁止します。

キーワード /Keywords

社会サービス法【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、介護、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、介護保険法の改正、障害者自立支援法の制定・改正、福祉領域における契約制度の導入など、制度の根本的改革が行われており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。本講義は、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係と給付構造～
- 第4回 医療保障③ ～医療保険の保険給付①～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付②～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政～
- 第7回 医療保障⑥ ～高齢者医療に関する法～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式①～
- 第10回 社会福祉③ ～社会福祉の給付方式②～
- 第11回 社会福祉④ ～サービス利用の法律関係①～
- 第12回 社会福祉⑤ ～サービス利用の法律関係②～
- 第13回 社会福祉⑥ ～福祉サービスの提供体制
- 第14回 社会福祉⑦ ～福祉サービス利用者の権利擁護システム～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「契約法」「不法行為法」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとっては高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。企業ファイナンスIでは、企業における資金の流れと財務的意思決定に関するさまざまな基礎知識を学習し、財務的意思決定が会計数値にどのように反映され、またどのような影響を与えるかを学習します。さらに、日本企業の財務的意思決定の特徴や経営者に最適な財務的意思決定を行わせるためのメカニズム（コーポレート・ガバナンス）について学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読んで奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用します。2004年発行の初版は内容が若干異なりますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション：企業の財務的意思決定とは？ 【投資】 【資本調達】 【配当】
- 第2回：企業ファイナンスの世界(a) 【レバレッジ効果】 【流通市場】
- 第3回：企業ファイナンスの世界(b) 【1株当たり利益】 【キャッシュフロー】 【減価償却費】 【内部留保】
- 第4回：投資の基礎知識 【設備投資】 【金融投資】 【ROA】
- 第5回：資本調達の基礎知識1(1)：自己資本調達(a) 【IPO】 【創業者利得】 【新株発行】 【公募時価増資】 【第三者割当増資】
- 第6回：資本調達の基礎知識1(2)：自己資本調達(b) 【内部資本調達】 【ROE】
- 第7回：資本調達の基礎知識2(1)：負債資本調達(a) 【流動負債】 【固定負債】 【CP】 【普通社債】
- 第8回：資本調達の基礎知識2(2)：負債資本調達(b) 【転換社債】 【ワラント債】
- 第9回：配当の基礎知識 【配当性向】 【配当利回り】 【自社株買い戻し】 【株式分割】
- 第10回：日本企業の財務政策(1) 【高度経済成長期】 【自己資本比率】 【銀行借入】 【社債発行規制】 【企業の銀行離れ】
- 第11回：日本企業の財務政策(2) 【バブル経済】 【エクイティファイナンス】 【安定配当】 【不良資産】 【債務免除】
- 第12回：日本企業の財務政策(3) 【安定配当】 【配当性向】 【自社株買い】
- 第13回：コーポレート・ガバナンス(1) 【エージェンシー問題】 【取締役会】
- 第14回：コーポレート・ガバナンス(2) 【経営者報酬】 【敵対的買収】
- 第15回：コーポレート・ガバナンス(3) 【銀行によるモニタリング】 【メインバンク】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

講義資料を配布し、それに沿って授業を行う。毎回、配布済のすべての講義資料を持参すること。欠席した場合は、学習支援フォルダ（マネジメント研究科に配置されている）からダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。企業ファイナンスIIでは、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。具体的には、株価の決定メカニズム、企業の資本コスト、企業の最適な投資決定・資本構成・配当政策に関する基礎的な理論を学習します

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用します。2004年発行の初版は内容が若干異なりますので注意して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：企業ファイナンスの世界【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 第2回：現在価値計算【現在価値計算】【リスク・プレミアム】
- 第3回：金融商品の価格決定(1)【社債価格】【株価】【配当割引モデル】
- 第4回：金融商品の価格決定(2)【一定配当モデル】【一定成長モデル】
- 第5回：金融商品の価格決定(3)配当パターンが変化する場合の株価計算
- 第6回：金融商品の価格決定(4)【企業価値】【DCF法】
- 第7回：資本コスト(1)【自己資本コスト】【負債資本コスト】【WACC】
- 第8回：資本コスト(2)【WACC】
- 第9回：資本コスト(3)【CAPM】【 β 】
- 第10回：投資決定の基礎理論(1)【正味現在価値法】
- 第11回：投資決定の基礎理論(2)【内部収益率法】【投資の資本コスト】
- 第12回：資本構成の基礎理論(1)【MMの資本構成無関連命題】
- 第13回：資本構成の基礎理論(2)【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 第14回：配当政策の基礎理論【MMの配当政策無関連命題】【証券税制】
- 第15回：予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

主に試験で評価するが、授業中の問題演習発表も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

企業ファイナンスIを履修していることが望ましい。
講義資料を配布して解説する。毎回、配布済のすべての講義資料を持参することが望ましい。欠席した場合は学習支援フォルダ(マネジメント研究科に配置されている)からダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス（企業統治）は近年、日本でも欧米でも大きな注目を集めている。それは、ガバナンス問題が企業の在り方や存在意義にかかわっているだけでなく、企業の活力や国際競争力を左右する戦略要因になってきているからである。本講義の狙いは、会社法や経済学の成果を活用しながら、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、日本におけるガバナンスの改革の方向性について検討することにある。

教科書 /Textbooks

レジュメとプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コーポレートガバナンスとは何か
- 第2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 第3回 企業主権論：株主理論とステークホルダー論
- 第4回 ガバナンス方法論：内部コントロールと外部コントロール
- 第5回 エージェンシー理論とM&A
- 第6回 アメリカの内部監督システム
- 第7回 ドイツの内部監督システム
- 第8回 日本の内部監督システム
- 第9回 中国の内部監督システム
- 第10回 経営者の報酬問題
- 第11回 日本的ガバナンスの功罪
- 第12回 日本のガバナンス改革：監査役設置会社の事例
- 第13回 日本のガバナンス改革：委員会設置会社の事例
- 第14回 日本的経営の再生に向けて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（課題、小テストを含む）30%、 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「なし」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

6月頃発売予定の中小企業庁編「2011年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法【夜】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『テキスト 独占禁止法(再訂二版)』(波光 巖他 青林書院 ¥4,935)
- 『ベーシック経済法 独占禁止法入門(第3版)』(有斐閣アルマ)(川濱 昇他 有斐閣 ¥1,995)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
- 6回 私的独占
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力(市場支配力) カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度 再販売維持制度
優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 課徴金

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の譲渡】【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【合併】【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解してもらう。われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。また、地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動など）やアメリカ、ドイツの環境問題やその対策についても考えてみる。

教科書 /Textbooks

- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 2回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
- 3回 環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口）
- 4回 日本の環境問題と歴史
- 5回 環境権、環境政策の特徴1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 6回 環境権、環境政策の特徴2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 7回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 8回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 9回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化
- 13回 生物多様性、国際環境問題(黄砂、光化学スモッグ、海ごみ)
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・発表 - 20%、レポート - 30%、期末試験 - 50%
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題。

Advanced Reading and Discussion 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a Reading Log and to create their own Study Guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples and Marriage
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Consumerism
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed Reading & Discussion I and Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading Comprehension; Vocabulary Development; Speaking Skills

ビジネス英語研究【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導A【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、職業と産業および経済社会の発展との関係についての理解を深め、次いで、職業指導・進路指導の係る基礎理論を修得する。さらに、高卒者の職業生活移行への課題を明らかにし、適切な職業指導を行うための資質・能力の育成を目指す。
講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 本講座のガイダンスおよび職業の概念
- 第 2 回 産業構造の変化と職業
- 第 3 回 望ましい職業観
- 第 4 回 能力・適性」の解釈
- 第 5 回 自己概念と自己変革
- 第 6 回 進路指導(職業指導)の法的規定
- 第 7 回 進路指導(職業指導)の諸活動【個人理解】、【進路情報】、【啓発的経験】
- 第 8 回 進路指導(職業指導)の諸活動【進路相談】、【進路選択・決定の指導】、【追指導】
- 第 9 回 職業適性検査(GATB)・・・(講義及び演習)
- 第 10 回 職業レジネステスト(VRT)・・・(講義及び演習)
- 第 11 回 商業高校卒業生の進路および就職状況の推移。
- 第 12 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職環境の変化】、【就職の仕組み】
- 第 13 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職慣行の見直し等】
- 第 14 回 企業が求める人材について。
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導B【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、「職業指導A」の学習に引き続いて、高等学校における職業指導・進路指導の具体的展開について学び、その上で、キャリア教育への展開やデュアルシステムの動向等について修得し、適切な職業指導を行うための基礎的な実践的指導能力の育成を目指す。
講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 職業指導 (進路指導) の全体計画の立案。
- 第 2 回 ホームルーム活動における職業指導 (進路指導) 計画。
- 第 3 回 ホームルーム活動における指導の展開 (例 1 - 仕事と生きがい -)
- 第 4 回 ホームルーム活動における指導の展開 (例 2 - 職業レジネステストの活用 -)
- 第 5 回 進路相談の具体的展開 (例 1 - 進路適性の理解を深める就職相談 -)
- 第 6 回 進路相談の具体的展開 (例 1 - 進路計画の立案を助ける進学相談 -)
- 第 7 回 インターンシップの意義
- 第 8 回 インターンシップの具体的事例
- 第 9 回 インターンシップの評価と課題
- 第 10 回 就職活動のスケジュールと手続きおよび具体的指導内容。
- 第 11 回 職業指導からキャリア教育へ。
- 第 12 回 キャリア教育の基本方向。
- 第 13 回 キャリア教育推進のための方策。
- 第 14 回 デュアルシステムの動向
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況 (課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】【学校】【生活と文化】【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】【教育課程の編成原理】【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的技能を学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合掌コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職の科目です。教員をめざす学生にふさわしい、真摯な授業態度と積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、市民的技能、自治の力

教育方法学【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的なシステムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房 第1部

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30点、レポート15点、期末試験55点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読んで授業に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を希望する学生には、それにふさわしい真摯な授業態度と活動への意欲的な参加を期待したい。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ・不登校

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%-

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9回 家庭における教育【教育への動機】
- 10回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12回 教室内過程【生徒間関係】
- 13回 教育評価(測定とその活用)
- 14回 現代の教育問題について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%
※小テストは3~4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と指導
- 4回 組織としての学校
- 5回 組織としての学校における教員
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教員の指導力をめぐって
- 8回 教育活動と著作権
- 9回 教育情報の取り扱い
- 10回 教育情報の発信
- 11回 学校の安全
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における道徳教育について学修するためのものである。この学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords